

319-275

參謀本部編纂



列國陸軍ノ現況

明治四十五年七月 東京偕行社藏版

明治
45. 7. 12
丙交

緒言

一 本書編纂ノ目的ハ列國ノ國勢及陸軍軍制ノ大要ヲ叙述シ以テ本部附並本部派遣尉官等ノ參考資料ニ供セントスルニ在リ

二 軍制ハ各國概ネ其ノ一部分ヲ公表セサルヲ常トシ特ニ戰時編制、兵力等ニ關スルモノニ於テ然リトス從テ之ニ關スル歐米各國ノ書籍中其ノ所説ヲ異ニスルモノ多ク本書編纂ニ當リテモ亦諸種ノ參考書ニ就キ其ノ小異ヲ捨テテ大同ヲ取レル所尠ナカラス

三 列國ノ軍事ハ日進月歩常ニ改變シテ止マサルヲ以テ本書編纂中ニ於テ已ニ其ノ一部陳腐ニ屬シタルモノナキヲ保セ

ス尙ホ甚シク確實ヲ期シ難キ事項ハ之ヲ省略セル所アリ將
來漸ヲ以テ補修訂正ヲ要ス

明治四十五年二月

列國陸軍ノ現況

(國名ハ「イロハ」順ニ依ル)

目次

伊太利王國	一	頁數
英吉利	三六	
印度	六一	
露西亞	八六	
「ハイチ」共和國	一三二	
巴奈馬共和國	一三六	
「ブラダ」共和國	一三九	
日本	一四五	
「ニカラガ」共和國	一七六	
目次	一	

新西蘭	一七八
「ポリビア」	一八五
「ホンヂウラス」共和國	一九六
葡萄牙國	一九九
白耳義國	二二〇
波斯	二四三
秘露共和國	二五四
「ヴェネズエラ」共和國	二六三
土耳其	二七〇
獨逸	二八五
「ドミニカン」共和國	三四九
智利共和國	三五二

「リベリヤ」	三六五
羅馬尼亞	三六六
「ルクセンブルグ」	三八八
奧太利匈牙利	三九〇
和蘭	四三五
「オーマン」國	四五〇
●加奈陀	四五二
「グアテマラ」共和國	四六一
「子パール」國	四六四
●南阿聯邦	四六六
「ウルグアイ」共和國	四七〇
諾威	四七八

「クレータ」	四九四
佛蘭西	四九九
「ブータン」國	五三五
伯刺西爾共和國	五三六
「ブルガリア」國	五五三
哥倫比亞共和國	五七一
「コスタリカ」共和國	五七五
公果	五七八
濠洲聯邦	五八二
埃及	五九二
「エクワドル」共和國	五九八
丁抹國	六〇四

亞米利加合衆國	六一一
「アビシニヤ」	六四五
阿富汗斯坦	六四九
亞爾然丁共和國	六五六
「サルヴァドル」共和國	六七九
「サモス」	六八四
希臘	六八五
玖馬共和國	六九九
墨西哥共和國	七〇四
支那	七一八
暹羅	七六七
摩洛哥國	七八〇

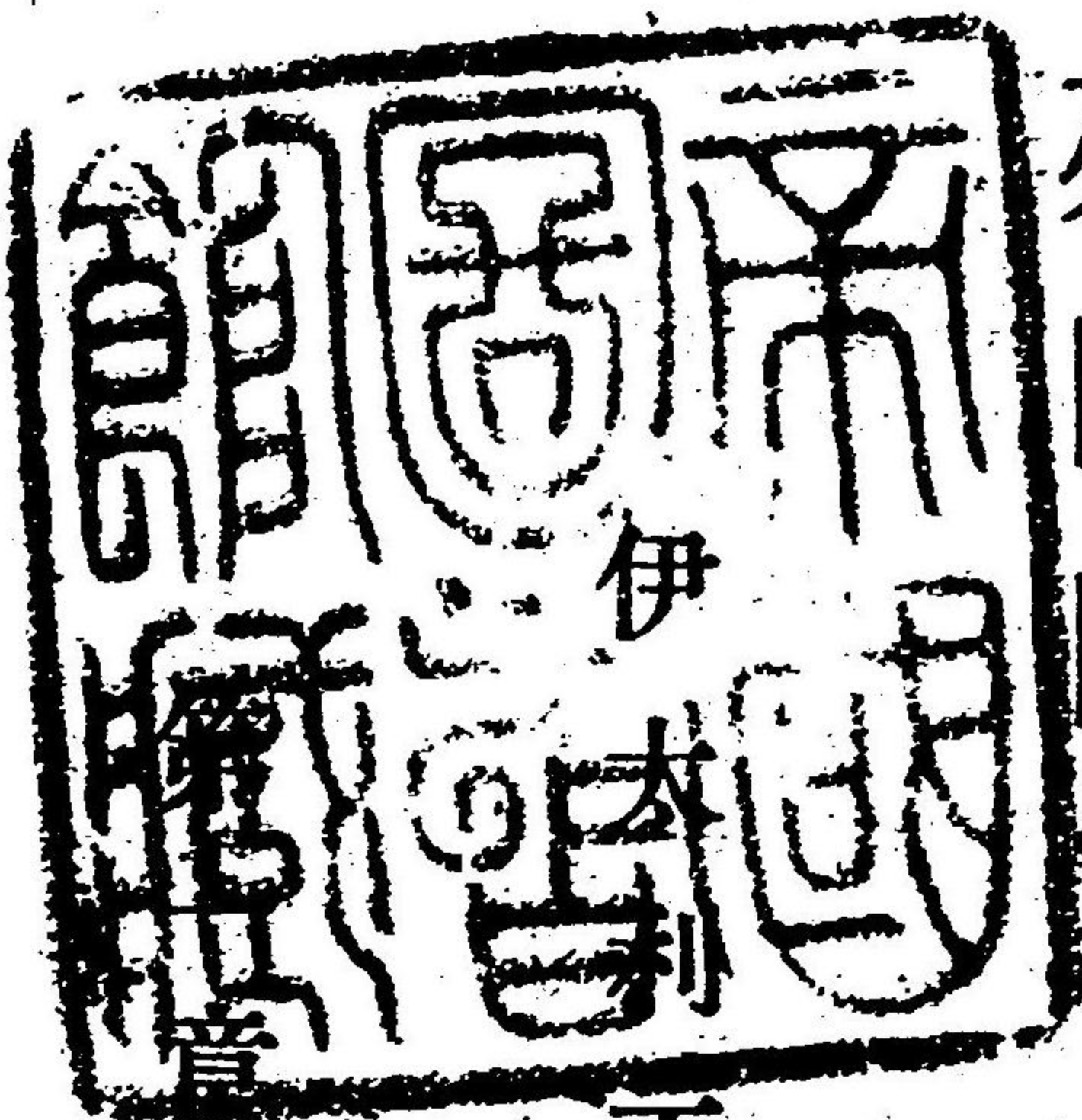
「モンテネグロ」	七八七
「セルヴィア」	七九六
瑞典	八一五
瑞西國	八三二
西班牙國	八五四

附 表

一 列國軍用銃一覽表	
二 各國現用野砲一覽表	
三 各國山砲一覽表	
四 各國常備團隊比較對照表	
五 列國人口ト陸軍力並歳出ト陸軍費比例一覽表	

目 次 終

列國陸軍ノ現况



伊本利王國

國勢ノ概要

第一節 政治組織

伊太利ハ立憲王國ニシテ現國王ハ「ヴィクトリア・エマヌエル」第三世ト稱ス行政權ハ國王之ヲ統纒シ責任アル内閣諸大臣ヲシテ之ヲ實施セシム
 伊國議會ハ二院制ニシテ上院ハ國王ノ選任スル終身議員ヲ以テ組織シ議員ノ數ニ制限ヲ置クコトナシ下院ハ五百八人ノ議員ヨリ成リ其ノ任期ハ五年ニシテ普通選舉ニヨリ全國五百八個ノ選舉區ヨリ選出セラル

伊太利王國 第一章 國勢ノ概要

地方行政ノ爲メ全國ヲ六十九州ニ分チ州ハ更ニ郡又ハ區ニ郡區ハ之ヲ邑ニ分チ各長ヲ置ク而シテ各邑ニハ自治制ヲ許ス

第二節 面積及人口

面積ハ二十八萬六千六百八十二平方吉米ニシテ我カ本州、四國及九州ヲ合シタルモノヨリ稍小ニシテ人口ハ千九百十年一月一日ノ調査ニ依レハ三千四百五十六萬五千九百八十八人ニシテ一平方吉米ニ於ケル密度百二十一人ヲ算シ歐州中最人口稠密ナル地ノ一ニシテ殆ント我カ帝國ト其ノ密度ヲ同クス

第三節 豫算

豫算年度ハ七月一日ニ始マリ翌年六月盡日ニ終ル
千九百十一年度ニ於ケル總豫算ハ約九億四千四百八十九萬四千圓ニシテ内
陸軍豫算ハ一億三千七百六十七萬五千圓ナリトス

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

伊太利國軍ハ之ヲ分テ常備軍、遊動民兵軍(後備軍)及地方民兵軍(國民軍)トナス而シテ戰時ニ在テハ常備及遊動民兵ノ大部ヲ以テ野戰軍ヲ編成シ遊動民兵ノ一部ヲ以テ衛戍地ノ守備ニ任セシメ地方民兵軍ヲ以テ地方ノ守備ニ任セシム

第二節 中央統轄機關

伊太利王國陸軍ノ最高指揮權ハ國王ニ屬スト雖モ平時ニ在テハ陸軍大臣及參謀總長ハ國王ノ委任ニ依リ陸軍ノ行政及統帥ノ事務ヲ實施ス
右ノ如ク現今伊國ニ於ケル陸軍ノ行政及統帥事務ノ最高中樞機關ハ陸軍省及參謀本部ナリト雖モ尙ホ此ノ外ニ國防上ノ重要問題及陸海軍兩省ニ關スル事項ヲ討議ス可キ高等國防會議並陸軍大臣ニ隸屬シテ其ノ事務ヲ補助ス可キ若干ノ補助機關アリ

陸軍省 陸軍省ハ軍政上ノ最高官衙ニシテ陸軍大臣ハ軍政ノ最高代表者トシ

テ他ノ國務大臣ト等シク議會ニ對シ責任ヲ有ス

陸軍省ハ左ノ諸局ヨリ成ル

官房

次官專屬書記官

總務局

將校人事局

陸軍文官ノ人事及恩給局

砲工兵局

經理局

徵兵及兵事局

會計檢査局

馬政監部

參謀本部 參謀本部ハ參謀總長ノ統督スル所ニシテ戰爭ノ準備、編制、動員、集中等ヲ研究シ且計畫ス

參謀本部ハ參謀總長官房、作戰部及監督部ノ三部ニ分レ尙ホ之ニ陸地測量部ヲ配屬セラル

高等國防會議

平時王國陸上及海面ノ防禦計畫ニ關スル諸問題ノ研究且軍隊及艦隊ノ編制並組織ヲ監督シ戰時ニ於ケル陸海兩軍運用統一ノ準備ニ任シ内閣總理大臣主宰ノ下ニ在テ戰時豫定ノ軍司令官、同艦隊司令官、參謀總長、海軍參謀部長、陸海軍大臣、陸海軍大將ヲ以テ組織ス但議員中陸海軍大臣ハ發言權ヲ有スト雖モ決議權ハ之ヲ有セサルモノトス

陸軍大臣ノ補助機關ト稱ス可キモノハ軍事參議會及各兵科各部ノ總兵監等ニシテ軍事參議會ハ陸軍大臣ヲ議長トシ參謀總長、戰時豫定軍司令官等ヲ以テ組織シ陸軍ニ關スル諸問題ニ就キ意見ヲ陳述シ大臣ノ顧問タルニ任スルモノトシ各兵科各部ノ總監ハ其ノ固有兵科及部ノ専門的事項ニ關スル指揮統一ノ任ニ當ルモノトス今此等總兵監部ノ名稱ヲ舉クレハ左ノ如シ

憲兵司令長官部、山地隊總監部、騎兵總監部、砲兵總監部、工兵總監部、陸軍衛生部總監部

第三節 地方統轄機關

陸軍ノ地方軍政及統帥ノ最高機關ハ軍管區司令部(軍團ノ數ニ應シ全國ヲ十二軍管區ニ分ツ)ニシテ其ノ司令官タル軍團長ハ其ノ管區内ニ存在スル陸軍ノ諸官衙諸軍隊諸學校及諸建築物ニ關スル軍事事務ヲ統轄ス故ニ一般ノ軍制系統ヨリ之ヲ見ルトキハ陸軍ノ地方軍事事務ハ總テ軍團長ノ統フル所ナリトス

各軍管區ハ二個ノ師管(第九軍管區ハ三箇)ニ區分セラル故ニ全國ハ二十五師管ニ分ル師管司令官ハ師團長ニシテ師團長ハ軍團長ノ指示ニ從ヒ地方軍政ニ關シテハ管内ノ秩序及軍紀ヲ維持シ且師團ノ必要ノ爲ニ運轉スル諸部ノ動員準備ニ任シ軍隊ノ指揮ニ關シテハ其ノ管内ニ駐屯スル線列歩兵及獵兵ノ指揮ヲ掌ル

又徵兵事務及在郷軍人ノ事務ニ關シ全國ヲ八十八聯隊區ニ區分ス但八十八聯隊區中ノ六個ハ比較的人口多キヲ以テ徵兵事務上之ヲ二個ノ聯隊區ト看做セリ故ニ徵兵事務上ヨリ之ヲ云フトキハ聯隊區ノ數ハ九十四個ニシテ常備軍線列歩兵ノ數ニ一致セリ

第四節 兵役法

伊太利國民タル男子ニシテ武器ヲ執ルニ堪フル者ハ滿二十歳ニ達スル年ノ終ヨリ滿三十九歳ニ達スル年ノ十二月三十一日ニ至ル十九年間兵役ニ服スルノ義務ヲ有ス然レトモ非常ノ場合ニ於テハ滿二十歳ノ制限ヲ繰上ケ徵集スルコトヲ得壯丁ニシテ兵役ニ適スル者ハ之ヲ三種ニ分ツ各種ノ服役年限左ノ如シ

種 類	常 備		遊 動 民 兵		地 方 民 兵	計
	現 役	無 期	期 滿	休 息		
第 一 種	二 年	六 年	四 年	七 年		一九
第 二 種	一 年	八 年	四 年	七 年		一九
第 三 種	一 年	一 年	一 年	七 年		一九

第一種及第二種ハ平時ニ於テ何等服役免除ノ特典ヲ受ク可キ資格ヲ有セサル者ヨリ成リ第三種ハ家事上ノ故障ニ依リ平時地方民兵以外ノ服役ヲ免除セララル者ヨリ成ル而シテ第一種ト第二種トノ異ル所ハ前者ハ年々常備軍ノ新兵ニ充ツ可キ者ヨリ成リ後者ハ我カ國ノ補充兵ニ相應スルモノニシテ年々ノ徵

募數ニ超過シタル者ヨリ成ルニ在リトス

第五節 將校下士

第一款 將校及下士卒ノ階級

伊國將校ノ階級ハ我カ國ニ於ケルモノニ同シ又下士卒ハ之ヲ下士伍長及兵卒ノ三級ニ大別シ更ニ之ヲ若干ノ階級ニ分ツ即チ左ノ如シ

聯隊下副官大隊下副官中隊下副官曹長軍曹(以上下士)上等伍長伍長(以上伍長)
一等卒兵卒(以上兵卒)

第二款 將校下士ノ補充及進級

一 將校

將校ノ補充ハ三種ノ出身者ニ依ル即チ左ノ如シ

第一 陸軍士官學校出身者 士官學校ハ步騎兵少尉候補者ヲ養成スルモノト砲工兵少尉候補者ヲ養成セルモノトノ二種アリテ各兵科ノ少尉ヲ補充ス

第二 下士出身者 下士ニシテ步騎兵士官學校ノ特別課程ヲ卒業シタル者ヨ

リ要員ノ四分ノ一ヲ補充ス

第三 補足役將校出身者 補足役(我カ國ノ豫備役ニ相當ス)少尉ニシテ現役少尉タラントコトヲ希望スル者ニ就キ競争試験ヲ行ヒ良成績ヲ得タル者ヲ現役

少尉ニ任命ス

將校ノ進級法ニハ古參ノ順序ニ依ルト拔擢ニ依ルトノ二法アリ但古參順序ニ依ルモノト雖モ其ノ能力カ上級職務ニ適當ナルコトヲ認定セラルルヲ要スルモノニシテ能力ナシト認定セラレタル者ハ古參者ト雖モ進級ノ權利ヲ有セス進級ノ原則左ノ如シ

一 將校ハ其ノ上級職務ニ缺員アルニ非ラサレハ進級スルヲ得ス
二 將校ハ一定ノ勤務年限ニ達スルニ非ラサレハ進級スルヲ得ス而シテ其ノ勤務年限最下限ハ階級ニ從ヒ左ノ如ク變化ス

少尉 三年(衛生部少尉ハ二年ニシテ内補)

中尉 四年

大尉以上 二年

三 進級法左ノ如シ

- (a) 少尉ヨリ中尉ニ進級スルニハ専ラ古參順序ニ依ル但砲工實施學校卒業ノ砲工兵少尉ハ其ノ卒業序列ニ依ル
 - (b) 中尉ヨリ大尉ニ進級スルハ古參順序ニ依リテ要員ノ四分ノ三拔擢ニ依リテ四分ノ二ヲ進級セシム
 - (c) 大尉ヨリ少佐ニ進級スルハ専ラ古參順序ニ依ル但衛生部大尉ニ在テハ中尉ヨリ大尉ニ進級スル場合ニ同シ
 - (d) 少佐ヨリ中佐ニ進級スルハ専ラ古參ノ順序ニ依ル
 - (e) 大佐及將官ノ進級ハ専ラ拔擢ニ依ル
- 拔擢進級ノ候補者及古參進級ノ候補者ノ一部ハ進級ノ能力ヲ判定セラルル爲メ進級試験ヲ受クルヲ要ス然レトモ參謀適任證書ヲ有スル將校ハ此ノ試験ヲ受クルコトナシ

二 下士

下士ノ補充ハ主トシテ軍曹候補生ニシテ其ノ教育課程ヲ卒業シタル者ヲ以テ

ス此ノ課程ハ毎年陸軍大臣ノ指定スル若干ノ部隊ニ於テ之ヲ實施スルモノニシテ候補者ノ採用條件左ノ如シ

徵集セラレタル壯丁中讀書寫字ヲナシ得ル者ニシテ其ノ部隊ノ進級委員ニヨリ拔擢セラレタル者

前項ノ條件ヲ充セル部隊ノ志願兵兵卒伍長及上等伍長

以上ノ候補者ハ課程ニ入りタル後六箇月ニシテ伍長ニ任セラレ次テ三箇月ノ後上等伍長ニ進ミ課程ノ終ニ於テ試験ニ依リ軍曹ニ任命セララル

下士ノ進級法左ノ如シ

軍曹ヨリ曹長ニ進級スルハ服役三年以上ニシテ且六箇月軍曹ノ階級ニ在ルヲ要ス但其ノ進級ハ古參順序ニ依ル

曹長ヨリ中隊下副官ニ進ムニハ四年以上ノ停年ヲ有スル曹長ニシテ少クモ七年以上服役シ進級ニ適スル技能ヲ有スルヲ要ス而シテ其ノ進級ハ要員ノ三分ノ一ハ拔擢ヲ以テシ他ノ三分ノ二ハ古參順序ニ依ル

中隊下副官ヨリ大隊下副官ニ進級スルニハ三年間以上ノ勤務年限ヲ又大隊

下副官ヨリ聯隊下副官ニ進級スルニハ四年以上ノ勤務年限ヲ有スルヲ要ス
而シテ其ノ進級ハ總テ拔擢ニ依ル

第三款 將校下士ノ給與

將校ノ俸給年額左ノ如シ

少尉二千法

中尉

停年五年未滿 二千四百法
停年五年乃至十年 二千八百法
停年十年乃至十五年 三千四百法
停年十五年以上 三千六百法

大尉

停年五年未滿 四千法
停年五年乃至十年 四千四百法
停年十年以上 四千八百法

少佐

停年五年未滿 五千五百法
停年五年以上 五千五百法

中佐

停年五年未滿 六千法
停年五年以上 七千法

大佐八千法

少將一萬法

中將一萬二千法 軍團長一萬五千法

下士ノ給料日額左ノ如シ

聯隊下副官三法六九

大隊下副官三法一九

中隊下副官二法六九

曹長二法

二七 軍曹一法八七

第六節 常備軍ノ平時編制

第一款 諸兵科

一 歩兵

歩兵ハ左ノ四種ヨリ成ル

撰抜兵 線列歩兵 獵兵 「アルプス」兵

撰抜兵及線列歩兵ハ其ノ選兵法ニ多少ノ差異アルノ外編制教育勤務等毫モ異ル所ナキモノトス而シテ撰抜兵及線列歩兵ハ旅團ヲ以テ其ノ最高單位トシ一旅團ハ二聯隊ヨリ成リ一聯隊ハ四中隊編制ノ大隊三箇及補充一隊ヨリ成ル尙ホ各聯隊ハ二挺ヨリ成ル機關銃一隊及戰時遊動民兵部隊編成ノ基幹トシテ將校一下士卒九十ヨリ成ル一箇ノ幹部隊ヲ有ス

撰抜兵及線列歩兵一聯隊ノ平時定員左ノ如シ

將校六十二 下士卒千四百十二 馬匹若干

獵兵ハ聯隊ヲ以テ其ノ最高單位トシ一聯隊ハ三中隊編制ノ大隊四箇及補充一隊ヨリ成リ其ノ一大隊ハ自轉車兵ヲ以テ組織ス尙ホ各聯隊ハ二挺ヨリ成ル機關銃一隊ヲ有ス

獵兵ト線列歩兵ト異ル所ハ自轉車大隊ヲ有スルニアルモノニシテ其ノ他教育訓

練任務等ニ於テハ毫モ差異ナキモノトス
獵兵聯隊ノ定員ハ略線列歩兵ニ同シ

「アルプス」兵ノ最高單位ハ旅團ニシテ一旅團ハ二乃至三聯隊、一聯隊ハ三乃至四大隊及補充一隊ヨリ成リ各大隊ノ編制ハ齊一ナラス又「アルプス」兵ノ各大隊ハ二挺ヨリ成ル機關銃ノ一隊ヲ有ス

「アルプス」兵ハ伊國國境守備ノ任務ヲ有シ「アルプス」國境一帶ノ地ニ駐屯シ伊軍中最精銳ナリト稱セラルルモノニシテ冬季ハ所定ノ衛戍地ニ在ルモ夏季ニ至レハ連山地ニ移動シテ行軍ヲ行ヒ各自ノ擔任地域ノ地形ヲ詳悉ス
「アルプス」兵一中隊ノ定員左ノ如シ
將校四 下士卒百八十三 隊馬八

二 騎兵

騎兵ハ槍騎兵及輕騎兵ノ二種ニ區分セラル然レトモ兩種ハ選兵法ト携帶武器ニ多少ノ差異アルノ外一般任務、訓練、編制等異ナラサルモノトス
騎兵聯隊ハ五中隊及補充一隊ヨリ成リ尙ホ二挺ヨリ成ル機關銃ノ一隊ヲ有ス

騎兵聯隊中若干ハ二箇宛合シテ旅團ニ編成セラレ又旅團ハ二個宛合シテ師團ニ編成セラルト雖モ平時ニ於ケル此等ノ編合ハ單ニ事務及教育上ノ便宜ニ依ルモノナルカ如シ
騎兵一中隊ノ平時定員左ノ如シ
將校四 下士卒百五十三 隊馬百三十九

三 砲兵

砲兵ハ野砲兵、騎砲兵、山砲兵、野戰重砲兵及要塞砲兵ノ四種ニ分タル
野砲兵聯隊ハ二大隊補充一隊及砲兵輜重一中隊ヨリ成リ大隊ハ二若ハ三中隊（一中隊火砲六門）ヨリ成ル
野砲兵一中隊ノ平時定員左ノ如シ
將校三 下士卒九十一 隊馬四十八 砲六門

騎砲兵聯隊ハ二中隊（一中隊砲六門）編制ノ大隊四箇補充一隊及輜重一大隊（四中隊）ヨリ成ル一中隊ノ平時定員左ノ如シ
將校四 下士卒百二十三 隊馬八十 砲六門

山砲兵聯隊ハ三中隊編制ノ大隊四箇及補充一隊ヨリ成ル尙ホ、シシリ島屯在ノ野砲兵第二十二聯隊ノ一個大隊(二中隊)ハ山砲編成トス

山砲一中隊ノ平時定員左ノ如シ

將校四 下士卒百五十 隊馬七十 砲六門

野戰重砲兵聯隊ハ十中隊(四大隊ニ編成セラル)及補充一隊ヨリ成ル但同隊ハ千九百十一年始メテ創設ニ著手セルモノニシテ火砲ハ百四十密米クルップ式榴彈砲及百二十密米伊國式加農ヲ採用スト云フ

要塞砲兵ハ海岸砲兵及城塞砲兵ノ二科ニ分レ各聯隊ノ編成ハ一定セス

四 工兵

工兵ハ左ノ諸種ノ科ニ分ル

鐵兵 坑道兵 電信兵 橋船及水運兵 鐵道兵 特別技術兵

鐵兵聯隊及坑道兵聯隊ハ編制略同一ニシテ三中隊編制ノ大隊四箇、工兵輜重二中隊及補充一隊ヨリ成ル

鐵兵及坑道兵ノ一般任務ハ同一ニシテ野戰諸軍ノ工兵作業及攻守城ニ於ケル

工兵作業ヲ實施スルニ在リ而シテ其ノ異ル所ハ坑道兵ニ在テハ特ニ山地ノ作業交通路ノ破壞作業及築城地帯ノ防禦工事ニ慣熟シ鐵兵ハ小流ノ渡河作業ニ慣熟スルニアルノミ

鐵兵及坑道兵一中隊ノ平時定員左ノ如シ

將校三 下士卒百十一

電信兵聯隊ハ三中隊ヨリ成ル大隊四箇輜重二中隊及補充隊ヨリ成ル

電信兵ハ野戰諸軍及要塞ニ於ケル電信通信ニ任シ下士卒ハ之ヲ分チテ架設手及通信手ト爲ス

電信兵一中隊ノ平時定員左ノ如シ

將校三 下士卒百二十一

橋船及水運兵聯隊ハ橋船兵三大隊(八中隊)、水運兵一大隊(二中隊)、輜重三中隊及補充一隊ヨリ成ル

橋船兵ハ野戰諸軍ニ於ケル架橋輜重ノ任務ニ服シ水運兵ハ水路ノ輸送勤務ニ任セラルモノトス

橋船兵及水運兵一中隊ノ定員左ノ如シ

橋船兵 將校四 下士卒百十一

水運兵 將校四 下士卒百二十一

鐵道兵聯隊ハ鐵道工夫二大隊(一大隊ハ四中隊)自働車一大隊(二中隊)及運轉一小隊ヨリ成ル

鐵道兵ハ鐵道ノ敷設、修繕、破壞及運轉ニ任スルモノトス

工夫中隊及運轉小隊ノ平時定員左ノ如シ

工夫中隊 將校四 下士卒百七十

運轉小隊 將校一 下士卒百二十六

特別技術兵大隊ハ左ノ諸隊ヨリ成ル

特別技術中隊四 同職工中隊一 無線電信隊一 寫真隊一 輜重中隊一

特別技術大隊ハ軍用寫真術、無線電信、飛行機誘導氣球等ニ關スル専門的技術ニ關スル業務ニ従事スルモノナリ

五 輜重兵

伊太利軍ニハ正式ノ輜重兵ナク平時唯、野砲兵、騎砲兵及工兵聯隊ニ一乃至四箇ノ輜重中隊ヲ屬シ戰時此等ノ輜重中隊ヲ以テ諸種ノ輜重ヲ編成ス

六 雜兵

雜兵ト稱ス可キモノハ衛生中隊、糧食中隊、懲治中隊、廢兵及老兵隊並稅關隊ニシテ衛生及糧食中隊ハ戰時衛生及給養ニ關スル機關ヲ組織シ稅關隊ハ國境ノ守備ニ任スルモノニシテ懲治隊ハ我カ國ノ懲治隊ト略、相等シク廢兵及老兵隊ハ廢兵及老兵ヲ以テ組織シ諸官衙等ニ門衛、小使、傳令等ヲ供給スルニ任スルモノトス

第二款 諸勤務

茲ニ諸勤務ト稱スルモノハ經理勤務、衛生勤務、砲兵勤務、工兵勤務、獸醫勤務、陸軍裁判所ノ勤務等トス

一 經理勤務

經理勤務ハ監督部將校及軍吏部將校ニ依リテ管理セラル
監督部將校ハ給養、金錢及物品、材料、糧食、陣營、被服、裝具等ニ關スル事務ヲ管理ス

ルモノニシテ勤務ノ組織左ノ如シ

監督勤務ニ關シ各軍團管區毎ニ一箇ノ監督局アリテ局長ハ監督部大佐ニシテ軍團長ノ隷下ニ屬シ若干ノ監督將校及軍吏部將校ヲ有ス

各經理局ニハ經理會議アリテ軍團ノ經理ニ關スル問題ヲ取扱フ而シテ軍團ノ經理局ハ其ノ職權ノ一部ヲ師團ノ監督課及若干ノ衛戍地ニ於ケル地方監督局ニ委任ス

監督部將校ハ大尉ヨリ少將ニ至ル階級ヲ有シ戰團各兵科及軍吏部ノ中尉ニシテ陸軍太學校ノ特別課程ヲ卒業シタル者ノ中ヨリ大尉ニ進級セシメテ之ヲ補充ス

監督部内ニハ監督將校ノ外糧食將校ナルモノアリテ少尉ヨリ少佐ニ至ル階級ヲ有シ監督將校ノ隷下ニ在テ事務ニ服ス

軍吏部將校ハ軍隊經理部諸官衙經理部ノ諸倉庫諸製造工場等ニ於ケル勤務ニ服スルモノニシテ各兵科ノ部隊ニハ通常軍吏部大尉一及軍吏部中尉若干ヲ屬ス

軍隊ノ經理ハ團隊長ヲ長トシ部隊ノ全上長官ヲ含メル經理會議ニ依リテ之ヲ確保ス

軍吏部將校ハ少尉ヨリ大佐ニ至ル階級ヲ有シ其ノ補充ハ主トシテ下士ニシテ陸軍士官學校ノ特別課程ヲ卒業シタル者ヨリス

二 衛生勤務

衛生勤務ハ衛生總監部ニ於テ之ヲ統轄シ各軍團ニ軍醫部ヲ置キ軍醫ヲシテ此ノ勤務ヲ實施セシム

各軍團司令部所在地ニハ軍團病院師團司令部所在地ニハ師團病院又主要ナル衛戍地ニハ衛戍地病舎アリ而シテ此等ノ病院病舎ニハ軍醫及衛生中隊ノ分遣隊ヲ屬シ其ノ勤務ヲ實施セシム

軍醫ハ少尉ヨリ中將ニ至ル階級ヲ有シ其ノ補充ハ「プロランス」ニ於ケル軍醫實施學校ノ特別課程ヲ卒業シタル補足役軍醫中ヨリス

三 砲兵勤務及工兵勤務

此等ノ勤務ハ砲工兵方面及同諸製造工場ニ於テ實施スルモノニシテ砲工兵材

料ノ製造管理及動員準備等ヲ掌ルモノトス

四 獸醫勤務

獸醫勤務ハ陸軍省ノ獸醫監部ニ於テ之ヲ統轄シ各軍團ニ獸醫部(部長獸醫部中佐)ヲ各軍隊ニ獸醫ヲ又主要ナル衛戍地ニ病馬厩ヲ置キテ其ノ勤務ヲ實施ス
獸醫ハ少尉ヨリ大佐ニ至ル階級ヲ有シ獸醫部補足役少尉ニシテ特別試験ニ及第シタル者ノ中ヨリ之ヲ補充ス

五 陸軍裁判所ノ勤務

陸軍裁判所ノ勤務ハ陸軍地方裁判所陸軍特別裁判所及陸海軍最高裁判所ニ於テ之ヲ實施ス而シテ陸軍地方裁判所ハ下士卒ノ犯罪ヲ特別裁判所ハ將校ノ犯罪ヲ裁判シ又最高裁判所ハ陸軍裁判所ノ判決ニ對シ原裁判無効ノ上告ヲ爲シタル者等ヲ裁判ス

陸軍將校ニシテ裁判所ノ勤務ニ服スル者ハ判士及審檢委員ニシテ判士ハ一般將校中ヨリ之ヲ任命シ審檢委員ハ特別試験ノ結果ニ依リテ之ヲ採用ス

第七節 平時兵力

伊國ノ平時兵力及隊數ハ左表ノ如シ但表中ニ掲ケタル諸部隊中ニハ目下尙ホ創設中ニ屬シ未タ其ノ編成ヲ終ラサルモノヲモ含ム

伊國軍平時隊數及兵力表

兵種及隊數	將官及參謀團	校	下士	卒	馬
步兵 線列步兵(二八八大隊) 獵兵(四八大隊) 「アルプス」兵(二六大隊) 聯隊區職員(八八聯隊區)	三〇六	七、五四九	一五〇、九八六	六、〇一八	一、〇一五
騎兵 野砲兵(一九一中隊) 騎砲兵(八中隊)		九八五	二五、三七〇	二四、六七五	
砲兵 山砲兵(二六中隊) 重砲兵(二〇中隊) 要塞砲兵(九八中隊) 砲兵(四〇中隊)		二、二四二	四二、五四六	二一、六六〇	
鐵道兵(二四中隊) 坑道兵(一二中隊)					

橋	兵(一〇中隊)	六二〇	一〇、一〇八	一、二八〇
電信	兵(一二中隊)			
工兵	鐵道兵(八中隊)			
	特別技術兵(五中隊)			
	(工兵編制(一〇中隊))			
衛生部	(十二個衛生中隊ヲ含ム)	七六七	三、六五二	四二〇
經理部	(十二個糧食中隊ヲ含ム)	八〇九	三、八一九	八一
憲兵	十二地方隊)	六七二	二九、九八二	五、三三四
陸軍	諸學校	三五六	一、七五五	一、三五五
獸醫	部	二二三	—	一七
總計		一四、五〇八	二六八、二一八	六一、八五五

第八節 平時兵力ノ配置

伊國ハ全國ヲ十二軍團管區(二十五師團管區)ニ區分ス而シテ平時各管區内ニ駐屯スル部隊ハ戰時其ノ軍團及師團ノ編成ニ充ツ可キヲ原則トスルモ實際ニ於テハ各兵種ノ部隊ハ平等ニ各軍團管區ニ配當セララルコトナク殊ニ騎兵ニ在テハ伊太利北部地方ニ其ノ大部ヲ集團セリ又伊國ニ於テハ歩兵ノ各旅團及騎兵ノ各聯

隊ハ數年毎ニ互ニ其ノ衛戍地ヲ交換スルヲ以テ軍團内ノ部隊ハ常ニ一定ノモノニ非ラス今各軍團司令部ノ位置ヲ示セハ左ノ如シ

- 第一「チュラン」第二「アレキサンドリヤ」第三「シラン」第四「セノヴァ」第五「ヴェロナ」第六「ボローニユ」第七「アンコナ」第八「フロランス」第九「ローマ」第十「ターブル」第十一「パリー」第十二「バレルム」

第九節 要塞

伊國ハ陸地國境方面ニ對シテハ其ノ天然ノ防禦線タル「アルプス」山脈ヲ通過スル主要ナル道路、上ニ堡壘ヲ築設シテ防禦ニ備ヘ海面ニ對シテハ主要ナル港灣殊ニ軍港、要港及重要ナル商港、海峽等ニ要塞ヲ築設シテ之ヲ防備セリ

「アルプス」國境ニ於ケル堡壘ノ外伊國ニハ舊時築設セラレタル數多ノ陸地要塞アリテ其ノ多クハ「ポー」河谷ニ之ヲ配置セリ今此等要塞ノ位置ヲ舉クレハ左ノ如シ
「ヴェロナ」
「レグナゴ」
「マントヴァ」
「ベスチエラ」
「アレザンス」
「カサール」
「アレキサンドリア」
「ボローニユ」
「羅馬」

但「ゾエローヌ」及羅馬ノ要塞ノ外ハ現今殆ト廢墟ニ屬スト云フ

第十節 教育及諸學校

第一款 教育

將校ノ軍事教育ハ部隊長監督ノ下ニ在テ若干ノ上長官之ニ任ス而シテ此ノ教育ハ年中諸種ノ演習及學科ニ參與スルニ由リテ軍隊ト共ニ發達ス可シト雖モ其ノ智識ヲ發達セシムル爲メ通常特ニ施行スルモノハ講話、圖上戰術、幹部演習等ナリ。軍隊ノ教育ハ新兵ノ入營ヨリ古兵ノ除隊マテ一教育年トシ部隊長ノ決定スル豫定ニ從ヒ毎年之ヲ實施ス而シテ此等ノ教育ハ夏季演習(我カ國ノ秋季演習)ニ於テ終ルモノトス。夏季演習ハ之ヲ二種ニ分ツ即チ甲ハ大演習ニシテ乙ハ機動演習及野營演習之ナリ。大演習及機動演習ハ概ネ我カ國ニ於ケルモノニ等シク野營演習ハ軍團長ノ指定スル野營地ニ於テ平均二週間師團若クハ旅團毎ニ集合シ合同演習ヲ行フモノナリ。以上ノ外陸軍以外ニ於テ若干ノ軍事豫備教育ノ機關アリ即チ國民射的協會、學生

大隊、普通學校ニ於ケル義務體操科之ナリ

第二款 陸軍諸學校

伊國ニ於ケル陸軍諸學校ハ之ヲ四種ニ大別スルコトヲ得ヘシ即チ左ノ如シ

- 一 將校補充ノ諸學校
- 二 實施諸學校
- 三 大成ノ學校
- 四 特種學校

將校補充ノ學校ニ屬スルモノハ步騎兵士官學校、砲工兵士官學校及憲兵士官學校ノ三種トシ尙ホ軍事豫備學校トシテ陸軍幼年學校アリ

陸軍幼年學校ハ羅馬及「ナール」ニ各一校アリテ其ノ目的ハ士官學校生徒候補者、步騎兵科ノ補足役少尉(我カ豫備役少尉ニ相當ス)候補者並海軍兵學校生徒志願者タル青年ヲ教育スルニ在リテ修學期ハ四年トス。步騎兵士官學校ハ「モデナ」ニ在リテ主トシテ步騎兵科及軍吏部少尉ノ補充ニ充テ尙ホ其ノ一部ニ於テハ砲工兵科少尉補充ノ爲メ其ノ候補者タル下士ノ教育ヲナス而シテ其ノ修學期ハ二年トス。

砲工兵士官學校ハ「チユラン」ニ設置シ砲工兵科少尉ノ補充ニ充テ其ノ修學期

ハ三年トス

憲兵士官學校 ハ羅馬ノ憲兵生徒隊ニ之ヲ設置シ憲兵少尉候補者タル下副官ノ爲メ毎年二回課程ヲ實施ス

實施諸學校ニ屬スル者ハ步兵實施學校、騎兵實施學校、砲、工實施學校、軍醫實施學校、野戰砲兵中央學校及要塞砲兵中央學校之ナリ而シテ此等實施學校ハ我カ國ノ

戸山學校及各兵種ノ實施學校ニ相當スルモノニシテ略同一ノ任務ヲ有ス

大成ノ學校ニ屬スル者ハ陸軍大學校ニシテ其ノ目的ハ將校ニ參謀勤務並高等指揮官ノ幕僚勤務ニ服スル爲メ必要ナル科學的及軍事的智識ヲ發達セシムルニ在リテ其ノ修學期ハ三箇年トス

陸軍大學校ニ監督見習勤務者ノ課程ヲ屬シ監督將校タランコトヲ希望スル各兵科及軍吏部ノ中尉ヲ教育ス

特種學校ノ種類ニ入ル可キモノハ陸軍劍術學校ニシテ本校ノ目的ハ下士ヲ教育シ陸軍ノ劍術教師ヲ養成スルニアリテ羅馬ノ一兵營内ニ之ヲ設置ス

第十一節 武器及裝具

一 步兵

步兵銃ハ千八百八十九年式口徑六密米ノ連發銃ニシテ戰時携帶彈藥數ハ各人百六十二發トス

步兵ノ携帶器具ハ中隊毎ニ鶴嘴手斧十三、尖匙八十トス

步兵ノ裝具ハ背囊一、彈藥盒二、革帶、麵粉袋、水筒、飯盒靴一足、天幕布等ヨリ成ル

二 騎兵

騎兵銃ハ千八百九十一年式騎銃ニシテ銃劍ヲ銃ニ固著ス、鎗騎兵ハ尙ホ槍ヲ有シ將校ハ「グ」リテンセイ式自動拳銃ヲ携帶ス、彈藥ハ各人九十六發ヲ携帶ス、鞍ノ前部ニ外套、水桶、糧秣ヲ其ノ後部ニ鞍囊ヲ裝著ス尙ホ將校ハ天幕及敷布ヲ携帶ス

三 野戰砲兵

野砲兵ハ千九百零六年式五珊半速射砲、七珊半A式砲及八珊七B式砲ヲ採用シ騎砲兵ハ千九百零六年式七珊半砲ヲ又山砲兵ハ七珊鋼砲ヲ採用ス

携帶武器ハ徒歩者ハ工兵刀、乘馬兵ハ砲兵刀(騎兵刀ニ同シ)及拳銃、山砲兵ノ徒歩者ハ千八百九十一年式連發銃及銃劍將校ハ刀及「グリテンセイ」式自働拳銃トス。砲兵卒ノ裝具ハ歩兵ニ同シ但背囊ノ代リニ袋ヲ用ヒ彈藥車及砲車ノ前車ニ積載ス

四 工兵

工兵ハ千八百九十二年式連發銃ヲ携帶ス携帶彈藥ハ各人三十六發トス各兵種ノ携帶糧食ハ三日分ニシテ尋常糧食一日分豫備糧食二日分トス

第十二節 戰時編制ノ大要

動員セラレタル伊太利軍ハ之ヲ分チテ野戰軍及衛戍隊トナス野戰軍ハ動員シタル常備軍ノ全部遊動民兵諸隊ノ大部分ヨリ成リ衛戍隊ハ遊動民兵ノ殘部及地方民兵ノ全部ヨリ成ル

戰時常備軍ノ諸隊ハ諸兵種ヨリ成ル二十五師團ニ編成セラル可ク遊動民兵モ亦諸兵種ヨリ成ル獨立ノ十二箇師團ニ編成セラル可シ而シテ師團ノ編成ニ加ハラ

ナル遊動民兵隊ハ旅團編成トシテ守備ノ勤務ニ充ラル可ク又地方民兵ノ諸隊ハ戰役ノ當初ヨリ之ヲ大隊以上ノ團隊ニ組織セラルルコトナカル可シ

第一款 戰時各兵種團隊ノ定員

戰時編制ニ於ケル常備軍及遊動民兵ノ編制ハ同一ナリ今主要ナル各團隊ノ定員ヲ擧クレハ左表ノ如シ

戰時各兵種團隊ノ定員表

團 隊 種 類	將	校	下	士	卒	馬 匹 及 騾 馬	機 關 銃 及 火 砲
線 列 步 兵 聯 隊		七八		三一三		六三	
獵 兵 聯 隊		七七		三〇七九		六八	
步 兵 機 關 銃 隊		一		二六		一六	二
「アルプス」兵中隊		六		二五五		四〇	
「アルプス」兵機關銃隊		一		三一		二〇	二
騎 兵 中 隊		五		一三三		一三七	
騎 兵 機 關 銃 隊		一		二六		四〇	二
野 砲 兵 中 隊		四		一五二		一二三	六

騎砲兵中隊	四	一五五	一八二	六
山砲兵中隊	五	一八五	八五	六
要塞砲兵中隊	五	二〇〇	二	
砲兵及坑道兵中隊	三	二〇〇		
電信兵中隊	五	二五〇		
橋樑兵中隊	五	二八〇		

第二款 戰時高等單位ノ編制

一 軍

伊國ハ戰時其ノ野戰部隊ヲ以テ三若ハ四軍ヲ編成セントスルモノノ如シ而シテ各軍ハ二乃至四軍團及騎兵一師團(時宜ニ依リ一旅團)ヨリ成ル

二 軍團

戰時伊國ハ十二箇ノ軍團ヲ編成ス可ク各軍團ハ三箇若ハ三箇ノ步兵師團ヨリ成ル可シ而シテ三師團ヨリ成ル軍團ニ在テハ其ノ二師團ハ常備師團ヨリ他ノ一師團ハ遊動民兵ヲ以テ編成セラレタル師團ヨリ成ル可シ

尙ホ軍團司令部ニハ輜重及左記ノ軍隊ヲ直屬ス

獵兵一聯隊 騎兵一聯隊 野砲兵一聯隊(六中隊編制)、電信一中隊

三 步兵師團

伊國ハ戰時常備步兵二十五師團及遊動民兵十二師團ヲ編成ス可シ步兵師團ノ編制左ノ如シ

步兵二旅團(十二大隊)
常備師團(野砲兵一聯隊(五中隊))

獵兵一中隊及其ノ輜重並架橋小隊

步兵二旅團(十二大隊)

獵兵一若ハ二大隊

遊動民兵師團(騎兵二若ハ三中隊)

野砲兵四若ハ五中隊

獵兵一中隊

四 騎兵師團

伊國ハ戰時騎兵三師團ヲ編成ス可シ而シテ一師團ハ騎兵二旅團(二十中隊)騎砲兵二中隊、自轉車兵一中隊ヨリ成リ其ノ人員四千四百馬匹四千二百頭ナル可シ

第十三節 戰時兵力ノ概數

戰時兵力ハ約百二十萬人ニシテ其ノ隊數概ネ左ノ如シ

伊國戰時兵力表

兵種	區分	伊國戰時兵力表	
		常備軍	遊動民兵軍
步兵	線列步兵大隊	二八八	一、五三
	擧兵大隊	四八	二〇
騎兵	「アルム」兵大隊	二六	中隊 三八
	野砲兵中隊	一九二	六三
砲兵	山砲兵中隊	二六	一五
	重砲兵中隊	二〇	一
計	地方民兵軍	三二四	七四五
	計	二〇	二七六

兵種	區分	伊國戰時兵力表	
		常備軍	遊動民兵軍
工兵	工兵中隊	一〇	四
	特別技術兵中隊	五	一
鐵道兵	鐵道兵中隊	八	一
	電信兵中隊	二二	六
橋樑兵	橋樑兵中隊	一〇	五
	坑道兵中隊	一一	六
砲兵	砲兵中隊	二四	二四
	砲兵輜重中隊	四〇	二四
計	地方民兵軍	一〇〇	二七六
	計	二二	一四

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

英國ハ立憲世襲君主政體ナリ現皇帝「ジョージ五世」ハ先帝「エドワード七世」ノ子ニシテ千八百六十五年六月三日ニ生レ千九百十年五月六日位ニ即ケリ
 立法權ハ憲法ニ依リ之ヲ議會ニ委ネ議會ハ樞密院ノ諮詢ヲ經テ之ヲ召集ス
 行政權ハ責任アル大臣ノ輔弼ニヨリ國王之ヲ主宰スルモ唯名ノミニシテ實ハ内閣諸大臣之ニ任ス
 内閣ノ進退ハ獨リ下院中多數ノ囑望ヲ得ルト否トニアリ首相ニハ大藏大臣ノ職ニ在ル者之ニ任スルヲ例トス
 議會ハ上下兩院ヨリ成ル

上院ハ全部貴族ヲ以テ組織シ世襲議員ハ多數ヲ占ムト雖モ未ダ全ク世襲議員ノミニアラズ議會ノ名簿ニ存スル貴族ノ數ハ漸次増加シ千九百八年ニ於テハ六百十五人ニ達セリ然レトモ其ノ多數ハ事實上議院ニ出席スルコトナシ
 下院議員ハ制限選舉ニヨリ選舉セラレタル代表者ニシテ立法權ヲ有シ其ノ任期ハ七年トス現數六百七十名ナリ

第二節 面積人口

英帝國全領土ノ面積ハ一一、四六七、二九四方哩ヲ有シ全世界面積ノ五分ノ一強ニ相當シ我カ帝國ニ約七十倍シ又其ノ人口ハ三九六、二九四、七五二人ニシテ世界人口ノ約五分ノ一ヲ占メ我カ帝國ニ約八倍ス

第三節 豫算

豫算年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル
 千九百九十年度英國總經費ハ一、五六八、五一一、〇〇〇圓ニシテ陸軍ノ豫算ハ左

ノ如シ

本國陸軍豫算

二六五、四三三、六二五圓

直轄植民地陸軍豫算

三三、四二六、六四一圓

計

二九八、八六〇、二六六圓

維持費ヲ別トシテ兵卒一人ノ經費ハ一、四七三圓餘ニ當ル

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

英本國ノ陸軍ハ之ヲ正規軍及地方軍ノ二種ニ大別ス

一 正規軍

正規軍ハ常備團隊正規軍豫備及特別豫備ヨリ成ル

常備團隊ハ野戰軍ノ骨幹ヲナシ大英帝國全體ノ防備ニ當ルモノニシテ本國內ニ

駐屯スル歩兵六師團騎兵四旅團ノ外印度及植民地ニモ其ノ幾分ヲ派遣シアリ
正規軍豫備ハ現役ヲ終リ豫備役ニ入りタル者ニシテ戰時正規軍ノ直接補充ニ備フ
特別豫備ハ現役ニ入ラサルモノニシテ平時若干ノ訓練ヲ施シ戰時正規軍ノ補充
ニ充ツルモノナリ

二 地方軍

地方軍ハ地方軍ト地方軍豫備ヨリ成ル

地方軍ハ英本國ノ防備ニ任スルモノニシテ平時常設セララルコトナク唯其ノ幹
部ノミヲ存シ募集及保持ハ州兵事會ノ手ニ委ネ其ノ軍隊教育ニ關シテハ軍管區
司令官ノ監理ヲ受ケ毎年十數日間野營地ニ召集シ訓練ヲ施スモノトス
地方軍豫備ハ動員ニ方リ地方軍各部隊定員ノ不足ヲ充足シ若ハ動員後缺員ヲ生
シタル時ノ補充ニ充ツルモノニシテ平時部隊ヲ編成スルコトナク人員ヲ準備シ
置クニ過キス

第二節 中央統轄機關

(イ) 國防會議

國防會議ハ總理大臣ノ諮詢機關ニシテ國防ニ關スル大方針ヲ議定シ平時ニ於ケル準備計畫ノ基礎ヲ劃定スルヲ任トス該會議ハ總理大臣ヲ長トシ陸海軍大臣、印度事務大臣、植民大臣其ノ他國防ニ關係アル諸省ノ大臣ヲ以テ議員トス
國防會議ニハ常置幹事長一名常置幹事トシテ陸海軍將校各二名、印度軍將校二名及諸屬領ノ委員一乃至數名ヲ置ク

(ロ) 陸軍省

陸軍ノ統帥及行政ハ陸軍大臣之ヲ掌ル
陸軍省ニハ左ノ部局ヲ置ク

- (一) 官房 陸軍大臣ヲ補佐ス
- (二) 帝國參謀本部 陸軍大臣ニ隸屬シ之ヲ三課ニ分チ左ノ業務ヲ管掌ス
 - 一 作戰課 作戰及集中軍ノ戰略的配置、植民地ノ防禦、情報、無線電信
 - 二 參謀服務課 參謀部ノ編制及參謀官ノ教育、參謀大學校、各科及各部ノ戰略、戰術的使用ノ原則、教育ニ關スル規則及著書、戰時定員、編制問題、電信及視號通

信等

- 三 軍事訓練課 本國ノ防禦、連絡集中ノ計畫、防禦地方ノ研究、兵器及裝具ノ管理、軍隊教育、演習、演習地、射擊場、士官學校、將校ノ進級試驗等
- (三) 軍務局 徵兵、軍紀及衛生勤務ノ事ヲ掌ル
- (四) 經理局 材料即チ被服、裝具、糧食等及軍馬補充勤務、運搬勤務ヲ掌ル
- (五) 砲工兵局 二部ニ分タル即チ第一部ハ砲兵及兵器、第二部ハ要塞、陸軍工事ヲ掌ル
- (六) 次官局 議會ニ關スル事務、内閣各省トノ交通記録、軍法會議、布教事務等ヲ掌ル
- (七) 財務局 會計官ヲ監督シ陸軍ノ一般會計ヲ整理シ且陸軍省各局ノ會計ヲ一括シテ議會ノ議ニ附シ又毎年豫算表ヲ作成シ又契約書ヲ審査シ各部經理官ヲ監督ス
- (八) 政務局 政務次官ノ管理ニ屬ス次官ハ陸軍大臣ニ代リ議院ニ於テ陸軍ニ關スル一切ノ説明ニ任スルモノトス尙ホ地方軍ニ關スル一切ノ業務、土地ノ管理及恩給恩賞ニ關スル件ヲ掌ル

(ハ) 軍事參議院

軍事參議院ハ陸軍大臣ヲ議長トシ陸軍省各部長ヲ議員トシ陸軍軍務ノ大方針ヲ定メ且各局ニ關聯スル重要ナル事項ヲ會議スル所トス

(ニ) 監軍部

監軍ハ軍事參議院ニ隸屬シ左ノ兵監ヲ統督ス

騎兵監

騎砲兵及野砲兵監

要塞砲兵監

工兵監

輜重兵監

醫務監

器材監

第三節 地方統轄機關

英本國ヲ左ノ七軍管區ト倫敦及海峽管區ニ分ツ

「オルダーショット」軍管、南部軍管、東部軍管、北部軍管、西部軍管、蘇格蘭軍管、愛耳蘭

軍管、倫敦管區、海峽管區

此等ノ管區ハ其ノ管區ニ駐屯スル軍隊ト共ニ將官之ヲ指揮ス

「オルダーショット」及倫敦管區ヲ除キ其ノ他ノ管區ハ若干ノ地區ニ分チ各地區ハ

更ニ四乃至八聯隊區ニ細分ス即チ地區ハ第一ヨリ第十二ノ番號ヲ有シ聯隊區數

ハ六十七ナリ原則トシテ一聯隊區ニ一聯隊ヲ配當ス

第四節 兵役法及補充法ノ大要

一 兵役法

正規軍 兵卒ノ服役ハ全ク志願兵制度ニシテ年齡十八歲以上二十五歲以下ノ

壯丁ノ志願者ヨリ採用シ現役及豫備役ヲ通シ十二箇年服役ノ契約ヲ爲ス可キ

モノニシテ本人ノ志願ニヨリ更ニ現役年限ヲ延長シテ最初服役ノ日ヨリ二十

一年ニ至ル間再服役ヲ爲スコトヲ得而シテ下士ハ兵卒ノ再服役者ヨリ技術優

秀ナル者ヲ選ヒテ任命ス

現役及豫備役ノ年限ハ兵種及勤務ニ依リ同シカラス總テ服役ハ誓約年限ヲ以テ免セラルルト雖モ海外勤務及戰時事變ニ際シテハ十二箇月以内ニ於テ服役ヲ延長セシメラルルコトアリ

特別豫備 年齢十七歳以上三十歳以下ノ志願者ヨリ採用スト雖モ十七歳以下十四歳ノモノモ亦服役ヲ許ス再服役期限ハ一年以上四箇年以内ニシテ定限年齢ハ愛耳蘭騎兵ハ三十五歳歩兵砲兵工兵ハ四十歳トス

地方軍 一般ニ十七歳以上三十五歳以下ノ英人ニテ特別ナル者ヲ除キ何人ト雖モ地方軍ノ一員トナルコトヲ得其ノ服役ハ誓約ノ日ヨリ四箇年以内ニシテ一年以上四箇年以内ノ再服役ヲ許ス其ノ定限年齢ハ下士ハ通常五十歳兵卒ハ通常四十歳トス

地方軍豫備ノ服役期限ハ一年乃至四年トシ州兵事會之ヲ決定シ四年以下ノ期限ニ於テ服役ヲ申込ミタルモノハ一年毎ノ再服役ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

技術豫備 嘗テ勤務ニ服シタルコトナキモ其ノ専門的技術ニ依リテ戰時ノ勤

務ヲ爲シ得ヘキ志願者ヲ以テ之ニ充ツ即チ軍醫獸醫自動車手飛行手等之ナリ

國民豫備

嘗テ陸軍ニ勤務シタルモノニシテ國家ノ危急ニ際シ再ヒ勤務ニ服セントスル志願者ヲ以テ之ニ充ツ

二 補充法

陸軍ノ徵募ニ關シ行政上ノ全責任ヲ有スルハ陸軍省軍務局徵募課長ニシテ之ニ直屬シテ徵募上ノ責任ヲ有スルモノハ地區司令官ナリ之ヲ徵募事務將校ト稱ス而シテ地區内ニ於テ正規軍及特別豫備兵ノ徵募ニ對シ責任ヲ有ス

徵募事務將校ノ令下ニ步兵補充所長(徵募區司令官)アリテ各種ノ幹部ヲ使用シ自己徵募區内ニ於テ近衛騎兵ヲ除ク諸兵種特別豫備及砲兵團等ノ新兵徵募ニ任

ス

近衛騎兵ノ新兵ハ其ノ聯隊直接之ニ任シ又ハ特別徵募者若ハ代理者之ヲ代フ募兵法ハ全ク壯丁ノ志願ニ基クモノナルヲ以テ先ツ壯丁ヲシテ兵役ノ何物タルヤヲ知ラシメ以テ志願ノ念ヲ誘發セシメサル可カラス之カ爲メ徵募事務將校及步兵補充所長ハ管區内ニ於テ常ニ軍事ニ關スル講話幻燈等ヲ爲シ兵卒優遇ノ狀

況ヲ説明シ募集時期ニハ軍隊ハ美服ヲ著シ軍樂ヲ奏シテ勇壯ナル行軍ヲ行フ等種々ノ手段ヲ盡スモノトス
斯クノ如クシテ得タル新兵ハ近衛歩兵及近衛騎兵砲兵及工兵ニ在テハ直ニ其ノ隊ニ其ノ他ハ各其ノ隊ノ補充所ニ入ラシメ新兵教育ヲ行フ
各補充所ニ於テ若干ノ新兵教育ヲ授ケタル後内國駐屯部隊ニ屬スルモノハ直ニ其ノ隊ヘ海外勤務ニアルモノハ次ノ補充期ヲ俟テ派遣セララルモノトス
地方軍ノ補充ハ地方軍州兵事會ノ掌ル所ニシテ其ノ方法ハ概ネ前述ノモノニ同シ

第五節 將校、下士並同相當官

一 階級

下士 副伍長、伍長、軍曹、旗手、軍曹(步兵)、中隊曹長(砲兵)、經理軍曹、特務曹長、士官 二等中尉、中尉、大尉、少佐、中佐、大佐

此等ノ階級ト職務トハ獨立ニシテ中隊ハ大尉若ハ少佐指揮スルヲ得ヘク騎

兵中隊及砲兵中隊ハ少佐ニ依リテ指揮セラレ大尉ハ次長ト爲ス大隊ハ總テ中佐ニヨリテ指揮セララル大佐ノ官ハ名譽職ニシテ何レノ職務ニモ適應セス
將官 少將、中將、大將、元帥

二 下士

下士ノ補充ハ兵卒ヨリ行フ其ノ進級ハ階級ヲ逐フテ進ムモノトス下士ハ直屬上官ノ申請ニヨリ將校ニ任命セララルヲ得ヘシ但少クモ下士ノ階級ニ二年間服役シ且軍事試験ニ及第シ第一級教育證明書ヲ有スル未婚者ニシテ年齢二十四歳以下ナルヲ要ス然レトモ此ノ種ノ任命ハ甚タ稀トス又下士ハ此ノ方法ニ依リ一般ニ會計官又ハ馬術教官ニ任命セララル

三 將校

將校ノ補充ハ主トシテ左ノ四法ニ依ル

第一 「サンダースト」陸軍士官學校卒業者及「ウォルウイッチ」砲工兵士官學校卒業者前者ハ歩兵及騎兵將校要員ノ三分ノ二ヲ補充シ後者ハ砲兵及工兵將校要員ノ三分ノ二ヲ供給ス

第二 特別ノ資格ヲ有スル大學生及特別試験ニ及第シタル者ハ將校ニ任命セラルル而シテ少尉候補者ハ勤務兵將校トナリ約一箇年間隊附ヲ爲シ此ノ見習勤務ノ終リニ於テ試験ヲ受ク

第三 地方軍ノ將校ニシテ年齢少クモ二十四歳ニシテ且地方軍ニ十五箇月服役シ候補者トシテ二回ノ勤務演習ヲ受ケ然ル後特別試験ニ及第シタルモ

第四 下士 甚タ少數ニシテ殆ト特別ノ將校即チ會計官馬術教官等ニ任命セラル

進級ハ團隊毎ニ之ヲ行ヒ故參順ニヨリ少佐マテ進級セシム中佐以上ハ拔擢トス

四 定限年齢及退役

元帥制限ナシ 大將、中將六十七歳 少將六十二歳 大佐五十七歳
中佐五十五歳 少佐五十歳 尉官四十五歳

將校ハ任官後十五年服役ノ後ハ退役スルコトヲ得同時ニ恩給ヲ受クル權利ヲ生

サ

五 俸給

俸給額ハ職務ニヨリ區別セラレ又兵科ニヨリ其ノ額ヲ異ニス左ニ其ノ概要ヲ示

(イ) 將校ノ俸給

高等官衙職員	職名	年額	諸學名	年額	階級				
					步兵	騎兵	野砲兵	工兵	輜重兵
監軍(大將)	軍(大將)	三九、〇四〇			同上	同上	同上	同上	同上
軍管區司令官(大將)	軍管區司令官(大將)	二一、九六〇	參謀大學校長	二一、七二二	同上	同上	同上	同上	同上
各兵監(少將)	各兵監(少將)	一一、七一二	同(一等參謀)	五、三六八	中佐	二、二二三	同上	同上	同上
參謀(本部)	參謀(本部)	七、八〇八	陸軍士官學校長	一一、七二二	少佐	六六五	七三五	七八四	二、二二二
一等參謀(大、中佐)	一等參謀(大、中佐)	六、三四四	中隊長(少尉)	四、八八〇	大尉	五六七	六三七	五六七	八六一
同	同	四、八八〇	中隊附士官	二、四四〇	中尉	二六四	三七五	三三四	五三〇
三等參謀(少佐、大尉)	三等參謀(少佐、大尉)	四、八八〇	中隊附士官	四、三九二	少尉	二五七	三二六	二七三	四六九
軍管區司令官(中佐)	軍管區司令官(中佐)	七、三二〇							
備考	近衛隊附將校ハ右ノ外加俸ヲ受ク								

(ロ) 准士官、下士卒ノ俸給

准士官ノ俸給ハ通常日額二圓四十四錢乃至二圓九十三錢ニシテ特別任務ニ服スルモノハ約四十九錢ノ加俸ヲ受クルモノトス

下士卒ノ俸給ハ甚タ複雑ニシテ階級職務及兵種ニ依リ一定ナラス今恩給資格ノ階級ニ區別シ各兵種ノ平均俸給日額ノ標準ヲ示セハ左ノ如シ

第一級(曹長) 一圓九十五錢乃至一圓九十八錢

第二級(軍曹) 一圓四十九錢乃至一圓九十七錢

第三級(伍長) 九十九錢乃至一圓四十八錢

第四級(上等兵) 五十二錢乃至一圓

第五級(兵卒) 四十九錢乃至五十錢

十八歳以下ノ少年兵三十二錢

第六節 常備軍ノ平時編制

一 歩兵 團隊ノ最大單位ハ師團ニシテ師團ハ二乃至三旅團、旅團ハ二乃至四

大隊、大隊ハ八中隊ヨリ成リ聯隊ノ稱號ハ單ニ名ノミナリ從テ線列歩兵聯隊ハ其ノ本部ヲ有セス唯、名譽聯隊長トシテ將官若ハ大佐ヲ戴クノミ
歩兵大隊ノ平時定員ハ英本國ニ於テハ將校二四、下士四一、兵卒八〇〇ニシテ植民地ニ在リテハ將校二八、下士四八、兵卒九三二、印度ニ於テハ將校二九、下士四八、兵卒一〇三三トス

一 騎兵 團隊ノ最大單位ハ旅團ニシテ旅團ハ三聯隊、聯隊ハ三中隊ヨリ成ル中隊ハ少佐ヲ長トシ大尉ヲ副長トス其ノ編制一定ナラサレトモ大約左ノ如シ
將校六、下士一九、兵卒一六七、馬一三六

二 砲兵 騎砲兵、野砲兵、及要塞砲兵ニ大別セラレ野砲兵中ニ榴彈砲兵、要塞砲兵中ニ山砲兵、重砲兵、攻城砲兵、要塞砲兵、中隊等アリ
砲兵ノ最大單位ハ大隊トス要塞砲兵ハ大隊ニ編成セス
騎砲兵大隊ハ二中隊ヨリ成リ中佐之ヲ指揮ス中隊ハ平時將校五、下士卒一四四、火砲六門ヨリ成ル

野砲兵大隊ハ三中隊(榴彈砲)ハ二中隊ヨリ成リ中隊ハ平時將校五、下士卒一三二、

水砲六門ヨリ成ル

山砲兵中隊ハ平時將校六下士卒一四七、火砲六門ヨリ成ル

重砲兵中隊ハ平時將校五下士卒一四〇、火砲四門ヨリ成ル

攻城砲兵中隊ハ平時將校五下士卒二〇〇ヨリ成ル

要塞砲兵中隊ハ所在地毎ニ其ノ定員ヲ異ニス

四 工兵 其ノ種類頗ル多ク乘馬工兵野戰工兵架橋縱列信號隊、飛空大隊、探照

中隊、鐵道中隊、兵站工兵、要塞工兵、海岸工兵、中隊、測量工兵、中隊、印度工兵等アリ

工兵ハ中隊編制ニシテ中隊ハ通常四小隊ニ分チ少佐若ハ大尉之ヲ指揮ス乘馬

工兵ハ平時將校三下士卒八四ヨリ成ル

五 輜重兵 輸送中隊供給中隊軍馬補充中隊、營繕部、書記補充隊ヨリ成リ輸送

中隊及供給中隊ハ戰時各種縱列ノ骨幹トナル可キモノトス

第七節 平時兵力

英本國ノ經費ヲ以テ裝備シアル常備團隊ハ千九百十一年度ニ於テ總計二五五八

〇二人ニシテ其ノ隊數左ノ如シ

歩兵 百五十七大隊

騎兵 三十一聯隊

砲兵 百九十三中隊

工兵 三十三中隊

植民地土人歩兵 八大隊

同 砲兵、工兵 若干

第八節 平時兵力ノ配置

英國常備軍ノ兵力配置左ノ如シ

	英 本 國	印 度	屬領及植民地
歩兵	八十二大隊	五十二大隊	二十三大隊
騎兵	六十八中隊	三十六中隊	二十中隊
砲兵	百六十七中隊	九十一中隊	三十七中隊
工兵	六十四中隊	一	二十一中隊

英本國ニ於テハ前記諸隊ヲ以テ歩兵六師團騎兵四旅團ヲ編制シ「オルダーショット」軍管ニ第一第二師團騎兵第一旅團ヲ配置シ是等ノ團隊ハ迅速ニ出征シ得ル如ク當ニ一地ニ集中シテ其ノ準備ヲ完了シアラシメ其ノ英克蘭ニハ尙ホ第三第四師團騎兵第二第四旅團ヲ愛耳蘭ニハ第五第六師團及騎兵第三旅團ヲ配置シ其ノ他ノ地方ニハ歩騎砲及其ノ他補助兵種ノ一部ヲ配置ス

第九節 要塞

要塞ハ悉ク海岸要塞ニシテ純粹ノ陸地要塞ナルモノナシ而シテ英本國ニハ北海方面ニ二箇英吉利海峽附近ニ五箇大西洋方面ニ四箇ヲ配置セリ其ノ要塞司令部ノ位置ヲ示セハ左ノ如シ

「プリマウス」「ボーツマウス」「ドーバー」「チャタム」「ハーウイッチ」(以上海峽附近)「ニューキャッスル」「エヂンブルグ」(以上北海)「リバープール」「ペンブロック」「ロンドンデリー」
「ヨーク」(以上大西洋方面)

尙ホ北海方面ニ於テハ蘇格蘭ノ「フォルス」河口「ロザイス」港ニ目下一大要塞ノ構

築中ナリ

前記要塞中「プリマウス」「ボーツマウス」「チャタム」ハ英國海軍ノ三大策源地ニシテ要塞ノ防備モ極メテ堅固ニシテ「プリマウス」及「ボーツマウス」要塞ハ海陸兩正面ノ編成ヲ有ス北海及大西洋方面ニ在ルモノハ其ノ防備ノ程度前三者ニ比スレハ甚タ薄弱ナリ

第十節 教育及學校

陸軍諸學校ハ其ノ編制及行政ニ關シテハ軍務局ニ教育ニ關シテハ參謀本部ニ屬シ將校下士卒ノ教育ヲ行フ英本國ニ於ケル諸學校ハ次ノ如シ

- 一 參謀大學校 高等官衙ノ要職ニ就カシムル目的ヲ以テ將校ニ高等軍事教育ヲ授ク
- 二 陸軍士官學校 歩騎兵科ノ士官ヲ養成ス
- 三 陸軍砲工兵士官學校 砲工兵科ノ士官ヲ養成ス
- 四 騎兵學校 大尉以下ノ騎兵及騎砲兵科將校下士ニ高等ノ學術ヲ授ク

- 五 砲兵學校 工兵科ヲ除ク各兵科ノ將校ニ砲兵技術ニ關スル教育ヲナシ准士官下士ニ器械ノ使用法及技術ヲ教授ス
- 六 工兵學校 英國陸軍工兵ノ中央教育所ニシテ教導大隊及勤務大隊ヲ屬ス
- 七 輜重兵學校 輜重勤務ニ關スル高等ノ學術及兵科必要ノ學術ヲ教授ス
- 八 乘馬步兵練習所 戰時乘馬步兵隊編成ノ目的ヲ以テ將校下士卒ニ必要ナル學術ヲ教育ス
- 九 小銃射擊學校 正規軍各兵科ノ將校下士地方軍將校ヲ軍隊ノ射擊教官タルシムルニ必要ナル教育ヲ行フ
- 十 砲兵射擊學校
- 十一 信號練習所
- 十二 水雷學校 工兵將校下士卒ニ水雷布設及魚形水雷ノ使用法電氣術及操船術等ヲ教授ス
- 十三 陸軍軍醫學校
- 十四 陸軍獸醫學校

- 十五 陸軍軍樂學校
- 十六 炊爨學校 炊事掛下士ヲ養成ス
- 十七 軍隊學校 各衛戍地ニ設ケ下士卒及其ノ男女兒ニ普通教育ヲ施ス
- 十八 予ニーク、ヨーク陸軍學校 戰死若ハ公務ニ瘞レタル陸軍ノ准士官及下士卒ノ子弟ヲ教育ス

第十一節 武器

附表ニ就テ見ル可シ

第十二節 戰時編制ノ大要

戰時英國陸軍ヲ分テ野戰部隊地方軍及補充部隊トス

野戰部隊ハ有事ニ際シ一令ノ下直ニ動員ヲ完結シ海外ニ出征シ得ヘキモノニシテ野戰師團六個騎兵師團一個軍直屬部隊及兵站諸部隊ヨリ成ル野戰軍一個アルノミ

地方軍ハ野戰軍ト同時ニ動員セラレ主トシテ本國ノ守備ニ任ス可キモノニシテ

十四師團及騎兵十四旅團ヨリ成ル
補充部隊ハ各隊ノ補充及特別豫備兵ヨリ成ル

一 野戰軍ノ編制

軍司令部

歩兵六師團

騎兵一師團

乘馬歩兵二旅團

護郷騎兵二中隊

獨立歩兵一大隊

無線電信一中隊

被覆電信二中隊

架空電信二中隊

氣球三中隊

架橋縱列二個

兵站諸部隊

以上總人員一六六一三七トス

二 野戰師團ノ編制

師團司令部

歩兵三旅團

野砲三大隊

野戰榴彈砲一大隊

野戰重砲一中隊

野戰工兵二中隊

師團電信一中隊

乘馬歩兵二中隊

師團輜重

計 人員一九五六三 馬匹七二九三 砲七〇 機關銃二四

三 騎兵師團ノ編制

英吉利 第二章 陸軍

騎兵師團司令部

騎兵四旅團

騎砲兵二大隊

乘馬工兵四中隊

無線電信一中隊

輜重

計 人員九六七三 馬匹九九四三 砲二四 機關銃二四

四 乘馬步兵旅團ノ編制

乘馬步兵旅團司令部

乘馬步兵二大隊

騎兵一聯隊

騎砲兵一中隊

輜重

計 人員二二七一 馬匹二三五九 砲六 機關銃六

第十三節 戰時兵力ノ概數

英本國ノ戰時總兵力ハ定員四八一五〇〇人ナレトモ地方軍ニ缺員アル爲メ千九百十年九月盡日ノ現在總兵力ハ四三六一九五五人ナリ

印度

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

印度帝國ハ英帝國ノ一部ニシテ英本國ニ在ル印度事務大臣ハ印度政廳ニ對シ

切ノ命令權ヲ有ス印度ニ於ケル文武行政ノ最高機關ハ總督ノ下ニアル高等參議院トス
全國ヲ八大州及五小州ニ區分シ各州ハ知事、副知事若ハ高等參議院直接ニ其ノ統治ニ任ス

第二節 面積、人口

全面積 百七十六萬六千五百九十七方哩
人口 三億一千五百十三萬二千五百三十七人
即チ其ノ面積ハ我カ帝國ノ約六倍半強ニシテ人口ハ約五倍強ナリ

第三節 豫算

千九百十二年度ニ於ケル印度政府ノ總豫算額及印度軍軍費豫算左ノ如シ
歲入 七億六千八百七千五百五十九圓
歲出 七億五千三百五十四萬五千四百三十九圓

軍費豫算 一億八千九百八十二萬七千六百三十圓

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

現時ノ陸軍ハ千九百七年「キツチナー」元帥ノ意見ニ基キ編制セラレタルモノニシテ全軍ヲ南北二軍ニ分チ戰時編制ト略、同一ナル平時編制ヲ取り平時ニ於ケル配置ヲシテ可成戰時ニ於テ採ラントスル戰略ニ適合セシムル如クセリ
軍ノ大單位タル師團ハ英人隊、土人隊ノ混成ニシテ其ノ比ハ大約英人一、土人二ノ比ヲ有シ野戰砲兵ノ全部及重砲兵ノ大部ハ全ク英人ヲ以テ之ヲ編成セリ英人隊ハ印度軍ノ骨幹ヲ爲スモノニシテ英本國ヨリ之ヲ派遣シ若干年毎ニ交代セシム主人隊ハ軍人ニ適スル種族中ヨリ徵募シ同人種同宗教ノモノヲ以テ一隊ヲ編成シ重要ナル幹部ハ英人將校ヲ以テ之ニ充ツ然レトモ其ノ内務ニ關シテハ土人將

校ニ委任スルノ方法ヲ執レリ
以上ノ外補助軍トシテ義勇兵、土侯國ニ於ケル帝國勤務兵等アリ

第二節 中央統轄機關

陸軍部ハ印度政廳ノ一行政省タルト同時ニ印度全軍司令部ト一體ヲ成シ高等參議院ノ一員タル全軍司令官(陸軍大將)ヲ以テ長官トナシ軍政軍令執行ノ最高機關ヲ成形ス

行政事務ハ印度政廳ノ行政官タル陸軍部長官ノ統轄ヲ受ケ事ノ行政、財務以外ニ關スルモノハ全軍司令部ノ管轄ニ屬スルモノトス
全軍司令官ノ下ニ左ノ諸官ヲ置ク

- 一 軍事秘書官
- 二 全軍參謀長
- 三 軍務局長
- 四 經理局長

五 兵器局長

六 陸軍工務局長

七 醫務局長

要スルニ印度軍ニ於ケル全軍司令部ナルモノハ兩者相俟テ一機關ヲ成形シ會計事項ヲ除クノ外陸軍ノ全務ヲ總轄スルモノニシテ殆ト我カ國ノ陸軍省參謀本部、教育總監部ノ三大機關ヲ合シタルモノニ相當シ全機關ヲ舉ケテ一全軍司令官ノ總轄下ニ置カレタルモノトス
軍事上重大ナル諸問題ノ審議ニ任スル爲メ全軍司令官ヲ議長トスル左ノ三會議ヲ設ク

- 動員會議
- 國防會議
- 諮詢會議

第三節 地方統轄機關

土人兵徵募ノ爲メ全國二十一箇ノ徵募地ヲ設ケ種族或ハ教徒ヨリスル徵募ヲ擔當セシム各徵募地擔任ノ徵募官ハ南北兩軍司令官ニ直屬シ徵募事務ニ關シテハ軍務局長ノ區處ヲ受クルモノトス

第四節 兵役及補充

英人隊

英人隊ハ新兵ヲ有セサル長期服役ノ下士卒ヨリ成リ時々本國正規軍ト交代ス其ノ交代ハ兵種ニ依リ一樣ナラス即チ歩兵隊ハ約十六年ノ後本國ニ在ル當該大隊所屬聯隊ノ他ノ大隊ト交代シ騎兵隊ハ十二年乃至十五年毎ニ交代シ其ノ要領ハ歩兵隊ニ同シキモ馬匹ハ交代ニ際シテ伴フコトナシ砲兵ノ交代ニ於テモ馬匹材料ヲ携行セス
將校下士卒ハ歩兵隊ニ在リテハ在勤八年ノ後其ノ他ハ七年ノ後本國ノ隊ニ轉スルコトヲ得

土人隊

土人隊ハ印度諸人種中軍人ニ適スル種族ヲ限リ其ノ内ノ志願者中ヨリ徵募ス新募兵ハ十八歳ヨリ二十五歳マテノ者ヲ採用シ樂手工卒等特別ノ兵卒ニハ十四歳以上ノ者ヲ採用ス服役年限ハ通常三年ヲ以テ義務年限トス樂手工卒等特別ノモノハ五年乃至十年ヲ義務年限トスルモノアリ尙ホ本人ノ志願ニ依リ更ニ二十一年ニ至ルマテ再服役ヲ許ス
現役第四年ヨリ第十二年ニ至ル間ハ何時ニテモ希望ニヨリ豫備軍籍ニ入ルコトヲ得

團隊長ハ部下定員充實ノ責ニ任スルヲ以テ新兵徵募官ト絶エス連絡ヲ通シ其ノ要員ヲ通報ス徵募官ハ志願者ヲ指定ノ場所ニ集合セシメ身體検査ヲ行ヒ本人ノ承諾ヲ得タル後當該團隊ニ送致ス
團隊長ハ右ノ方法ニ依ルノ外直接新兵ヲ徵用スルコトヲ得之カ爲メ滿期除隊ノ土人兵ニ新兵志願者ヲ誘引ス可キコトヲ勸告シ斯ノ如クシテ伴ヒ來リタル土人兵ニ對シテハ往復ノ旅費ヲ給スルノ規定アリ而シテ尙ホ一時ニ五十人乃至百人ノ善良ナル志願者ヲ伴ヒ來ル時ハ將校ノ待遇ヲ與フルノ條件ヲ以テ徵募ノ獎勵

第五節 將校、下士卒

印度ハ氣候概シテ酷熱ニシテ惡疫ノ流行甚シキヲ以テ英人隊ノ多クハ夏季清涼ノ地ニ移轉シ不愉快又ハ不健康ナル業務ハ土人雜卒ヲ以テ之ニ充テ英人ハ單ニ必要ナル演習ヲ爲スノミナリ且英人隊ハ新兵ヲ有セサルカ故ニ其ノ勞力ハ我カ國ノ軍隊ニ比シ甚シキ差異アリ加之兵營モ酷暑ノ氣候ニ堪ヘ得ル如ク設備セラレ夏期ニハ電氣扇若ハ土人苦力ヲ以テ回轉セシムル送風器ヲ使用シ給養良好ナルノミナラス俸給ノ如キハ殆ト本國ノモノニ二倍シ娛樂機關衛生設備完備セリ

階級及進級

英人將校ノ階級ハ本國ノモノニ同シ其ノ進級ハ停年、試験及拔擢ニ依ルモノニシテ少尉ヨリ少佐ニ至ルマテノ階級ニ在ルモノハ規定ノ停年ト進級試験ヲ受ケサル可カラス中佐以上ハ拔擢ニ依ル幕僚ニ補職セララルモノニ在リテハ特別ノ任用試験ヲ經サル可カラス

土人將校ノ階級ハ少佐以下ニシテ其ノ進級ハ全ク拔擢ニ依ル又少佐ニシテ職務ニ忠實ナルノミナラス功勞顯著ナル者ハ英國名譽大尉ノ階級ニ昇叙ス

俸給

一 英人將校ノ俸給

本國ノ者ニ比スレハ遙ニ高額ニシテ氣候酷烈、言語慣習ヲ異ニセル異域ノ勤務ヲ獎勵セリ今其ノ俸給月額ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ

- 全軍司令官 五千四百三十三圓三十二錢
- 軍務局長 二千百六圓
- 各兵監 一千四百三十四圓四十錢
- 經理局長 一千六百三十圓
- 參謀大學校長 一千三百四圓
- 同 兵學教官 六百七十八圓
- 軍司令官(大將) 三千七百七十八圓五十四錢
- 師團長(中將) 三千三十二圓

旅團長(少將)

二千三百七十圓二十二錢

英人隊附將校ノ俸給月額左ノ如シ

階級	歩兵		騎兵		砲兵		其ノ他ノ砲兵
	大	少	大	少	大	少	
大佐	六五二、四七	四一七、八四	六七六、一二	四五一、四七	六七六、一二	五二七、七三	六五二、四七
中佐	二七〇、八二	一四四、二七	三〇八、四〇	一九九、〇二	三〇八、四〇	一九九、〇二	二七二、一八
大尉	一四四、二七	一三二、二〇	一九九、〇二	一六三、四一	一九九、〇二	一六三、四一	一六八、九五
中尉	一三二、二〇	一三二、二〇	一六三、四一	一六三、四一	一六三、四一	一六三、四一	一三九、〇七

土人隊附英人將校ノ俸給ハ英人隊附ノモノヨリ更ニ多額ナリ尙ホ土語ノ試験ニ及第シタル者ニ對シテハ各種土語ノ難易程度ノ高低ニ從ヒ五十二圓乃至三千二百六十圓ノ賞金ヲ附與スルノ制アリ亦以テ如何ニ困難ナル土人隊附ヲ獎勵セルヤヲ窺フニ足ル可シ

二 英人准士官、下士卒ノ俸給

主要ナル階級ニ就テ一例ヲ示セハ左表ノ如シ但表中ノ數字ハ日額ヲ示ス

階級	歩兵		騎兵		砲兵		其ノ他ノ砲兵	工兵
	大	少	大	少	大	少		
特務曹長	二四四	一九五	二六〇	二二五	二九三	二八四	二九三	二九三
給養軍曹	一九五	九八	二二二	一六二	二二五	二〇七	二〇七	二一九
軍曹	九八	八一	一〇〇	九八	一六二	一五四	一五四	一五八
伍長	八一	八一	九八	九八	一三〇	一一二	一一二	一一二
兵卒	四九	四九	五七	五七	六五	一一〇	一一〇	一〇六
喇叭卒	五三	五三	六五	六五	九八	五九	五九	五九

三 土人將校、下士卒ノ俸給

土人將校、下士卒ハ悉ク俸給ニ依リ自活セシムルノ制ヲ採レリ是レ印度ニ於テハ人種、宗教等ノ差別ニ依リ多クハ異種族、異教徒ノ手ニ成レル食物ヲ口ニセサルノ慣習アルヲ以テナリ

今各階級ニ對スル俸給月額ヲ示セハ左ノ如シ

階級	線列歩兵隊	普通騎兵隊	土人山砲兵	工兵
少佐	七四、九八	一一八、六六	七四、九八	七四、九八

大	尉	七四、九八	一一八、六六	七四、九八	七四、九八
中	尉	三七、四八	九二、五八	三七、四八	三七、四九
少	尉	—	四四、三四	—	—
特務	曹長	—	四〇、四二	—	—
曹	長	—	—	—	—
軍	曹長	一三、七〇	一八、九一	一六、三〇	一五、〇〇
伍	長	一三、四〇	一五、六五	一三、七〇	一三、七〇
鼓	(喇叭) 手	六、八四	一五、六五	—	—
兵	卒	六、八四	九、四五	八、一四	八、一五

第六節 常備軍ノ平時編制

一 軍

軍ハ軍司令官、五師團及若干ノ獨立旅團ヨリ成ル軍司令官ハ大將若ハ中將ヲ以テ之ニ補ス

二 師團

師團ノ編制ハ一定セスト雖モ通常師團司令部步兵二乃至四旅團及他兵種ヲ包含セル師團直屬部隊ヨリ成ル師團長ハ中將若ハ少將ヲ以テ之ニ補ス

三 旅團

旅團ノ編制ハ地方ニ依リテ差異アリ印度西北境ニ在ル獨立三旅團ニアリテハ歩騎兵及山砲兵ノ三兵種ヨリ成リ其ノ他歩兵旅團及單ニ旅團ト稱スルモノハ歩兵二乃至九大隊、騎兵旅團ハ騎兵二乃至四聯隊ヨリ成ル各旅團ハ概ネ英人隊及土人隊ノ混成ナルモ土人隊ノミヲ以テ編成セルモノアリ
旅團長ハ少將ヲ以テ之ニ補ス

四 英人隊ノ編制

歩兵大隊 八中隊ヨリ成リ中佐ヲ以テ大隊長、少佐ヲ以テ副大隊長トナス大隊ノ人員ハ總計一千三十三人トス
歩兵中隊ハ少佐若ハ大尉ヲ以テ其ノ長トナシ一中隊ハ二半中隊ニ分チ中、少尉之ヲ指揮シ各半中隊ハ更ニ之ヲ二小隊ニ分チ下士ヲ以テ長トス中隊ハ下士以下百十五名ヨリ成ル

大隊ニ駄載式マキシム機關銃二挺ヨリ成ル一機關銃隊ヲ屬ス

騎兵聯隊 四中隊ヨリ成リ中佐ヲ以テ聯隊長トナシ少佐ヲ以テ副聯隊長トナ

ス聯隊ノ總人員ハ六百二十七名馬五百六十一頭ナリ

騎兵中隊ハ少佐若ハ大尉ヲ以テ長トシ中隊附將校四名下士卒百四十六名ヨリ

成ル

聯隊ニハ歩兵聯隊ト同編制ノ機關銃隊ヲ配屬ス

砲兵隊 騎砲兵野砲兵野戰榴彈砲兵重砲兵山砲兵及要塞砲兵ノ六種ヨリ成ル

各中隊長ハ少佐ヲ以テ長トシ大尉一名之ヲ輔佐ス大隊ヲ編成スルモノニアリ

テハ中佐ヲ以テ之カ長ト爲ス

騎砲兵中隊ハ十三封速射砲六門ヨリ成リ其ノ人員(甲)百九十八名(乙)百六十七

名トス

野砲兵中隊ハ十八封速射砲六門ヨリ成リ其ノ人員(甲)百九十四名(乙)百六十二

名ニシテ三中隊ヲ以テ一大隊ト爲ス

野戰榴彈砲中隊ハ五吋榴彈砲四門ヨリ成リ三中隊ヲ以テ一大隊ト爲ス其ノ人

員ハ野砲兵ニ準ス

重砲兵中隊ハ三十封四吋或ハ五吋底裝砲各四門ヨリ成リ其ノ人員ハ二百名ト

ス

山砲兵中隊ハ十封底裝砲六門ヨリ成リ其ノ人員ハ三百三十二名トス要塞砲兵

中隊ハ主トシテ海岸若ハ國境ノ要塞ニ配備セラレ其ノ人員ハ四百十五名ヨリ

成ル

工兵團 英國工兵ノ將校下士ヨリ成ル一團ニシテ土人ヲ以テ編成セル水雷敷

設隊工兵隊及陸軍建築部ノ幹部タルモノトス

五 土人隊ノ編制

土人ハ異種族異宗教ノモノハ飲食起居ヲ共ニスルコトヲ欲セス從テ共同生活ヲ
爲ス可キ軍隊ノ編制ニ大ナル關係ヲ有スルヤ明ナリ尙ホ一方ニ於テハ千八百五
十七年ノ土人隊ノ大叛亂ニ於ケル悲惨ナル經驗ニ依リ土人兵ノ反抗ヲ豫防セン
コトヲ顧慮シ二様ノ編制ヲ採用セリ今之ヲ歩兵隊ニ就テ例示セハ階級聯隊及階
級中隊聯隊即チ是ナリ甲ハ全聯隊悉ク同人種同宗教ノモノヲ以テ編成シタルモ

ノニシテ乙ハ中隊毎ニ同種族同宗教ノモノヲ合シテ聯隊ヲ編成シタルモノトス
左ニ各兵種ニ付其ノ編成ノ大要ヲ述ヘン

歩兵隊 二中隊ヲ以テ一戰團單位トシ英人少佐若ハ大尉ヲ以テ長トス之ヲ複
中隊制ト云フ而シテ一中隊ハ土人將校ヲ以テ長トシ下士以下約百十名ヨリ成
ル

聯隊ハ通常八中隊ヨリ成リ英人中佐ヲ以テ長トシ英人少佐土人中(少)尉各一名
ヲ以テ副官トス尙ホ土人少佐一名ヲ以テ聯隊附ト爲ス

歩兵聯隊ノ編制ハ地方ニ依リテ多少ノ差異アルモ其ノ基準トス可キモノハ聯
隊ノ總員九百二十六名ニシテ一機關銃隊ヲ有スルコト英人歩兵隊ニ同シ

騎兵隊 ハ主トシテ階級中隊制ニシテ四中隊ヲ以テ一聯隊トス聯隊長ハ英人
中佐ニシテ中隊長ハ英人少佐若クハ大尉トス聯隊附トシテ土人少佐一名聯隊
副官トシテ土人中(少)尉一名ヲ附ス

騎兵聯隊ノ編制ハ一様ナラサルモ其ノ基準トス可キモノハ聯隊ノ總員六百十
七名(乘馬六百十七頭)ニシテ一機關銃隊ヲ有スルコト英人騎兵隊ニ同シ

砲兵隊

土人砲兵隊ハ山砲兵十二中隊及國境要塞砲兵一中隊アルノミナリ中
隊ハ英人大尉ヲ以テ長トシ英人及土人中(少)尉ヲ以テ中隊附トス

中隊ハ十斤底裝砲六門ヲ有シ人員總計山砲中隊ハ三百六十五名要塞砲兵中隊
ハ二百七十九名ナリ

工兵隊

土人工兵隊ノ大部分ハ平時陸軍工務局長ノ監督下ニ在リテ軍用永久
工事及軍用技術ニ従事スルモノトス其ノ他軍用鐵道建築ノ爲ニハ別ニ鐵道二
中隊アリ

土人工兵ノ性質以上ノ如クナルヲ以テ我カ國ノ工兵ト同一視ス可キモノニ非ラ
ス其ノ編制上ニ於ケル團結ノ要領ニ至リテモ大ニ趣ヲ異ニセルモノアリ即チ
土人全工兵隊(鐵道中隊ヲ除ク)ヲ第一乃至第三ノ工兵團ニ大別シ各團ハ通常七乃至
八中隊及一補充中隊ヨリ成ル今其ノ編成ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ

區	分	第一工兵團	第二工兵團	第三工兵團
勤務	中隊	六	七	六
特種勤務	中隊	一	一	一

要塞中隊	氣球隊	補充中隊	人員計
1	1	1	1,572
1	1	1	1,571
1	1	1	1,429

勤務中隊ハ通常軍用及地方ノ永久工事ニ従事ス

特種勤務中隊ハ軍用技術ニ従事ス

要塞中隊ハ亞丁要塞ニ專屬ス

氣球隊ハ試験的ニ設置セラレタルモノトス

補充中隊ハ各工兵中隊ニ補充ス可キ新兵ノ訓練ニ任ス

六 補助軍

義勇兵 印度在住英人中ノ志願者ヲ以テ組織ス其ノ組織及訓練ハ概ネ英本國

ノ地方軍ニ同シ其ノ人員ハ合計三萬二千七百二十七人アリ

帝國勤務兵 土侯ノ軍隊ニシテ諸兵種ヨリ成リ印度總督ノ任命スル英人將

校之カ監督指導ニ任シ有事ノ日印度軍ニ助力シ以テ印度皇帝ニ對スル土侯ノ

忠誠ヲ表彰ス其ノ兵數ハ大約二萬人ヲ限リトス

第七節 平時兵力

南北兩軍ノ編組中ニアル將校以下ノ總人員ハ二十三萬六千三百七十二人ニシテ其ノ隊數ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 步兵 百八十二大隊
- 騎兵 四十七聯隊ト一小隊
- 騎砲兵 十一中隊
- 野砲兵 四十二中隊
- 野戰榴彈砲兵 三中隊
- 山砲兵 二十中隊
- 重砲兵 八中隊
- 要塞砲兵 二十一中隊
- 工兵 二十三中隊

- 水雷敷設隊 三中隊ト一小隊
- 鐵道隊 二中隊
- 氣球隊 一隊

第八節 平時兵力ノ配置

印度全軍ヲ南北二軍ニ編成シ北方軍ハ師團五箇及獨立旅團三箇ヨリ成リ五箇師團ヲ北部阿富汗ニ面シ比馬拉山麓ガンヂス河谷ノ大鐵道線ニ沿フテ前後ニ重疊シ尙ホ獨立三旅團ヲ國境ニ近ク配置シ南方軍ヲ師團四箇緬甸師團及亞丁旅團ヨリ成リ四箇師團ヲ「クエッタ」孟買「マドラス」鐵道線路ニ沿ヒ南部阿富汗ニ對シ梯次ニ配置シ別ニ此ノ軍ニ屬スル緬甸師團及亞丁旅團ヲシテ守備ノ位置ヲ採ラシメタリ

第九節 要塞

印度帝國ニ於ケル要塞堡壘等ハ多クハ舊式ニシテ殆ント今日ノ防禦戰闘ニ堪ユ

ルモノナシ即チ阿富汗方面ノ國境防禦ニハ單ニ主要ナル道路上ニ止阻的ノ小堡ヲ設ケ土蕃鎮壓ノ據點タルニ止マリ支那、暹羅、佛領、印度支那ニ對シテハ若干ノ要點ニ哨所ヲ設ケ警戒ヲ爲スニ過キス内地ニ於ケル堡壘モ往時都市防禦ノ目的ヲ以テ建設セラレタルモノニ過キスシテ今日ノ實用ニ適セス

海港ノ防禦モ海上ヨリスル敵ノ攻撃ニ對抗セントスルニハアラスシテ初期ニ於ケル英國貿易地防禦ノ目的ヲ以テ施設セラレタルモノ多シ唯、孟買、カルカッタ及亞丁ニハ現時稍、堅固ナル海岸砲臺ヲ築設シアリ

第十節 教育及學校

參謀大學校 參謀將校養成ノ爲メ印度軍ノ作戰根據地タル「クエッタ」ニ設ク

中央體操學校 四箇所ニ置キ英人將校下士卒ニ體操術ヲ教授ス

信號學校 二箇所ニ設ケ英人隊及土人隊ニ於ケル信號術教官及助手タル可キ將校下士ヲ養成ス

獸醫學校 四校アリ
 工科學校 英人工兵下士卒ニ工兵技術上ノ學術科ヲ教授ス
 乘馬步兵學校 二校アリ
 「トマソン」軍事學校 英人下士卒ニ普通學及軍事學ヲ教授ス
 陸軍普通學校 軍隊内ニ設ケ兵卒及土人兵卒ノ兒童ニ普通學ヲ教授ス
 印度ニ於ケル軍隊教育ハ夏季ニ於ケル炎暑酷烈ノ爲メ冬季即チ一年ノ一半ニ於テ之ヲ實施ス其ノ教育期ハ十月十五日ニ始マリ翌年四月十五日ニ終ルモノトス
 軍隊ノ教育課目中射撃ハ頗ル重キヲ置キ多クノ時間ト彈藥トヲ費シテ良射手ノ養成ニ努ム

第十一節 戰時編制ノ大要

一 軍

平時ニ於ケル南北兩軍ヲ基礎トシ若干ノ野戰師團及騎兵旅團ヲ基幹トセルモノヨリ成ル即チ平時ニ於ケル線列九師團及獨立三旅團ヲ基幹トシテ二個ノ野戰軍

ヲ編成シ其ノ殘餘ノ緬甸師團及亞丁旅團ハ守備軍ノ位置ヲ採ラシメントスルモノナリ

二 師團

師團ハ諸兵種ヲ包含シ左ノ諸部團隊ヨリ成ル

師團司令部

步兵三旅團(英人步兵一旅團
土人步兵二旅團)

師團直屬部隊

測量班一個

師團糧食縱列一個

師團ノ總人員ハ一萬九千六百八十人及一萬九千六百四十二人ノ二種トス

三 旅團

步兵旅團 英人步兵旅團土人步兵旅團及英人土人混成步兵旅團ノ三種アリ各

兵旅團ハ左ノ諸隊ヨリ成ル

旅團司令部

印度 第二章 陸軍

步兵四大隊

野戰病院二個

野戰郵便局一個

步兵旅團糧食縱列一個

步兵一旅團ノ總兵力ハ左ノ如シ

英人旅團 四千九百九十人

土人旅團 四千五百七十七人

騎兵旅團 騎兵旅團ハ獨立シテ動作シ得ルノ機能ヲ有シ左ノ諸部隊ヨリ成ル

旅團司令部

騎兵三聯隊(英人騎兵聯隊一個 土人騎兵聯隊二個)

騎砲兵一中隊

騎兵旅團彈藥縱列一個

野戰病院三班

野戰郵便局一個

騎兵旅團糧食縱列

騎兵一旅團ノ總兵力ハ人二千九百九十四人馬一千九百三十頭トス

第十二節 戰時兵力ノ概數

戰時印度ニ於テ編成シ得ヘキ野戰軍ハ野戰九師團騎兵八旅團ニシテ第一線タル可キ總人員ヲ舉クレハ左ノ如シ

將校下士卒 十三萬一千七百八十四人

以上ノ人員ヲ以テ編成シ得ヘキ隊數左ノ如シ

步兵 百八大隊

騎兵 百三十二中隊(三十三聯隊)

騎砲兵 八中隊

野戰砲兵 四十五中隊(內山砲兵十八中隊)

工兵 約二十二中隊

平時ニ於ケル將校下士卒ノ總人員ハ約二十三萬六千人ナルヲ以テ其ノ内ヨリ野

戰軍ノ兵力ヲ控除セル殘餘即チ約十萬五千人ハ内地ノ守備後方勤務及野戰軍ノ補充ニ供セラルル可キモノトス

露西亞

第一章 國勢ノ概要

第一節 政體、交通、文化

一 政體

露國ハ其ノ源ヲ北人「ルーリック」ノ建國(八百六十二年)ニ發セリト雖モ現露國ノ基礎ハ彼得大帝(一六八九年即位)ノ建業ニヨリ確立セラレタルモノニシテ其ノ發達

ハ自來僅々二百年ノ間ニ於テセラレ所謂新進國ノ一ナリトス而シテ其ノ政體ハ由來無限世襲君主獨裁政治ナリシカ積年國情ノ推移ト殊ニ日露戰役ノ影響トニ依リ千九百五年詔シテ上下兩院ヲ開設シ茲ニ立憲政體ノ端緒ヲ開キ臣民ニ自由ノ確實ナル根據ヲ與フルコトヲ告知シ千九百六年五月七日ヲ以テ憲法ヲ發布セリ

近代ニ於ケル露國ノ皇室ハ「ロマノフ、ホルスタイン」家ノ出ニシテ現皇帝「ニコラス」二世ハ先帝「アレクサンドル」三世ノ長子ニ當リ千八百九十四年ヲ以テ即位ス四皇女一皇子アリ皇太后ハ丁抹皇室ノ出トス
皇帝ハ政治機關ノ中樞ニシテ最高統治權ヲ有シ内閣ハ宮内、外務、陸軍、海軍、內務、文部、大藏、司法、農務、交通、商工、務各大臣、會計、檢査、院長、宗務院、總裁、芬蘭事務總督ヨリ成リ大臣會議ヲ組織シ其ノ議長ハ即チ内閣議長ニシテ總理大臣ニ相當ス其ノ他若干ノ獨立官衙アリ又樞密院アリテ現時ハ主トシテ高等法院タルノ職ヲ行フ帝國議會ハ法律及豫算案ヲ討議スル所ニシテ國議院及代議院ヨリ成リ前者ハ上院ニ相當シ召集セラルル可キ議員ノ半數ハ勅選トシ他ノ半數ハ民選ニ依ルモノニシテ

任期ヲ九年トス又後者ハ下院ニ相當シ民選ヲ以テスル議員四百四十二名ヨリ成
リ其ノ任期ヲ五年トス而シテ兩院ハ立法事項ニ對シ同一ノ權ヲ有ス
地方ノ行政ハ左ノ如ク七十九縣二十州ニ分チ知事ヲ長トシ政務ヲ處理ス其ノ内
國境若ハ樞要ノ地方ニシテ軍政ヲ兼掌スルモノハ武官ヲ以テ之ニ任シ軍務知
事ト名ク

芬蘭大公國 八 縣

歐羅巴露西亞 四十九縣一州

波 蘭 十 縣

高加索 八縣四州

西比利 四縣六州

中央亞細亞 九 州

各縣及州ハ更ニ之ヲ郡若ハ區ニ分ツ

全領土ニ亘リ數州縣ヲ通シテ八個ノ總督管區ヲ設ク即チ波蘭「ウイリナ」キエフ「莫
斯克」土耳其斯坦曠原地方「イルク」ク「沿黑龍」是ナリ各總督管區ニハ總督府ヲ設

ケ總督ハ皇帝ニ直隸シ管區内一切ノ行政ニ任ス而シテ從來多ク總督ハ軍管司令
官ヲ兼務セシモ近時之ヲ分立スルノ傾向アリ

芬蘭大公國ハ露西亞帝國ノ一部ヲ成形スルモ其ノ内政ニ關シテハ別ニ總督ヲ置
キ又固有ノ議會ヲ有シ特別法規ヲ以テ之ヲ治理ス

司法權ハ法律ニ因テ定メタル裁判所之ヲ行ヒ其ノ判決ハ皇帝ノ名ヲ以テス

二 交 通

露國ノ交通中特ニ茲ニ揭ク可キモノハ鐵道及水路トス

鐵道 露國鐵道ハ千八百三十六年彼得堡「ツアルスコエ」「パウロウスク」間ニ
二十五露里（我十露里ハ）ヲ敷設セルヲ其ノ濫觴トシ自來銳意之カ進歩ヲ計リ今ヤ
鐵道ノ總延長ハ一九〇九年ニ於テ殆ト六萬六千露里ニ達シ其ノ約二分一ハ官有
トス而シテ其ノ全國ニ對スル鐵道網ハ甚タ密ナリト云フヲ得サルモ西部ニ於テ
ハ概ネ其ノ網形ヲ具備シ且多クハ軍事上ノ需要ニ鑑ミテ之ヲ敷設セルノ長所ヲ
有ス即チ露國ハ其ノ財政ノ困難ト年々巨額ノ損失トニ拘ラス斷乎トシテ其ノ戰
畧的鐵道線ヲ構築シ千九百九年支出額ノ如キハ實ニ五億九千七百萬留ノ多キニ

達セリ而シテ目下其ノ露國中部ヨリ各方面ニ通スル線路ノ主要ナルモノヲ擧ク
レハ

西方國境ニ向フモノ 少クモ四條アリテ其ノ大部ハ複線

西南國境ニ向フモノ 少クモ二條アリテ其ノ一ハ複線

南方國境ニ向フモノ 二條(中央亞細亞並高加索ニ各一條)

極東方面ニ向フモノ 所謂西伯利大鐵道ニシテ「キタイスキ」驛以西ハ複線ニ

ヨリ其ノ以東ハ東清黑龍、烏蘇里ノ各鐵道ニヨリ相俟テ全線二條トナル

以上ノ外尙ホ波爾的海ニ於テハ二條黑海ニ於テハ三條ノ線路各内地ヨリ來リテ
其ノ端末ヲ海岸ニ接セリ

是等諸鐵道ハ平時輸出港及國境稅關ニ向テ露國產業ノ重要品タル穀類ノ輸出ニ
盡ス所多キハ勿論其ノ多クハ廣軌ニシテ且其ノ方向作戰上ノ要機ヲ備フルヲ以
テ軍事輸送上多大ノ便宜ヲ有シ大命一下軍隊ハ直ニ所望ノ國境ニ對シ急速ナル
集中ヲ行フヲ得ヘシ就中茲ニ一言ス可キハ西伯利大鐵道ニシテ該鐵道ハ千八百
九十一年日本視察ノ歸途ニアリシ當時ノ皇太子タル現皇帝ノ第一搬土ニヨリテ

其ノ工ヲ起シ自來多大ノ辛酸ヲ嘗メシカ千八百九十六年東清鐵道會社ノ成立ニ
遭フテ千九百一年漸ク貝加爾迂回線ヲ除クノ外ハ全部開通シ千九百三年ヨリ全
線ノ營業ヲ開始セリ而シテ其ノ當初ニ於テハ一日三四列車ヲ運行スルニ過キサ
リシカ日露戰役前ヨリ全線ノ改築工事ニ著手シ次テ戰役ノ起ルヤ引續キ銳意輸
送力ノ増加ニ勉メ戰役ノ終期ニ於テハ概ネ一日十五列車ノ往復ヲ見ルニ至レリ
今ヤ露國ハ戰後更ニ此ノ大鐵道ノ改築ヲ續行シ其ノ輕量軌鐵ヲ重量軌鐵ト交換
シ傾斜曲形ヲ修正シ或ハ全然之ヲ別途ニ改メ殊ニ複線工事ハ著々進捗シテ其ノ
完成ハ千九百十四年ニ豫定セラレ黑龍鐵道モ亦極力構築ヲ急キテ千九百十六年
ニ其ノ竣工ヲ見ルノ豫定ニアルヲ以テ今後五年ヲ出テスシテ西伯利大鐵道ノ輸
送力ノ最大限ハ一日優ニ四十列車ヲ往復シ得ルニ至ル可ク極東ニ對スル露軍機
動ノ潛勢力ハ曩日ニ比シ遙ニ高上スルニ至ル可シ

水路 露國ハ其ノ國內ヲ流ルル數多ノ河流ニヨリ古來交通上ノ利益ヲ享有シ

殊ニ鐵道ノ發達以前ニ於テハ其ノ施設ノ見ル可キモノ少ナカラス今其ノ西伯利
地方ニアルモノニ就テ概説スレハ由來西伯利地方ニハ「オビ」エニセイ「レナ」及黑龍

江ノ四大河アリテ其ノ支流ハ縱横ニ奔流シ各水路ハ概シテ舟楫ノ便アリ而シテ此ノ内黒龍江ヲ除クノ外ハ皆北氷洋ニ注流シ寒氣ノ爲メ一年ノ中五六箇月ハ氷結シテ用フ可カラス加フルニ其ノ下流部ハ西伯利ノ饒地ヲ去リ僅ニ魚類ノ輸送ニ供セラレルニ過キスト雖モ北氷洋ノ航行發達スルニ至ラハ軍事上並經濟上受クル所ノ利益亦少ナカラサル可ク尙ホ其ノ上流ハ現今ニ於テモ蒙古ノ交通ニ與テ力アリ西伯利交通上最重要ナル東西ノ水運「オビ」河ノ支流タル「イルツイシユ」オ「ヒ」上流「オビ」ニニセイ「運河」エニセイ「上流」アンガラ「貝加爾湖」及黒龍江ノ水系ヨリ成ルモノニシテ西伯利大鐵道ニ並行セル一大東西交通機關ヲナシ其ノ大部ハ船ヲ通シ得ヘク鐵道ノ全通セル今日ニ於テモ尙ホ其ノ利用ヲ要スルモノ少ナカラス殊ニ日露戰役中ニ於テハ補助連絡線トナリ或ハ地方住民ノ需要ヲ充タシテ鐵道ニヨル軍事輸送ヲ助ケ以テ軍隊ノ給養上貢獻セル所少ナカラサリシカ如シ今ヤ鐵道ノ發達ニ伴ヒ稍減退ノ觀ナシトセサルモ露國タルモノ今後ト雖モ決シテ此ノ天與ノ交通機關ヲ放棄セサルハ疑ヲ容レサル所ナリ

三 文化

露國ニ於ケル一般ノ教育ハ從來他ノ歐洲列國ニ比シ其ノ程度比較的下位ニアリタリ元ヨリ大都市ニハ高等專門ノ諸學校備ハリテ其ノ學生亦少ナカラスト雖モ其ノ大多數ナル村落ニハ學校ノ設備甚タ少ク小學校ハ比較的多數ナル「モスク」縣ニ於テモ十三平方露里ニ一校ノ比ニシテ西伯利地方ノ如キハ二三〇〇平方露里ニ一校ヲ有スルノミ「千九百九年調」從テ全國ニ於ケル文字ヲ解スルモノノ千分比例ハ男二九三女一三一一人ノ比ナリ「千九百五年調」以テ其ノ教育ノ普及ラサルヲ知ル可シ近年當局ハ此等教育ノ不備カ最近戰役ニ於ケル戰敗ノ一原因ヲナセルモノナリトシ頻リニ之カ改善ヲ計リ最近統計「千九百九年」ニヨルニ小學校ノ就學兒童ハ學齡兒童千人ニ對シ三九ニシテ千九百年ノ二一ニ比スレハ殆ト倍數トナリ更ニ之ヲ千八百八十年ニ比スレハ男兒ニ於テ三倍半、女兒ニ於テ六倍ノ増加ヲ來セリト云フ以テ其ノ發達ノ迅速ナルヲ知ル可シ

教育ノ普及尙ホ十分ナラサルニ反シ宗教ハ頗ル重要ナル位置ヲ占メ其ノ最高機關タル宗務院ハ天皇ニ直隸シ寺院ハ到ル所ニ其ノ燦爛タル姿ヲ表ハセリ即チ人民ノ皇室國家ニ對スル觀念ハ宗教ヨリ支配セララルト云フモ過言ニアラサル可

シ而シテ露國ニ於ケル主ナル宗教ハ希臘教ニ屬スト雖モ回教「カトリック」教猶大教
新教等ノ信徒モ亦少ナカラスシテ殆ト百分ノ三〇ヲ占ム其ノ主ナルモノハ回教

「カトリック」教猶大教新教之ナリ
之ヲ要スルニ露國ニ於テハ教育アル中等國民ノ社會上ニ其ノ位置ヲ占ムルコト
重カラス爲ニ從來貴族ト庶民トノ關係稍圓滑ヲ缺クノ觀アリシモ近時各般ノ改
良施設著々實行セララルヲ以テ將來國運ノ發展益見ルニ足ル可キモノアラン

第二節 面積及人口

一 面積

露國ハ歐亞二洲ニ跨リ西ハ「フエロ」カナリー群島中ノ一島ノ東經三十五度三十分
ヨリ起リ東ハ西經二十八度ニ擴カリ南ハ北緯三十五度四十五分ヨリ起リ北ハ七
十九度ニ亘ル即チ東西ノ最モ廣キハ百七十二度三十分ニシテ南北ノ最モ廣キハ
四十三度十五分ナリ而シテ南北ノ中央線ハ概ネ北緯六十度附近ニシテ全國ノ大
部ハ寒帶ニ屬シ只一部即チ中央亞細亞及歐露ノ南部ノミ温帶ニ屬ス

全露國ノ面積ハ千九百九萬九千八百八十六平方露里(二千二百二十九萬六千七百
二十七平方吉米)ニシテ地球陸地ノ六分ノ一ヲ占メ日本ノ三十三倍半ニ當リ廣袤
ノ大ナルコト世界列國中第二位ニアリ其ノ內露國本部ノ面積ハ四百二十三萬八
千七百一十一露國(五百三十七萬七千四百四十四平方吉米)ニシテ西伯利ハ千九十四
萬六百四十四露里(千六百六十五萬四千二百八十三平方吉米)ナリ

二 人口

露國ハ由來人種ノ複雜ヲ以テ有名ナル國ニシテ單ニ歐露ニ於テスラ其ノ數二十
ヲ下ラス其ノ大多數ヲ占ムルハ露西亞人ニシテ「スラ」種族ニ屬シ全人口ノ三
分ノ二ヲ占メ之ニ次クモノハ土耳其韃靼人ニシテ一割六分ヲ占ム其ノ他主ナル
モノハ波蘭人「フィン」人猶太人「リトワン」人「ラト」人及高加索人獨乙人等ニシテ是
等異種族ニ至テハ今尙ホ直接間接國力ノ發展ヲ阻止スルモノ少ナカラス
露國ノ總人口ハ近時一億六千三百萬ニ達ス可ク即チ世界人口ノ百分ノ八一五ヲ
占メ日本人口ノ二倍半ニ當リ人口ノ多キコト世界第三位ニ位ス此ノ內歐露五十
州縣ノ住民ハ四分ノ三ヲ占メ殘餘四分ノ一ハ各地方ニ散在スルモノトテ而シテ

之ヲ一方露里ニ配當スレハ全般ニ於テ平均八五人(一平方吉米七〇)ナルモ波蘭ノ如キハ一平方露里八三五ヲ算スルニ拘ラス西伯利ノ如キハ一平方露里ニ對シ〇六ヲ算スルニ過キスシテ稠密ノ度ハ地方ニヨリ著シキ差異アリ要スルニ露國ノ人口密度ハ甚タ稀薄ニシテ歐洲諸國中諾威ヲ除キテハ最下位ニ位シ我カ日本ハ密度ニ於テハ其ノ十三倍以上ニ相當ス然レトモ其ノ增加率ハ近年歐露ニ於テ百五十萬内外ヲ得ルニ至リ之ヲ十三年前(千八百九十七年)ニ比スレハ全國ニ於テ實ニ三千六百八十八萬餘ノ増加ヲ致セリ

西伯利方面ニ於ケル移民ハ西伯利大鐵道敷設事業開始以前ニ於テハ微微タルモノナリシカ其ノ後當局ハ該地方ノ百般ノ經濟事業ハ移民ノ結果ニ待ツニアラサレハ其ノ發展ヲ期シ難キヲ悟リ極力之カ獎勵ニ勉メ西部西伯利鐵道開通期ヨリ日露戰前マテハ西伯利及曠原地方ニ對シ年年十萬乃至二十餘萬人ヲ又戰役後ハ四十萬乃至六十萬人ヲ移住セシムルニ至レリ而シテ其ノ一部(最近五年ノ平均人員一年五萬餘)ハ再ヒ歐露ニ歸還ス可シト雖モ千九百十年ニ於ケル西伯利ノ人口ハ八百二十二萬餘ナリト云ヘハ自後該人口ノ一千萬人ニ達スルハ敢テ多年ヲ要

セサル可シ

第三節 一般豫算、陸軍豫算

露國ノ財政ハ由來順調ヲ缺キ殊ニ戰餘ノ疲弊ハ痛ク財界ノ混亂ヲ招キ千九百四年以降毎年一、二億萬留ノ缺陷ヲ生シ新國債ニヨリ僅ニ一時ヲ彌縫セシカ當局ノ苦心ニヨリ漸ク救済ノ道ヲ開キ殊ニ千九百九年、千九百十年ノ兩年ニ於ケル露國稀代ノ豐作ハ大ニ財源ノ自然的増加ヲ致シ千九百九年度ハ歲出入ノ均衡ヲ得次テ千九百十年度ニハ歲入超過トナリ今ヤ財政ノ基礎ハ著著鞏固ヲ増スノ状態ニアリ左ニ千九百十一年度ノ確定豫算ヲ概示スレハ

歲入總計 二、七二〇、一〇八、八二七留(二留ハ略我カ一圓ニ等シ)

歲出總計 二、七二〇、一〇八、八二七留(國民一人ノ負擔約十七留)

ニシテ前年度ニ比スレハ經常歲入ニ於テ一億二千七百六十四萬五千三百二十九留臨時歲入ニ於テ七十七萬五千六百十七留經常歲入ノ超過ニ於テ六十萬留ヲ増加セリ此ノ內陸軍省支出豫算額ハ

經常歲出 四億八千二百六十八萬三千七百二十四留
 臨時歲出 四千八百八十五萬留
 即チ總計五億三千五百三十三萬三千七百二十四留(國民一人ノ負擔額約三留)ニシテ
 之ヲ前年度ニ比較スレハ八十萬留ノ増加ヲ示シ歲出總計ニ對スル比ハ一割八分
 ヲ占ム

尙ホ左ニ今回議會ニ提出セラレタル千九百二十二年豫算案ヲ示セハ

歲入總計 二十九億七千五百二十五萬二千百留

歲出總計 二十九億七千五百二十五萬二千百留

ニシテ之ヲ千九百十一年度ノ確定豫算ニ比スレハ歲出入共約二億五千五百萬留
 餘ノ増加ヲ示シ内陸軍費ハ

經常歲出 四億九千四百二十九萬七千九百七十留

臨時歲出 七千萬留

計五億六千四百二十九萬七千九百七十留ニシテ之ヲ千九百十一年度ノ陸軍費ニ
 比スレハ三千三百萬留以上ノ増加ヲ來スノ豫定ナリ

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

露西亞帝國ノ陸軍ハ常備軍及國民軍ヨリ成リ常備軍ハ更ニ正規軍及哥薩軍ニ分
 タル

一 常備軍

(1) 正規軍ハ左ノ如ク區別セララル

野戰部隊

要塞部隊

豫備部隊

補充隊

地方隊

補助任務部隊

野戰部隊ニハ近衛部隊選拔部隊及線列部隊ノ別アリテ共ニ步騎砲技術兵ノ四兵

種ヨリ成リ近衛及選抜部隊ニ屬スルモノハ特別ノ徵兵法ニヨリ編制セラルルモ其ノ編制及訓練ニ至リテハ他ノ部隊ト異ナルコトナシ又野戰部隊ニハ狙撃兵ト稱スルモノアリ多ク身幹中等ノ兵卒ヨリ成リ比較的射撃ニ長スル者ニシテ主トシテ國境ニ配置セラレ其ノ極東及土耳其斯坦地方ニ駐屯スル者ハ平時ヨリ戰時定員ニ近キ編制ヲ有ス

要塞部隊ハ要塞砲兵(要塞武備ノ程度ニヨリ旅團大隊及獨立中隊ヨリ成ル)要塞工兵中隊、要塞水雷中隊、要塞軍用電信隊ヨリ成ル

豫備部隊ハ戰時ニ之ヲ編成シ野戰部隊ヲ増援シ又ハ内地ノ諸勤務ニ服スルヲ任務トスルモノニシテ從來平時ヨリ其ノ基幹部隊ヲ有セシカ千九百十年之ヲ廢シ一般軍隊ニ於テ其ノ動員ヲ擔任スルコトトナレリ

補充隊ノ任務ハ野戰部隊及豫備部隊ノ補充人馬ヲ養成スルモノニシテ騎兵及騎砲兵ノ爲ニハ平時ヨリ之ヲ置キ其ノ他ニアリテハ戰時ニ至リ始メテ之ヲ編成ス地方隊ハ主トシテ野戰部隊ヲ有セサル市府ニ於ケル衛戍勤務ニ服スルモノニシテ地方部隊及護送隊ヨリ成ル

補助任務部隊ハ非戰部隊ニ屬スルモノニシテ輜重隊、憲兵隊、陸軍諸學校附屬部隊等ヨリ成ル

此ノ他野戰部隊トシテ算ス可キモノヲ鐵道隊及獨立護境兵トス
獨立護境兵ハ國境ニ駐屯シ主トシテ密輸入ヲ防遏スルヲ目的トスルモノナルモ其ノ編制及訓練等野戰部隊ト異ナルコトナシ特ニ滿洲ニ於ケル護境兵ハ軍團ノ編制ヲ成シ主トシテ鐵道ノ守備ニ任ス

(ロ) 哥薩克軍

哥薩克ハ往昔露國ノ諸侯カ其ノ領土ノ警備ニ當テタル一種ノ不規兵ニシテ後ニ至リ露國ハ之ヲ邊疆侵略ニ用ヒテ大ニ効果ヲ表ハセリ近來其ノ編制モ漸次改革セラレテ遂ニ有力ナル軍隊ヲナシ現今ハ全國ニ亘リ屯田兵ノ如ク配置セラレ特種ノ兵役ニ服ス

哥薩克ニハ數種アリ其ノ内最有力ナルモノヲ「ドン」及「クバン」及「オレンブルク」哥薩克トス而シテ其ノ兵種ハ何レモ主トシテ騎兵ヨリ成リ之ニ少數ノ歩兵及砲兵ヲ附ス

二 國民軍

國民軍ハ戰時ニ於テ常備軍ヲ補助スルノ任務ヲ有スルモノニシテ常備軍ニ屬セサル男子ニシテ武器ヲ採ルニ堪ヘ得ヘキ者ヲ以テ之ニ充テ步兵、騎兵、砲兵、要塞砲兵、工兵ノ各兵種ヨル成ル

第二節 中央統轄機關

陸軍最高ノ統帥權ハ大元帥タル皇帝ノ總攬ニ屬ス

陸軍大臣ハ全陸軍ノ長官トシテ各高等會議、陸軍省、各總監部及軍馬補充部等ノ各高等統轄機關ヲ統ヘ軍令、軍政ニ關シ皇帝ニ對シ唯一ノ奏上者トス

別ニ皇帝本營アリ我ガ侍從武官ニ相當シ其ノ本營司令官ハ軍事ニ關スル執奏ヲ行フ

高等會議ト稱スルモノハ軍事會議(陸軍大臣ヲ議長トシ議員ハ高級將官中ヨリ勅任セラレ重要軍務ノ審査決定ニ任ス)中央軍法會議、亞歷山傷兵委員會、高等考科會議、高等重罪軍法會議是ナリ

陸軍省ハ露國陸軍ノ最高統轄機關ニシテ軍令、軍政等軍事ニ關スル萬般ノ事項ヲ

統轄シ官房、總務部、參謀本部、經理本部、砲兵本部、工兵本部、衛生本部、學校本部、司法本部及獸醫部ニ分タル

參謀本部ハ日露戰役後一度陸軍省ヨリ獨立セシカ千九百九年末ニ至リ再ヒ陸軍大臣ノ隸下ニ入レリ現今五部ニ分タレ作戰編制、團隊配置、徵募、動員、軍事交通、測地製圖ニ關スルコトヲ掌ル

總監ハ騎兵總監、砲兵總監、工兵總監、學務總監ニシテ大(中)將ヲ以テ之ニ補シ陸軍大臣ニ直隸シ軍隊ノ戰鬥準備並之ニ關係スル官衙諸學校ノ事業ヲ監査ス

右ノ外軍隊射擊監部及軍馬補充部、軍醫本部アリテ各陸軍大臣ニ隸ス

第三節 地方統轄機關

軍政ノ施行ヲ容易且整然タラシムル爲メ全國ヲ十二軍管區ト一軍州(歐露ハ「ベテ」ルブルク、「ウイリナ」ワルシヤワ、「キエフ」ラヂッサ、「モスクワ」カザン、「カウカサス」ノ八軍管區及「ドン」哥薩克軍州ニ亞露ハ土耳其斯坦、「オムスク」イルクーツク、後黑龍州ノ軍管區)ニ分テ各軍管區ニ軍管司令官ヲ置キ大將ヲ以テ親補シ中央統轄部ノ

執行權ヲ分割委任ス即チ軍管司令部ハ管区内ノ全軍隊官衙ヲ統轄シ經理及給養事務執行ノ主部ヲナス
軍管司令部ノ下ニ於ケル司令機關ハ軍隊司令部ト稱シ軍團司令部師旅團司令部聯大隊本部之ニ當リ軍事統帥ニ關スル件ヲ執行シ又行政機關トシテハ地方旅團司令部即チ兵事長本部アリテ主トシテ徵兵及動員事務ヲ管掌ス之カ爲メ各軍管區ヲ數個ノ地方旅團管區ニ分ツ

第四節 兵役法及補充法

一 兵役法

露國ニ於テ初メテ徵兵令ヲ施行シタルハ千六百九十九年彼得大帝ノ時ナリ自來二百餘年間其ノ制度ニ於テ幾多ノ變遷ヲ見タリシカ殊ニ一八七四年ノ法律ハ現行徵兵令ノ基礎ヲ爲スモノニシテ若干ノ異種族ヲ除クノ外階級ノ如何ヲ問ハス苟クモ男子タル者ハ總テ兵役ニ服ス可キ義務ヲ有ス
現行徵兵令ハ一九〇六年ノ改正ニ係ルモノニシテ其ノ大要左ノ如シ

- (一) 滿二十一歳以上四十三歳以下ノ男子ニシテ兵役勤務ニ適スル者ハ皆兵役ニ服スルモノトス然レトモ此等ノ義務者ハ一部常備軍ニ服シ他ハ國民軍ニ服ス
- (二) 常備兵役ニ於ケル服役年限ハ十七年及十八年トシ之ヲ分チテ現役及豫備役ト爲ス即チ左ノ如シ

現役	步兵徒歩砲兵 <small>(騎砲兵以外ノ各砲兵)</small>	三年
自餘ノ兵種		四年

第一次 第二次 計

豫備役	步兵徒歩砲兵 <small>(騎砲兵以外ノ各砲兵)</small>	七箇年	八箇年	十五年
自餘ノ兵種		七箇年	六箇年	十三年

現役ハ凡テ兵營生活ヲナス然レトモ一部ノ歸休制度アルコト我カ國ニ於ケルカ如シ

- (三) 國民兵役ハ武器ノ使用ニ耐ヘ且二十一歳乃至四十三歳マテノ男子ニシテ常備兵役ニ屬セサル者ノ服務ス可キ義務ニシテ左ノ二種ヨリ成ル

第一種國民兵 常備兵役ヲ終リタル者及抽籤ニヨリ常備兵役ヲ免レタル者ヨリ成ル

第二種國民兵 第一種國民兵役ニ屬セサル凡テノ國民兵ヨリ成ル

露國ニモ亦我カ國ニ於ケルカ如ク徵兵上ノ除外例及特典アリ即チ體格ニヨル者職業ニヨル者家族ノ情態ニヨル者教育上ノ保護(志願兵)ニヨル者等ニシテ其ノ種類程度ニヨリ全兵役ヲ免除シ又ハ單ニ平時ノ現役勤務ヲ免除シ或ハ徵集猶豫短期服役等ニ區別セリ而シテ是等ノ特典者ハ全適齡者百分ノ四十八ニ達シ一方近年普通徵兵者ノ不足ヲ感シツツアルノ状態ナルヲ以テ當局ハ條例ノ改正ヲ行ヒ漸次其ノ數ヲ減少シツツアリ

哥薩克ノ兵役義務ハ特異ニシテ抽籤ニ依ラス男子ハ悉ク兵役ニ服ス可キモノトス(特典アルコト略、正規兵ニ同シ)之ヲ分テ服役軍及國民軍ノ二トナシ服役軍ハ更ニ左ノ三種ニ分タレ滿二十歳ヨリ初マリ十八年トス

一 準備役 一年ニシテ家ニアリテ専ラ勤務ニ必要ナル武裝(馬匹モ)ノ準備ニ從事シ若干週ノ教育召集ヲ受ク

二 戰列役 十二年ニシテ實役勤務ニ服ス但本役ヲ四年毎ノ三次ニ分チ平時

ニアリテハ最初ノ四年ノミ部隊ヲ組織シ(即チ現役)第二第三次ノモノハ歸休ト稱シ皆故郷ニ歸休ス而シテ該歸休者モ亦其ノ年次ニ應シ武裝馬匹ノ一部又ハ全部ヲ保存シ教育召集ニ應ス

三 豫備役 五箇年ニシテ現役ニ從事セシ者ハ勤務ニ必要ナル武裝ヲ準備スルヲ要ス

右ノ外異種民族ノ兵役義務ニ關シテハ特種ノ規定アリ

沿海州及黑龍州ハ從來兵役ヲ免除サレシカ千九百九年ヨリ此ノ兩州ニ住スル露西亞人及露西亞臣民タル朝鮮人ニ對シ一般徵兵令ヲ施行セリ

二 補充法

兵卒ノ補充ハ近年徵兵人員ノ増加ニヨリ稍困難ヲ來セルカ如シ即チ最近露國ニ於ケル徵兵適齡者ノ數ハ約百二十萬人ニシテ内徵募要員ハ約四十六萬人(内海軍要員一萬人)ナルモ適齡者中諸種ノ特典者等ヲ除キ檢査ニ附セラルル者ハ約六割ニシテ内不合格者約三割ナルヲ以テ抽籤上現役ヲ免ルル者ハ眞ニ少數ニ過キス

下士ハ現時左ノ三種ノ系統ニヨリ補充セラレ

第一種長期下士 將來副少尉補ノ要員ニ充ツ可キモノニシテ入營當時ヨリ長期下士トシテ服役ヲ志願シ所定ノ教育ヲ受ケテ概ネ一年ノ後下士ニ任官セラル(第二種長期下士及豫備役下士上等兵ノ一部ヨリモ轉入ヲ許ス)

第二種長期下士 定期勤務ノ下士卒ニシテ滿期後引續キ長期下士トシテ再服役ヲ爲サントスルモノ及豫備役下士上等兵ノ一部ヨリ採用スルモ軍隊學校

(副少尉補學校)ニ入ルノ義務ナク從テ特典ヲ異ニス

定期(短期)下士 一般兵卒トシテ入營セル者ヨリ採用シ所定ノ教育ヲ受ケ任官スルモ一般服役年限ノ終ルト共ニ豫備役ニ入ル

從來ハ長期下士及定期ノ二種ナリシカ前者ハ志願者數所要ニ充タヌ又後者ハ其ノ在勤年數短キカ爲メ軍隊ニ對スル効果甚タ不十分ナルモノアリ爲ニ近ク第二種長期下士ノ制ヲ定メ從來ノ副少尉補ノ候補者タル長期下士ノ外更ニ滿期下士卒又ハ豫備役下士卒ノ一部ヨリ再服役セシメ以テ之カ不足ヲ醫シ遅クモ千九百十五年マテニハ所要ノ定數ヲ充足ス可キ豫定ニアルカ如シ

將校ノ補充ハ舊時速成士官學校(青年學校トモ云フ)及士官學校ノ卒業生ヲ以セリ即チ前者ハ志願若クハ抽籤ニヨリ軍隊ニ徵集セラレタル者ヨリ試験ノ後採用シ主トシテ歩騎兵將校ノ速成補充ヲ期シ後者ハ大部分幼年學校卒業生及一部分ノ中等學校卒業生ヲ以テ成リ近衛將校及砲工兵士官ハ皆其ノ出身ニ係ルモノニシテ兩校程度ノ差異ヨリシテ卒業後ノ資格特典ニ徑庭ヲ生シ大ニ其ノ素質ノ統一ヲ缺クモノアリシカ近時速成士官學校ヲ改善シテ士官學校ノ程度トナシ兩者ノ價值ヲ同一ナラシムルニ至レリ而シテ卒業生ノ總數ハ近年生徒定員ノ擴張ニ伴ヒ漸次増加シ千九百九年ニ於テ將校トナリシ者二千百餘名ニ達シ内幼年學校出身者約四分ノ一ヲ占ムト云フ

豫備役將校ノ補充ハ概ネ我カ國ノ方法ト同シク現役ヨリ轉入スル者志願兵ヨリ採用スル者及下士ニシテ所定ノ格例ニ合スル者ヲ以テス

露國ハ著シク馬匹ニ富ミ殊ニ南露高原地方及西伯利地方ニ於テハ其ノ數甚タ多キヲ占ム(西伯利地方ノ如キハ住民百人ニ對シ馬六十頭ノ比)然レトモ馬匹ヲ要スル部隊ノ多クハ西部地方ナルニ反シ馬產地ノ關係ハ前述ノ如ク東部及東南部邊

疆地方ナルヲ以テ其ノ補充ニハ少ナカラサル不便ヲ感セルカ如シ又馬種ハ彼ノ有名ナル露國產改良馬タル「オルローフ」及「ロストブシン」ノ如キハ眞ニ一部ノ用ニ充ツルノミニシテ全般ヨリ云ヘハ其ノ體格及姿勢ニ於テ軍馬ノ要求ヲ充ス能ハサルモノ多シト云フ

第五節 將校、下士並同相當官

一 將校同相當官

既ニ述フルカ如ク露國將校ハ既往ニ於テ素質ヲ異ニスルニ様ノ出身ヲ有セシヲ以テ現在將校ノ大部ハ過去ニ於テ任官法進級法等ノ權利ニ差異ヲ生シ又陸軍大學校入學者ノ如キモ主トシテ士官學校出身ノ將校ニ歸スル等資格不齊ニ伴フ害少ナカラサリシカ近年速成士官學校ヲ陸軍士官學校ニ改變スルト同時ニ任官進級等ニ對スル特典ノ不同モ亦漸次消滅スルニ至リ且從來只一部ニノミ限ラレシ將校生徒ノ隊附勤務モ將來之ヲ全部ニ及ホスコトナシタルヲ以テ今後ノ露國將校ハ皆同一ニシテ而モ十分ナル學理ト實驗トヲ修得セル有爲ノ士タルニ至ル可シ加フルニ由來不完全ナリシ將校團制度ハ近年著シク其ノ實質ヲ備フルニ

至リ之ト同時ニ考科制度亦大ニ備ハルニ至リシカハ將校團ノ結合ト俊才ノ選拔ハ將來大ニ見ル可キモノアラン
將校ノ階級ハ我カ國ノモノト大差ナク大將ヨリ少尉ニ亘ル九階級ヨリ成リ只少佐ノ階級ナクシテ大中尉間ニ二等大尉ノ階級アルト將官ニモ兵科ノ區分ヲ冠スルトヲ異ナリトス而シテ初度ノ任官ハ二十歳ヨリ二十一歳ヲ通常トシ稀ニ二十五歳ニ達スルモノアリ今千九百十年ノ制定ニ係ル團隊長及之ト直接ノ影響アル行政部將校ノ定限年齢ヲ掲クレハ左ノ如シ

職	名	定限年齢	補任ノ定限年齢	職	名	定限年齢	補任ノ定限年齢
軍團長一、二等要塞司令官地 方旅團長補充騎兵旅團長		六十七歳	六十四歳	歩工兵獨立部長砲兵大隊長等		五十八歳	五十五歳
歩 兵 師 團 長		六十三歳	六十歳	騎兵聯隊長、獨立騎兵隊長、砲 兵中隊長		五十六歳	五十三歳
騎 兵 師 團 長		六十一歳	五十八歳	自餘ノ戰列隊上長官ニシテ部 隊長ナラザルモノ		五十八歳	
歩砲工兵旅團長、軍管參謀長		六十歳	五十七歳	同	上 士 官	五十五歳	
騎 兵 旅 團 長		五十九歳	五十六歳				

將校ノ俸給ニハ通常俸ト増加俸トノ二アリ後者ハ主トシテ遠隔地方ノ軍隊勤務者ニ給シ尙ホ一部ノ學校附職員及學生將校ニモ之ヲ適用ス左ニ兩種俸給年額ヲ

掲ケン

大將	中將	少將	大佐	中佐	大尉	二等大尉	中尉	少尉
通常俸留	二二〇〇	一八〇〇	一五〇〇	一二〇〇	一〇八〇	九〇〇	七八〇	七二〇
增加俸留	二九四〇	二四七二	二〇〇四	一五三六	一三四四	一〇八〇	九四八	八七六
								八〇四

近時隊附將校(中佐以下)ノ増俸ヲ實施シ步兵騎兵砲兵工兵鐵道隊及哥薩克軍ノ戰列部隊ノ將校及是等ノ戰列參謀部及司令部將校ニ對シテ各階級ニ應シ百二十留(現役ニ殘留サレタル豫備少尉)乃至四百八十留(中佐)ノ増俸ヲ給シ尙ホ勤務年限ニ應シ累加スルコトトナセリ

右ノ外將校ニハ食卓料(職務俸)ヲ給ス其ノ年額左ノ如シ

大將	中將	少將	大佐	中佐	大尉	二等大尉	中尉	少尉
七、九〇〇留	五、七〇〇留	三、七〇〇留	三、三〇〇留	三、〇〇〇留	二、七〇〇留	二、四〇〇留	二、一〇〇留	一、八〇〇留
大隊長、騎兵隊長及聯隊經理主管	新參佐官	中隊長	教導隊長	隊長	隊長	隊長	隊長	隊長
獨立大隊長	獨立大隊長	獨立大隊長	獨立大隊長	獨立大隊長	獨立大隊長	獨立大隊長	獨立大隊長	獨立大隊長
一、五六〇	一、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主	聯隊附、副官、會計官及武器主
九六	一八〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇

隊附以外ノ將校ニ對スル食卓料ヲ概ネ右ニ準シ各別ニ規定セリ
將校ノ恩給ハ戰後大ナル増額ヲ來シ其ノ最高額ハ現役俸ノ八割ニ及ヘリ
進級法ハ我カ國ノ如ク停年及拔擢ノ二アリテ大尉以下ニ於テハ參謀將校ヲ除ク
ノ外ハ皆停年進級トシ其ノ最下限ハ各四年トス大尉ヨリ中佐ニ又中佐ヨリ大佐
ヘノ進級ハ停年拔擢ヲ混用シ將官ヘノ進級及將官ノ進級ハ全部拔擢ニシテ上裁
トス而シテ參謀將校及武功者ノ進級ニハ別ニ特典ヲ規定セリ

露國將校相當官ハ凡テ文官ニシテ其ノ種類ハ軍醫、經理官、軍醫、獸醫、砲兵及工兵文官、
藥劑官、陸軍教授、會計官、會計検査官、軍樂長トス但高級經理官ハ將校ヲ以テ之ニ充ツ

二 下士及同相當官

露國ノ下士ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス凡テ任官前(第二種長期下士ニアリテハ再
役服務中ニ及フコトアリ)各隊ニ設クル教導隊ニ於テ特別ノ教育ヲ受クルモノナ
ルモ其ノ素質ハ一般社會ニ於ケル文化ノ影響ヲ受ケテ其ノ程度十分ナラサルモ
ノ少ナカラス且長年月獻身のニ軍務ニ從事スルモノ各隊ノ需要ニ充タサルカ如
シ近時當局ハ給與恩給待遇退營後ノ身上等ニ對シ多大ク特典ヲ附與シ以テ之カ

傾向ノ救済ニ勉メ數上ニ於テハ漸次恢復ノ氣運ニ向ヒツツアリ
 下士ノ階級ハ曹長軍曹伍長ノ三級ニシテ第一種長期下士ノミ副少尉補(我カ特務
 曹長ニ相當ス)タルノ特權ヲ有シ之カ爲メ聯隊又ハ師團ニ設クル特別ノ軍隊學校
 ヲ經由セサル可カラス(第二種長期下士モ亦本人ノ希望ト隊長ノ承認トニヨリ該
 學校ヲ卒業シ任用セララルヲ得)
 下士ノ俸給ハ近衛部隊ト他部隊トニヨリ異ナルモ年額七十八留ヨリ十二留ニ亘
 リ外ニ日當工錢賞與金ヲ受ク又一般ニ年功加俸及勳功賞與金ヲ受クルノ權ヲ有
 ス

長期下士ハ右ノ給與ヲ受クルノ外尙ホ左ノ特典ヲ有ス

- 一 増俸 准士官以下其ノ階級服務成績等ニ應シ年額四百二十留乃至百二十
 留ノ増俸ヲ受ク
- 二 一時補助金 准士官以下其ノ勤績年數ニ應シ一千留乃至百五十留ノ一時
 補助金ヲ受ク
- 三 恩給 勤績十五年ノ後除隊セララル可キ長期下士ハ年額九十六留ノ恩給ヲ

受ク本人ノ死亡後寡婦ハ同三十六留ノ扶助料ヲ受ク

此ノ他増加補助金(妻帯者ノ爲メ)物品給與賞賜等ノ特典アリ

露軍ニ於テハ特別職務ニ應スル分課下士(給養掛會計掛武器掛等)ハ軍曹伍長等ノ
 階級區分ヲ附セス

第六節 常備軍ノ平時編制

一 歩 兵

歩兵部隊ハ師團ヲ以テ最高單位トシ師團ハ二旅團旅團ハ二聯隊聯隊ハ四大隊及
 非戰員一中隊ニシテ大隊ハ四中隊ヨリ成ル中隊ノ戰員ハ下士以下約百十トシ二
 半中隊ニ分ツヲ得

聯隊ハ機關銃一隊ヲ有シ車輛制駄馬制ノ二種アリ

狙撃歩兵ニアリテハ其ノ西伯利ニアルモノノ編制ハ右ニ等シト雖モ近衛及其ノ

他歐露芬蘭土耳其斯坦高加索ニアルモノニアリテハ旅團ヲ編成シ又其ノ聯隊ハ

平時二大隊ヨリ成ルモノ多シ而シテ其ノ中隊ニ於ケル人員ハ平時戰時共概ネ一般

歩兵ニ同シ

二 騎 兵

騎兵部隊ハ師團ヲ最高單位トシ師團ハ通常二旅團、旅團ハ二聯隊、聯隊ハ四若ハ六中隊ヨリ成ル中隊ノ人員ハ平時戰時共下士以下一五〇トス
騎兵師團四箇聯隊中ノ一ハ通常哥薩克聯隊トス其ノ編制ハ概ネ正規兵ニ同シ又他ノ三聯隊ハ龍騎兵槍騎兵及驃騎兵等ノ名ヲ有スルモ其ノ編制訓練等皆同一ナリ
右ノ外旅團又ハ聯隊ヲ最高單位トスル騎兵部隊アリ獨立近衛騎兵旅團、獨立騎兵旅團、烏蘇里騎兵旅團、獨立騎兵聯隊等ノ如シ

三 砲 兵

砲兵部隊ハ旅團ヲ最高單位トシ歩兵師團内ニ編入セラル旅團ハ通常二大隊、大隊ハ三中隊ヨリ成リ野山砲兵中隊ハ平時四門(戰時八門)ヲ有ス
狙撃歩兵旅團ニ配當セラル砲兵ニアリテハ大隊ヲ最高單位トスルヲ通常トス其ノ大隊内ニ於ケル中隊數ハ概ネ三中隊ナルモ野山砲ノ配當ハ各齊一ナラス
騎砲兵ハ近衛ニアリテハ五中隊ヨリ成ル一旅團ヲ有シ線列部隊ニアリテハ二中

隊ヨリ成ル一大隊ヲ有シ近衛ハ戰時其ノ他ハ平時戰兩時共騎兵師團ニ屬ス

右ノ外騎山砲兵大隊及同獨立中隊アリ

野戰榴彈砲ハ通常大隊ニシテ二中隊ヨリ成リ平時ヨリ軍團ニ配屬セラル又重砲兵大隊アリテ三中隊ヨリ成ル

騎砲兵、騎山砲兵、野戰榴彈砲兵ハ一中隊ノ砲數六門ニシテ重砲兵ハ四又ハ六門トス

四 工 兵

工兵部隊ハ大隊ヲ最高單位トシ大隊ハ通常三中隊ト電信一中隊ヨリ成ル平時戰兩時共軍團ニ一大隊宛配屬セラレ極東ノ軍團ニアリテハ二大隊ヲ有スルモノアリ
橋樑隊ハ二中隊ヨリ成ル大隊ニ編成セラレ平時ヨリ軍團ニ配屬セラル
氣球隊ハ大隊又ハ獨立中隊ヲナシ大隊ハ二中隊ト一氣球廠ヨリ成リ軍團内ニ編成セラレ或ハ要塞司令官ニ屬ス

右ノ外河川水雷中隊要塞技術兵アリテ若干ノ編制ヲ異ニス

以上ノ諸兵種ハ通常軍團ニ編合セラル軍團ハ平時ニ於ケル編制ノ最大單位ニシ

テ通常歩兵二師團騎兵一師團野砲兵二旅團榴彈砲兵一大隊工兵一大隊ヨリ成ル

第七節 平時兵力

野戰部隊ノ兵力左ノ如シ

(イ) 歩兵

- 近衛歩兵 三師團
- 近衛狙撃兵 一旅團
- 選拔歩兵 四師團
- 歩兵 五十二師團
- 西伯利狙撃兵 十一師團
- 狙撃兵 五旅團
- 芬蘭狙撃兵 三旅團
- 高加索狙撃兵 二旅團
- 土耳其斯坦狙撃兵 六旅團

合計 七十師團ト十七旅團(千二百五十四大隊)

(ロ) 騎兵

- 近衛騎兵 二師團ト一旅團
- 騎兵 十五師團
- 高加索騎兵 一師團
- 獨立騎兵旅團 三旅團
- 烏蘇里騎兵 一旅團
- 獨立騎兵聯隊 二聯隊
- 合計 十八師團ト五旅團ト二聯隊(五百二十三中隊)

(ハ) 砲兵

- 近衛砲兵 三旅團
- 近衛騎砲兵 一旅團
- 近衛榴彈砲兵 一大隊
- 砲兵 五十六旅團

- 西伯利狙擊砲兵 十一旅團
- 狙擊砲兵 十六大隊
- 榴彈砲兵 三十四大隊
- 騎砲兵 十二大隊
- 騎山砲兵 二大隊
- 重砲兵 七大隊
- 合計 七十一旅團ト七十二大隊(六百十四中隊)

(二) 技術兵

- 近衛工兵 一大隊
- 工兵 三十八大隊
- 橋樑兵 九大隊ト一中隊
- 鐵道隊 十三大隊ト一中隊
- 無線電信隊 七中隊
- 氣球隊 二大隊ト十一中隊

合計 六十三大隊ト二中隊(二百五十中隊)

以上ノ野戰部隊ハ左ノ三十七軍團ト別ニ若干ノ獨立部隊ニ編合セラル

- 近衛軍團
- 選拔軍團
- 線列軍團 第一乃至第二十五
- 高加索軍團 第一乃至第三
- 土耳其斯坦軍團 第一第二
- 西伯利軍團 第一乃至第五

此ノ他露國ニハ哥薩克騎兵師團六個、同旅團三個、同聯隊三個、哥薩克步兵一旅團、獨立護境兵三十一旅團ト三隊、護境鐵道一旅團、要塞部隊及地方隊若干アリ

第八節 平時兵力ノ配置

現今ニ於ケル露國野戰軍ノ配置左ノ如シ

- 西伯利 五軍團ト一師團

哈爾濱ヲ中心トシ其ノ東西ニ概ネ二等分シ駐屯セリ從テ北滿洲ニ向フ集中速度ハ甚タ迅速ナルモノトス而シテ西伯利駐屯ノ野戰部隊ハ平時ヨリ略戰時ノ定員ヲ保持セルカ故ニ西伯利駐屯部隊ノミノ總人員ヲ我カ國ノ平時部隊ニ比較スルモ我カ約二十五師團ニ相當ス

土耳其斯坦

二軍團

高加索

三軍團

中部露西亞

七軍團

西部國境方面

二十軍團

之ヲ要スルニ露國ハ領域廣大ナルカ故ニ各其ノ邊境ニ必要ノ兵力ヲ配置シ戰時必要ニ應シ之ヲ増援センカ爲メ七軍團(十五師團)ノ中央豫備ヲ配置セルモノナリ

第九節 要塞

露國ハ邊疆尨大ナルカ上ニ歐洲中屈指ノ強國ト接壤ノ關係ヲ有シ又西方ノ波的

克沿岸南方ノ黑海沿岸ト東方ノ沿海州トハ共ニ國防上重要ナル海正面ナルヲ以テ從來海陸兩方面ニ要塞ノ施設サルルモノ少ナカラス今之ヲ各方面ニ區別シテ記スレハ即チ左ノ如シ

西方國境ニ對スルモノ(羅馬數字ハ要塞ノ等級ヲ示ス)

「ゴブノ」(I)「オソウニーツ」(II)「ゼエグルジュ」(III)「ノウォゲオルギーエウスク」(I)「ワルシャワ」(I)

「イワンゴーロド」(II)「アレストリトーフスク」(I)

波的海ニ對スルモノ

「スウエアポルク」(II)「ウイボルグ」(III)「クロンシュタット」(I)「ウスチドウインスク」(III)

「バフ」(I)

黑海ニ對スルモノ

「セバストポール」(II)「オチャコーフ」(III)「ケルチ」(II)

高加索方面

「カルス」(III)「ミハイロフスコエ」(III)

中央亞細亞方面

グシカ (III)

極東方面

「ニコラエウスク (II) 浦鹽斯德 (I)

以上ノ諸要塞ハ各武備ノ程度ニヨリ要塞砲兵(旅團ヨリ中隊ニ至ル)要塞工兵中隊、要塞水雷中隊、要塞軍用電信隊ノ全部又ハ一部ヲ平時ヨリ所屬ス而シテ戰時必要ニ應シ其ノ部隊ヲ擴張シ又ハ野戰軍ノ一部ヲ附ス

第十節 教育及學校

一 教育

茲ニ述フルハ主トシテ軍隊教育ニ關スルモノナリ
露國ノ軍隊ハ精神教育ニ力ヲ用フルコト甚大ニシテ宗教、皇帝ニ對スル忠節、將校ト兵卒トノ關係、軍隊歴史ヲ以テ之カ要素トナシ能ク生命ヲ抛テ毫モ顧ルコトナキ勇者ヲ養成スルニ勉ム而シテ之ニ依リ教育セラレタル兵卒ハ朴直ニシテ服從心厚ク如何ナル困苦ニ際會スルモ命令ハ必ス之ヲ實行スルノ美點ヲ有ス

軍隊ノ一般教育ハ將校ヨリ下士卒ヲ通シ冬季及夏期ノ二期ニ分テ施行セラル
冬季教育ハ新兵ノ入營時(十二月)ニ始マリ新古兵共主トシテ基本教育ヲ實施シ尙ホ若干ノ野外演習(屋外體操、遠足、諸兵連合行軍演習)ヲ加フ而シテ翌年四月末其ノ教育ヲ終リ聯隊長、師團長等ノ檢閲ヲ受ケリ茲ニ新兵ハ軍務ニ從事スルノ宣誓式ヲ行フ

夏季教育ハ五月初旬ヨリ始マリ主トシテ屯營附近ノ郊外又ハ野營地ニ至リ之ヲ行ヒ中隊乃至聯隊ノ教練ヨリ始マリ終ニ機動演習若ハ大演習ニ移ル此ノ種ノ野營演習ハ歐洲列國中露國歩兵ヲ以テ嚆矢トスルモノニシテ野外ニ於ケル諸動作及該兵種ノ協同動作ヲ練成セシメ皇帝モ亦此ノ期ヲ利用シ軍隊ヲ親閱ス
兵卒ノ特別教育中主ナルモノハ歩兵ノ搜索兵、騎兵ノ搜索兵及技術兵、砲兵照準手ノ教育トス是等ハ多クハ露國下士卒ノ普通教育完カラサルヨリ特ニ選拔教育ヲ要スルニ至レルモノナリ

將校教育ハ概シテ我カ國ノモノト等シク戰術、劍術、馬術及軍制ニ就テ之ヲ行ヒ尙ホ隊長ノ統裁ヲ以テスル戰術實施其ノ他幹部演習、參謀演習、旅行等アリ

一一 學校

一一六

學校ハ其ノ種類少ナカラサルモ其ノ主ナルモノヲ大別セハ左ノ如シ

將校生徒ノ學校

陸軍諸大學校

陸軍將校學校

此ノ他技術、衛生、語學又ハ陸軍師範等ニ關スル學校十數種アルモ今之ヲ略シ右ノ諸學校ニ就テ概要ヲ述ヘン

將校生徒ノ學校 之ニ屬スルモノハ陸軍幼年學校、陸軍士官學校ヲ主ナルモノトス從來設置サレタル速成士官學校ハ全部士官學校ニ改變セラレ千九百十一年以後卒業ノモノハ其ノ學力程度及權利ニ於テ兩者間ニ差別ナシ
陸軍幼年學校ハ其ノ數全國ニ二十九個アリ我カ中央幼年學校(豫科ヲ含ム)ニ相當シ七階級アリ主トシテ中等教育ノ實施及軍人精神ノ涵養ニ任ス(卒業後一部ハ軍人トナラサル者アリ)
右ノ外軍人ノ戰病死者ノ孤兒等ヲ收容シ之ニ幼年學校入校前ノ教育ヲ施ス爲メ

附屬學校ノ設アルモノアリ

陸軍士官學校ハ普通教育及軍事教育ニ於テ完全ナル各兵種ノ將校ヲ養成スルヲ目的トシ速成士官學校ヲ改造セルモノ及新設ノモノヲ合シ其ノ數凡二十個アリ兵種ニヨリ學校ヲ異ニシ共ニ軍隊的編成ヲナス之ニ入學シ得ヘキ者ハ幼年學校卒業者、下士卒及一般人民ニシテ其ノ内幼年學校及尋常中學校卒業者ハ無試験トス而シテ生徒ノ修學期ハ步騎兵科ニアリテハ二箇年其ノ他ハ三箇年ナリ
右ノ外陸地測量學校アリ地形測量ニ從事スル將校ヲ養成スルヲ目的トシ其ノ程度略士官學校ニ等シク修學期ハ二年ニシテ卒業者ハ測量部將校ニ任セラレ少尉ノ階級ヲ受ク

陸軍諸大學校

之ニ屬ス可キモノハ皇帝、ニコライ陸軍大學校、ミハイル砲兵大學校、ニコライ工兵大學校、陸軍經理大學校、陸軍法律大學校及陸軍醫科大學校ニシテ各其ノ名稱ニ應シ専門的勤務ニ必要ナル最高等ノ軍事教育ヲ施スヲ目的トス而シテ前五者ハ尉官中所定ノ資格ヲ有スル者ヨリ選抜シ其ノ修學期ハ陸軍大學校ハ本科二箇年、補修科九箇月、砲兵及工兵大學校ハ本科二箇年、補修科半箇年經

理大學校及法律大學校ハ三箇年ニシテ卒業ノ上ハ各諸種ノ特典ヲ享有ス又醫科大學校ハ中學校及其ノ他ノ指定學校卒業者ヲ以テ之ニ充テ其ノ修學期ハ醫學部五箇年獸醫部四箇年藥劑部三箇年トス

陸軍將校學校 之ニ屬ス可キモノハ將校射擊學校將校騎兵學校將校砲兵射擊學校及將校航空學校等ニシテ各兵科専門ノ學術ヲ進歩セシメ且適當ナル隊附將校ヲ養成スルノ目的ヲ有シ恰モ我カ各兵種ノ實施學校ニ相當シ各修學期ヲ異ニス

第十一節 武器及裝具(武器ニ就テハ卷末附表參照)

露國陸軍ノ將卒ハ戰時凡テ保護色ノ軍服ヲ著ス而シテ此ノ國ノ步兵ハ長靴ヲ穿テ通常背囊ヲ裝セサルヲ特色トス

一 步兵

戰員下士卒ハ千八百九十一年式三リニヤ連發銃ヲ携帶シ常ニ銃劍ヲ裝著シ劍鞘ハ勤務中帶フルコトナシ又非戰員ハ手斧ヲ帶フ

銃手ハ帶革ニ三十發入彈藥盒二個及土工器具(方匙、小斧、小十字鋸)ヲ附著シ別ニ三十發入ノ彈藥二個ヲ肩ヨリ掛ク其ノ他卷外套、防水麻製雜囊(小被服、手入具、日用品入)水筒、携帶天幕、豫備靴、携帶鍋ヲ携帶シ何レモ直接ニ肩ニ掛ケ若ハ間接ニ外套等ニ結束ス

二 騎兵

正規騎兵ハ凡テ刀及騎銃(龍騎兵ニハ銃劍アリ)ヲ携フ
小銃ハ步兵銃ト同式ニシテ唯、全長ヲ異ニス彈藥ハ各人四十五發ヲ有ス其ノ他步兵ニ等シキ携帶品ヲ有スルモ其ノ多クハ鞍ニ附著ス
中隊兵卒ノ一部ハ方匙及手斧ヲ有シ鞍ニ附著ス此ノ他電信材料及破壞材料ヲ有スルモノアリ

哥薩克騎兵ノ刀、銃及携帶彈藥ハ概ネ正規騎兵ニ同シキモ「クハン」、「テレック」哥薩克ヲ除クノ外總テ哥薩克騎兵隊ノ第一列兵ハ平戰兩時共長サ九呎ノ槍ヲ携フ

三 砲兵

野砲兵ハ千九百二年式速射砲ヲ、山砲兵ハ千九百四年式速射山砲ヲ有ス

戰員ハ劍及拳銃ヲ携ヘ斥候兵ハ騎銃ヲ有ス其ノ他徒步者ハ歩兵ニ乘馬者ハ騎兵ニ準スル裝具ヲ有ス

右ノ外中隊ニハ土工器具ヲ有ス

騎砲兵及騎山砲兵モ亦野山砲兵ト同一ノ砲ヲ有シ唯重量少シク輕キヲ異ニス

武裝ハ一般ニ刀及拳銃ヲ携帶シ斥候兵ハ拳銃ニ代フルニ騎銃ヲ以テス

野戰榴彈砲兵ノ火砲及攻城砲ニ就テハ附表ニ讓ル

四 工 兵

技術兵ハ乘馬セサル下士兵卒ハ騎銃ヲ携帶シ乘馬セル下士ハ拳銃及刀ヲ兵卒ハ

單ニ刀ノミヲ帶フ

工兵ノ携帶器具ハ方匙、手斧、十字鋏、鶴嘴、大錐、木工鑿、卷尺、大鋸トシ別ニ携行器具ヲ有ス

第十二節 戰時編制ノ大要

露國ハ戰時ニ當リ其ノ平時ニ於テ有スル野戰部隊三十七軍團ノ外更ニ各軍團ニ

於テ第一次豫備歩兵師團ヲ編成シ第二次第三次哥薩克騎兵及同騎砲兵ト共ニ之ヲ戰場ニ使用スルヲ得ヘシ而シテ尙ホ要スレハ第二次豫備歩兵師團ノ若干モ亦之ヲ編成シ得ルト云フ

以上ノ内野戰ニ使用ス可キモノハ通常若干軍團及其ノ他ノ獨立部隊ヲ以テ軍ニ編合セラレ其ノ軍モ亦戰場ノ必要ニ應シ若干ノ軍ヲ合シテ一總司令官ノ許ニ隸屬セシメラルルハ日露戰役ノ實驗ニ於テ之ヲ示シタル所ナリ

第十三節 戰時兵力ノ概數

戰時露軍ノ擧ケ得ヘキ總兵力ハ野戰部隊及豫備部隊ヲ合セ約二百六十萬ト概算セラレ

「ハイチイ」共和國

一三三

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

「ハイチイ」ハ西印度諸島中ノ一共和國ニシテ其ノ憲法ハ千八百八十九年十月九日ノ發布ニ係ルモノニシテ立法行政司法ノ三權ヲ分立シ國民議會ハ立法權ヲ掌握シ上下兩院ヨリ成リ下院ハ三年ノ任期ヲ以テ民選セラレル所ノ議員九十六名ヲ以テ組織シ上院議員ハ三十九名ニシテ選舉事務局及大統領ノ調製セル選舉人名簿ニ就キ下院議員之ヲ選舉シ其ノ任期ヲ六箇年トシ二年毎ニ其ノ三分一ヲ改選ス

大統領ハ行政權ヲ掌握シ七年ノ任期ヲ以テ國民議會ノ選出スル所タリ其ノ退職後ハ少クモ一任期ヲ經過スルニアラサレハ再選ヲ許サス

大統領死亡辭職若ハ其ノ事由ニ依リ職ニ堪ヘサルトキハ新大統領ノ就任マテ内閣諸員其ノ行政權ヲ施行ス

内閣ハ左ノ諸省ヲ以テ組織ス

外務省、陸海軍省、内務及警務省、大藏及商務省、司法及宗教省、農工部省

司法ニ關シテハ高等法院一、控訴院五(各縣ニ各一)及若干ノ地方裁判所ヲ設ケアリ

國內行政ノ爲メ全國ヲ五縣ニ區別シ各縣ニ知事ヲ置ク知事ハ大統領ノ任命スル所タリ

第二節 面積、人口

「ハイチイ」共和國ハ「ハイチイ」島ノ西半部ニシテ其ノ東隣ハ「ドミニカン」共和國タリ面積一萬二千方哩(二萬八千六百七十六方吉米ニシテ我カ邦ノ約二十六分一ニ相當ス)人口二百萬人(我カ邦ノ約三十一分一ニ相當ス)ニシテ亞米利加共和國中稠密ナル人口密度ヲ有シ一方哩密度百九十六人ニシテ米國人口密度ノ約六倍以上ナリ

國民ハ羅馬加特力教ヲ信仰シ國語ハ主トシテ佛蘭西語ヲ使用ス

第三節 一般豫算

千九百九一十年度ニ於ケル歳入ハ八百三十萬七千三百八十八圓ニシテ歳出ハ九百五十五萬三千九百十七圓ニ達セリ

第二章 陸軍

徴兵制度ハ志願及強制召集ノ二法ヲ併用シ其ノ服役年限ハ志願兵ハ四箇年ニシテ強制召集兵ハ七箇年ナリ
平時陸軍トシテ左ノ諸部隊アリ其ノ全人員六千八百二十八人ヲ算ス

- 一 戦列部隊
 - 歩兵 三十八中隊
 - 野戦砲兵 二聯隊

憲兵 五十中隊

二 特別部隊(我カ近衛兵ニ相當ス)

- 歩兵 四聯隊
- 騎兵 一聯隊
- 獵兵 二大隊
- 狙撃隊 二大隊
- 野戦砲兵 一聯隊

又「ハイチイ」國國民軍ノ全兵力ハ憲兵(二千人)ヲ合シ將校以下一萬四千六十人ニ達ス

當國陸軍ハ教練不十分ナルノミナラス其ノ武裝モ亦各異多樣ニシテ齊一ヲ缺キ其ノ價值甚タ僅少ナルノ事實ハ本年夏期該國內ニ革命軍蜂起ニ際シ直ニ其ノ擊破スル所トナリ内閣ノ轉覆ヲ見ルニ至リタルニ徴スルモ明ナリ

巴奈馬共和國

一三六

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

巴奈馬共和國ハ米大陸橫斷ノ大交通要路タル巴奈馬運河ノ開設ノ故ヲ以テ其ノ名夙ニ世人ニ普カリシ地方ニシテ從來哥倫比亞國ノ屬領ナリシカ千九百二年同國ニ内亂蜂起シ秩序頗ル紊亂セルノ機ニ乘シ巴奈馬國民ハ奮然起テ反旗ヲ翻シ哥國ヨリ分離シテ獨立ヲ宣言シ加之當時巴奈馬地峽部ニ運河開鑿ノ念嚮勃トシテ其ノ獲得ニ垂涎セル米國政府ハ潛ニ巴奈馬國民ヲ援助シ遂ニ千九百三年十一月四日哥倫比亞政府ヲシテ巴奈馬ノ獨立ヲ承認セシメタリ而シテ米國政府ハ同年十一月十八日運河ニ關スル條約ヲ締結シ運河築設ニ必要ナル地積並運河線兩側各五哩ノ地帶及巴奈馬灣口ニ横ハレル「ベリコ」オホス「キユレブラ」及「フラメンコ」

諸島嶼ノ永久租借權ヲ獲得シ自來銳意運河水路ノ構築ニ從事シ既ニ千九百十三年七月一日ニハ開通ヲ豫期シ得ルノ程度ニ其ノ工事ヲ進捗セリ

巴奈馬共和國ノ憲法ハ千九百四年二月十三日ノ發布ニ係ルモノニシテ立法行政及司法ノ三權ヲ分立シ議會ハ立法權ヲ掌握シ大統領ハ行政權ヲ掌握セリ

議會ハ一院ヨリ成リ議員ハ民選ニシテ其ノ任期ハ四箇年ナリ
議員ハ三十五歳以上ノ公民ニシテ各州ヨリ人口五千乃至一萬人毎ニ一名ヲ選出スルノ規定ニシテ目下二十八名アリ

大統領ハ三十五歳以上ノ國民ヨリ選出シ其ノ任期ハ四箇年ニシテ其ノ改選期ハ十月一日ナリ連續再選ヲ許サス

大統領ハ外務司法大藏文部及農商務ノ五省ヲ總轄シ別ニ副大統領三名ヲ設ク司法ニ關シテハ高等法院普通法院及治安裁判所ノ設ケアリ高等法院ノ判事ハ大統領之ヲ任命シ其ノ任期ヲ四箇年トセリ

又地方行政ノ爲メ全國ヲ七州ニ區分シ大統領ノ任命スル知事ヲシテ之ヲ統治セシム

第二節 面積及人口

三萬二千三百八十方哩(八萬七千四百八十方吉米)ヲ有シ其ノ最廣部幅員百六十哩最狹部三十五哩ヲ算ス(我カ邦面積ノ約八分一ニ相當ス)

住民ノ大部ハ大洋岸ニ於テ巴奈馬市以西ノ山麓ニ居住ス又巴奈馬、哥倫兩市ヲ除キ重要ナル都邑ハ盡ク内地ニ於ケル高原地方ニ存在ス蓋シ内地ハ海岸ニ比シ比較的乾燥ニシテ暑熱甚シカラサルヲ以テナリ而シテ人口最モ疎薄ニシテ未開ナルハ巴奈馬州ニシテ運河ヨリ哥倫比亞領域ニ到ル間ニ於テ「ツイラ」河畔ニ僅ニ住民ヲ見ルニ過キス

人種ハ黑人銅色印度人哥倫比亞人支那人歐米人等アリト雖モ其ノ大部ハ西班牙人及印度人トノ混血種ナリ千九百九年度ノ調査ニ依レハ人口總計三十六萬一千人ヲ有シ一方哩ノ人口密度十一人一ニ相當セリ宗教ハ主トシテ羅馬加特力教流

行ス

初等教育ハ自由強制的ニシテ又近年各種專門學校ノ設置ヲ見ルモ未タ國內各所ニ普及スルニ至ラス

第三節 國民警察隊

當國ハ米國トノ協約ニ基キ純粹ナル陸海軍ヲ整備スルコトナク唯國民警察隊ヲ編制シ僅ニ國內ノ秩序及安寧維持ニ備ヘアルノミ蓋シ又奇觀ト云フ可シ然レトモ尙ホ野砲及機關銃等ヲ保有シ千九百九年度ニ於テ千八人ヲ有セリ

第四節 一般豫算

千九百九—十年年度歳入一〇、一〇〇、六一〇圓 歳出一三、七五四、九四〇圓

「パラグアイ」共和國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

「パラグアイ」國ハ南米大陸ノ中部ニ位シ伯刺西爾及亞爾然丁國ノ間ニ介在スル共和國ニシテ現行憲法ハ千八百七十年十一月二十四日制定シタルモノナリ中央政府權ハ立法行政及司法ノ三機關ニ分ツ

立法權ハ國會ニ委任シ國會ハ上下兩院ヨリ成ル上院議員ハ六年ノ任期ヲ有シ二年毎ニ其ノ三分一ヲ改選シ下院議員ハ四年ノ任期ヲ有シ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス

大統領ハ行政上ノ最高權ヲ有シ大統領事故アルトキハ副大統領之ニ代リ兩人共ニ事故アルトキハ議會ニ於テ臨時一人ノ首領ヲ選定シテ之ニ代ラシム
大統領ノ下ニ左ノ五省アリ

- 一 內務省
- 二 外務省
- 三 大藏省
- 四 司法、宗教及文部省

五 軍務省

大統領及副大統領ハ四年ノ任期ヲ以テ人民ヨリ直接選舉セラレ自後八年ヲ經過セサレハ再選ヲ許サス

第二節 面積、人口

總面積十九萬六千方哩(二十五萬三千百方吉米)人口七十一萬五千八百四十一人ヲ有ス印度人及混血族多ク而シテ白人ハ西、伊、獨、佛人ヲ主トス羅馬舊教ヲ以テ國教トスト雖モ敢テ他教ノ信仰ヲ禁セス用語ハ士播語ノ外西班牙語流行ス

第三節 一般歲出及軍事費

千九百八年度歲出豫算一〇、〇四七、五九四圓 同年度陸海軍費豫算二、三三四、三二五圓

第二章 陸軍

「パラグアイ」國ハ千八百六十五年ヨリ同七年ニ亘リ亞伯及烏國三國同盟軍ノ爲メ大敗ヲ被リ國家的要素ヲ根本的ニ破壊セラレ自來三十餘年間ハ火事場ノ跡仕末ニ似テ啞呆然手ヲ束ネテ爲ス所ヲ知ラス生殘ノ國民ハ此ノ耻辱ヲ濺キ國勢ヲ挽回セン爲メ蹴然奮勵シ相繼テ立ツ所ノ政府モ亦攻々トシテ戰後ノ整理回復ヲ圖ラントスルモ住民ノ稀薄國財ノ缺乏ノ爲メ萬事意ノ如クナラス其ノ善後策トシテモ生産的ノ事業ヲ先ニシ不生産的ノ事業ヲ後ニスルハ時勢ノ止ムヲ得サル所ナルヲ以テ當國ノ兵備ノ如キハ戰後久シク其ノママニ放棄セラレ地方鎮撫ノ目的ヲ以テ徵々タル常備兵ヲ備フルニ過キサリシカ千九百四年革命戰後新政府ハ全然舊來ノ陸軍組織ヲ改革シ亞爾然丁國ノ方式ニ倣フテ新兵備ヲ行フコトトナレリ其ノ概要左ノ如シ

一 中央統轄機關

大統領ハ平戰兩時ニ於ケル陸海軍ノ全權ヲ掌握シ其ノ下ニ軍務ノ一省ヲ設ケ海陸軍ニ關スル實務ヲ當該大臣ニ掌ラシム然レトモ軍務大臣ハ重ニ議會ニ對スル

責任者タル可キモノニシテ經理衛生ノ事項ヲ除ク他ノ軍務一切ハ之ヲ參謀本部長ニ委任スルモノトス
參謀本部長ハ軍務大臣ニ直隸シ各種團隊ノ指揮統御、教育、編制及海軍ニ關スルコト其ノ他國防計畫ヲ擔任ス

二 徵兵法

千九百六年始メテ國民皆兵ノ義務兵制ニ改正シ男子ハ二十歳ヨリ三十五歳マテ兵役ニ服スルノ義務ヲ負ハシメ其ノ徵兵事務ハ各地方廳ニ於テ取扱フコトナリタレトモ現時尙ホ此ノ新法ノ實施確實ナラサルノミナラス多クハ下級人民ヨリ徵募セラル

三 平時編制

歩兵一大隊ハ三中隊ヨリ成リ一中隊ノ定員ハ百人ナリト雖モ實際ハ四十人内外ヲ保有スルニ過キス
騎兵一聯隊ハ三中隊ヨリ成リ一中隊ノ定員ヲ百人トス
野砲兵一中隊ハ「クル」砲四門編成トス

是等ノ各單位部隊ニハ軍樂隊各一隊ヲ配屬ス

四 平時兵力

平時兵力左ノ如シ

- 歩兵 四大隊
- 騎兵 二聯隊
- 野砲兵 五中隊
- 機關銃隊 二隊
- 河岸要塞砲兵 一大隊

計 將校以下約二千六百人

右ノ外國境監視及内地鎮撫ノ目的ヲ以テ編成セル歩騎混成ノ不成規兵約七百五十人警察隊五百人及消防隊三百人ヲ有ス

五 教育

近時陸軍士官學校ノ設立及獨逸將校ノ傭聘ヲ計畫シツツアリト雖モ未タ之ヲ實行スルニ至ラス現時ニ於テハ智利及亞爾然丁兩國ノ士官學校ニ將校ヲ派遣留學

日本

第一章 國勢ノ概要

第一節 政體、交通及文化

一 政體

大日本帝國ハ萬世一系ノ 天皇之ヲ統治シ給フ所ニシテ其ノ憲法ハ明治二十二

セシメツツアリ現ニ當國將校中ノ六人ハ智利ニ六人ハ亞爾然丁國ニ於テ教育ヲ受ケタル者アリ其ノ他ハ各兵種各隊ニ於テ多少ノ軍事教育ヲ受ケ士官ニ任シタルモノナリ下士ノ養成モ亦隊中ニ於テ之ヲ行フ

年(神武天皇即位紀元二千五百四十九年西曆一千八百八十九年)二月十一日紀元節ノ佳辰ヲ以テ之ヲ發布セラル
現天皇御名ハ 睦仁皇祖神武天皇ヨリ第二百二十一代ニ當ラセラレ即僖ノ御年ヨリ年號ヲ明治ト稱ス

帝室ニ關スル一切ノ事務ハ宮内大臣之カ輔弼ノ責ニ任ス
内閣ハ内閣總理大臣ヲ首班トシ外務内務大藏陸軍海軍司法文部農商務遞信ノ九省ヲ置ク國務各大臣ハ 天皇ヲ輔弼シ其ノ所轄政務ニ就キ憲法上ノ全責任ヲ有ス又樞密院アリテ 天皇ノ國務ニ關スル至高諮詢機關ヲナシ會計検査院アリテ國家會計ノ検査監督ニ任ス
外ニ鐵道院拓殖局等アリテ各内閣總理大臣ニ隸ス
天皇ハ憲法ノ定ムル所ニ從ヒ毎年其ノ立法機關タル議會ヲ召集ス議會ハ貴族院及衆議院ヨリ成リ貴族院議員ハ皇族ノ男子華族ノ一部勅選セラレタル者多額納稅者中ノ被選者ヲ以テ又衆議院議員ハ滿三十歳以上ノ男子ニシテ國民中ノ所定資格者ヨリ選舉セラレタルモノヲ以テ之ニ充ツ

司法權ハ 天皇ノ名ヲ以テ法律ニヨリ普通裁判所及特別裁判所之ヲ行フ軍法會議ハ特別裁判所ノ一ナリ
地方行政ハ國內ヲ三府一廳四十三縣ニ分チ東京府ニハ特ニ警視廳ヲ置キテ之ヲ行ヒ外ニ新領土等ノ爲メ朝鮮總督臺灣總督關東都督ノ各府及樺太廳ヲ置ク

一一 交通

交通ニ關シ記ス可キ事少ナカラサルモ茲ニハ單ニ鐵道及船舶ノ概要ニ止メン
鐵道 鐵道ハ明治五年始メテ東京橫濱間十八哩ニ運轉ヲ開始セシヲ濫觴トシ自來長足ノ進歩ヲナシ目下其ノ内地鐵道(五千二百七十一哩餘)ハ幹線ヲ以テ北ハ北海道釧路ヨリ南ハ九州鹿兒島ニ至ル全土ヲ縱貫シ就中青森大阪間ハ通過地方ヲ異ニスル二條ノ線路ヲ有シ其ノ内東海道線ハ複線ヲナセリ其ノ他臺灣鐵道(二百九十八哩餘)及朝鮮鐵道(六百七十五哩餘)ハ各其ノ全土ヲ南北ニ縱貫シ又南滿洲鐵道(安奉線ヲ含ム)(七百二十三哩餘)ハ其ノ南端ヲ以テ朝鮮鐵道及關東半島ノ主要港ニ接シ其ノ北端ヲ以テ長春ニ於テ東清鐵道ニ連ル而シテ全國ノ總線路延長ハ今ヤ六千九百七十哩ニ達シ其ノ大部(六千五百三十八哩餘)ハ明治三十九年以來逐

次國有トナリ鐵道院ノ管理ニ屬ス
 本邦内地鐵道ハ其ノ軌隔通常三呎六吋ニシテ朝鮮南滿ノ各鐵道ハ四呎八吋ヲ有
 ス而シテ諸般ノ需要ハ内地鐵道モ亦之ヲ廣軌トナスノ機運ニ向ヘリ
 船舶 我カ國ノ航海業ハ徳川幕府鎖國主義ノ影響ヲ受ケテ古來ノ盛運一時全
 ク熄止セシモ明治維新以來再ヒ之ヲ獎勵セルノ結果最近ノ調査ニヨレハ今ヤ千
 噸以上ノ漁船ハ三百八十隻ヲ算シ其ノ總噸數百十三萬餘噸ニ達セリ是等ハ主ト
 シテ日清戰後殊ニ日露戰後ニ於テ其ノ勃興ヲ致シタルモノニシテ目下内地沿岸
 ハ勿論近海航路ニ於テハ其ノ業勢盛ナリト雖モ遠ク歐洲南北亞米利加印度及濠
 洲ニ列強ト伍シテ海運ニ從事スルモノハ約四十五隻總噸數約三十萬噸ニ過キス
 シテ尙ホ將來ノ發達ニ待ツ可キモノ多シ而シテ内外主要ノ海運ハ遞信省ノ管理
 下ニ於テ日本郵船會社東洋漁船會社大阪商船會社ノ各其ノ航路ノ種類遠近ニ應
 シ分掌スル所ナリ

三 文化

本邦ノ兒童ハ男女各滿六歳ニ達スレハ小學校ニ入り六年間ノ義務教育ヲ受ク可

キモノトス而シテ最近ノ調査ニヨレハ學齡兒童ニ對スル就學兒童ノ百分比例ハ
 九十七・八ニ當リ之ヲ歐米諸國ニ比スルモ敢テ遜色ナシトス隨テ近年徵募セラ
 ル壯丁中讀書算術ヲ解セサル者ノ如キハ二十人中一人ヲ出テス

第二節 面積、人口

一 面積

我カ國ノ位置ハ西ハ綠威ノ東經百十九度十八分ヨリ東ハ同百五十六度三十二分
 ニ亘リ南ハ北緯二十一度四十五分ヨリ北ハ同五十度五十六分ニ達シ經度三十七
 度十四分緯度二十九度十一分ノ間ニ占位ス其ノ中央緯度ハ略北緯三十六度ニ當
 リ東京長野福井ノ線ヨリ朝鮮ノ南部ヲ横過シ更ニ之ヲ延長スレハ支那ノ黃河流
 域ヲ横キリ地中海マルタ島ヲ通シ北米合衆國ノ中部ヨリ桑港ニ出ツルモノニシ
 テ殆ト北半球溫帶ノ中央ニ位ス

我カ國ノ總面積ハ朝鮮ヲ合シ四萬三千四百五十八方里(六十七萬一千五百七十二
 平方吉米)ニシテ全地球上陸地面積ノ百分ノ〇・五ニ當リ世界各國ノ第二十四位ヲ

占メ埃匈國ト略同等ニシテ露國ノ三十四分ノ一清國ノ十七分ノ一ニ相當ス

二 人口

我カ國ノ總人口ハ約六千七百九十七萬ニシテ内臺灣ニ三百餘萬朝鮮ニ約一千二百萬ヲ有ス即チ之ヲ世界ノ人口ニ比スレハ其ノ百分ノ三、八八ニ當リ獨逸國ト埃匈國トノ中間ニシテ世界ノ第七位ヲ占メ露國ノ二、五分ノ一清國ノ七分ノ一強ニ當ル然レトモ其ノ密度ハ屬地ヲ含ムモ一方里ニ千四百七十三人ヲ算シ内地ノミニテハ一方里二千二百八人ニシテ世界中最密ナルモノノ一ニ屬シ白耳義和蘭及英本國ヲ除クノ外皆我カ下位ニ在リ而シテ目下海外ニ在ル者已ニ三十萬人ヲ算スルモ近時人口ノ増殖ハ年々五六十萬人ニ達スルヲ以テ尙ホ將來ニ於テ海外植民ノ發展ヲ期スルハ帝國ノ一要務タラスンハ非ラス

第三節 一般豫算、陸軍豫算

明治四十四年度(西曆千九百一十一年度)確定豫算額ノ概要左ノ如シ

歳入總計 五億五千二百三萬二千五百三十九圓

歳出總計 五億五千七百七十萬七千六百七十五圓

即チ之ヲ帝國ノ人口(朝鮮ヲ除ク)ニ配當スレハ一人ノ負擔額ハ概ネ拾圓七拾九錢ナリ(露ハ拾八圓七拾六錢佛ハ四拾壹圓餘獨ハ貳拾壹圓四拾七錢ナリ)今之ヲ過去兩三年ノ狀態ニ徵スルニ豫算總額ハ概ネ歳出入ノ均衡ヲ保チツツ年々二千萬圓内外ノ増加ヲ來セリ而シテ此ノ内陸軍費ハ

經常費 七千六百三十七萬二千三百三十六圓

臨時費 二千二百二萬千三百三十三圓

計 九千八百三十九萬二千三百六十九圓

ニシテ明治四十一年以後ニ於テハ總支出ノ一割六分乃至一割七分(千九百一十一年露ハ一割八分佛ハ二割八分獨ハ二割七分九厘)ヲ占メ國民一人ノ陸軍費負擔額ハ壹圓九拾貳錢(千九百一十一年露ハ參圓參拾七錢佛ハ八圓五拾參錢獨ハ五圓九拾七錢)ナリ

第二章 陸軍

一五二

第一節 陸軍ノ組織

日本帝國陸軍ハ常備軍、後備軍及國民軍ヨリ成ル

一 常備軍

常備軍ハ近衛及第一乃至第十八師團ヨリ成ル其ノ編制及訓練ハ全ク同一ニシテ共ニ歩騎砲工輜重ノ五兵種ヨリ成リ戰時野戰部隊ノ主部ヲ成形ス
砲兵ニハ野砲兵、山砲兵、重砲兵及騎砲兵ノ別アリ又工兵ノ内ニ鐵道、電信及氣球等特種ノ任務ニ服スル技術部隊アリ
師團ノ外臺灣及滿洲ニハ守備部隊アリ特種ノ徵募並編成法ニヨリ組織セラル其ノ他憲兵及軍樂隊等アリテ各特種ノ任務ニ服ス

二 後備軍

後備軍ハ戰時主トシテ後備兵ヲ以テ編成セラレ野戰軍ヲ援助シ又其ノ後方及内地ニ於ケル勤務ニ服スルモノトス

三 國民軍

國民軍ハ戰時國民兵役ニアルモノヲ以テ組織シ主トシテ地方ノ警備ニ任スルモノトス

第二節 中央統轄機關

陸軍至高ノ統帥權ハ大元帥タル 天皇ノ親ラ總攬シ給フ所ニシテ其ノ許ニ陸軍省、參謀本部、教育總監部ノ三者鼎立シ夫々軍政、軍令及教育ノ高等統轄機關ヲ成形シ其ノ各長官タル陸軍大臣、參謀總長、教育總監ハ等シク 天皇ニ直隸ス
陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人、軍屬ヲ統督シ技術審査部、築城部、軍馬補充部、馬政局及兵器被服、糧秣等ノ諸廠其ノ他所轄部ヲ監督ス
陸軍省ハ大臣官房、人事局、軍務局、兵器局、經理局、醫務局及法務局ニ區分セラレ軍政事項ヲ處理ス

參謀總長ハ帷幄ノ軍務ニ參畫シ國防及用兵ニ關スル計畫ヲ掌リ參謀將校ヲ統督シ其ノ教育ニ任ス又陸軍大學校及陸地測量部ヲ管轄ス

參謀本部ハ總務部第一乃至第四部ニ分タレ國防及用兵ノ事ヲ掌ル
教育總監ハ軍隊教育ノ齊一進歩ヲ規畫シ各兵科ノ實施學校其ノ他諸學校ヲ管轄
ス

教育總監部ハ本部及騎兵野戰砲兵重砲兵工兵輜重兵ノ各監部ニ區分セラレ各兵
監ハ當該兵科専門ノ教育ニ關シ齊一進歩ノ責ニ任ス

以上中央統轄機關ノ外特務機關トシテ元帥府軍事參議院及侍從武官府等アリ
元帥府ハ軍事上ノ最高顧問府タリ

軍事參議院ハ 天皇ノ諮詢機關ニシテ元帥陸海軍大臣參謀總長海軍軍令部長及
特ニ親補セラレタル陸海軍將官ヲ參議官トシ重要軍務ノ諮詢ニ應ス侍從武官府
ハ軍事ニ關スル奏上奉答命令ノ傳達及陪侍扈從ニ關スルコトヲ掌ル

第三節 地方統轄機關

全國(臺灣朝鮮樺太ヲ除ク)ヲ師團ノ配置ニ應シ十八師管ニ分チ各當該師團長ハ即
チ其ノ長官ニシテ各師管ハ徵兵召集事務ノ爲メ更ニ之ヲ通常四個ノ聯隊區ニ分

ツ

師團長ハ 天皇ニ直隸シ部下軍隊ヲ統率シ又師管内ノ聯隊區司令部ヲ管轄シ軍
事ニ關スル諸件ヲ總理ス但軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣國防及作戰事項ニ關
シテハ參謀總長教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ受ク

聯隊區司令官ハ師團長ニ隸シ管内徵兵召集ノ事務ヲ掌ル
右ノ外臺灣朝鮮及滿洲ニ駐屯スル部隊ハ臺灣總督朝鮮總督及關東都督ヨリ夫々
特別ノ條規ニヨリ統率ノ關係ヲ受ク又東京ニハ衛戍總督部アリテ帝都ノ衛戍勤
務ヲ統轄ス

第四節 兵役法及補充法ノ大要

一 兵役法

明治五年ノ徵兵令ニ基キ日本帝國臣民ノ男子ハ凡テ滿十七歳ヨリ滿四十歳マテ
一般兵役義務ヲ負フモノニシテ之ヲ分チテ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵
役トス

現今ニ於ケル各兵役ノ年限左ノ如シ

現役 三箇年(歩兵ハ二年ノ後歸休ス)

常備役 豫備役 四年四箇月

後備役 十箇年

補充兵役 十二年四箇月

現役兵及補充兵ハ毎年滿二十歳(志願兵ハ滿十七歳以上)ニ達シタル者ヨリ検査ノ上所要ノ人員ニ應シ抽籤ノ法ニヨリ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ豫備役ハ現役ヲ終リタル者、後備役ハ常備役ヲ終リタル者之ニ服ス

補充兵役ハ其ノ年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ内所要ノ人員之ニ服ス

國民兵役ハ左ノ如ク區分セラル

第一國民兵役 後備兵役又ハ召集セラレタル補充兵ニシテ其ノ役ヲ終リタル者之ニ服ス

第二國民兵役 常備、後備、補充及第一國民兵役ニアラサル者之ニ服ス
右ノ外一年志願兵及六週間現役兵ノ制アリ前者ハ中等教育ヲ修了セル者ノ内豫

後備將校タル冀望ヲ有スル者ノ爲メ又後者ハ官立、府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立、公立小學校ノ教職ニアル者ノ爲ニ之ヲ設ク
凡テ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルノ權ヲ有セス

一二 補充法

現役各兵科士官ノ補充ハ毎年採用スル當該兵科士官候補生ニシテ所定ノ課程ヲ經テ少尉ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ但憲兵科士官ハ他兵科ノ士官ヨリ轉科セシム

士官候補生ハ中央幼年學校卒業者及中等教育ヲ修了セシ志願者(二年志願兵及現役各兵科下士ニシテ所定ノ資格ヲ有スル志願者ヲ含ム)中ヨリ之ヲ選拔ス
現役將校相當官中經理部士官ハ主計候補生ノ所定教育ヲ經タル者ヨリ又衛生部及獸醫部士官ハ各當該見習士官ヨリ之ヲ補充ス

主計候補生ハ中等教育ヲ修了セル志願者(一年志願兵及現役經理部下士中所定ノ資格ヲ有スル志願者ヲ含ム)中ヨリ之ヲ選拔シ又衛生部及獸醫部見習士官ハ帝國大學、依託學生、文部大臣ノ指定シタル當該專門學校依託生徒ニシテ卒業セル者又

ハ依托セラレサルモ前二號ノ課程ヲ了リタル者ヨリ之ヲ採用ス
豫後備役將校同相當官ノ補充ハ一年志願兵ヨリ任官セル者將校同相當官中現役
若ハ豫備役ヨリ轉入シタル者及豫後備准士官下士ニシテ士官ニ進級シタル者ヲ
以テ之ニ充ツ

現役各兵科下士ノ補充ハ主トシテ現役各兵科兵卒中下士ト爲ルコトヲ志願シ二
年以上在營シ下士タルニ適スル者ヨリ之ヲ採用シ尙ホ一旦退營セル下士伍長勤
務上等兵又ハ下士適任證ヲ有スル者ノ一部ヨリモ採用ス

現役各部下士ノ補充ハ概ネ右ニ準スト雖モ特ニ定メタル學校又ハ病院等ニ於テ
所定ノ課程ヲ修習セシム

豫後備役下士ノ補充ハ現役又ハ豫備役ヨリ轉入セル者現役伍長勤務上等兵タリ
シ者及適任證ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツ豫後備役各部下士ノ補充モ亦之ニ準
ス

各師團ノ兵卒ハ各兵科共當該師管ノ壯丁ヨリ之ヲ補充ス而シテ歩兵ハ各聯隊區
毎ニ一聯隊ノ要員ヲ出シ特科兵種ハ全師管内ヨリ之ヲ採用スルヲ常トス但徵兵

區ヲ有セサル團隊ノ兵員(例ヘハ近衛部隊騎兵第三第四旅團鐵道隊等ノ如シ)ハ各
師管又ハ數師管ヨリ之ヲ徵集ス
近年徵兵人員ハ適齡者ノ百分ノ二十二乃至二十三ヲ占ム

第五節 將校下士並同相當官

一 將校同相當官

陸軍將校タル可キ者其ノ幼年學校ヨリスル者ト否ラサル者トヲ問ハス多數志願
者中ヨリ選抜セラレ齊シク中學校以上ノ教課ヲ修了セル者ニシテ其ノ士官候補
生トシテ入隊スルヤ先ツ主トシテ下士兵卒ノ業務ヲ修得シ軍隊ノ内情ニ親炙シ
タル後(在隊一年幼年學校ヨリスル者ハ半年)士官學校ニ入校シ茲ニ初級士官ニ必
要ナル軍事教育ヲ受ク而シテ該校卒業ノ後ハ見習士官トシテ約半年士官ノ實地
勤務ヲ研究シ將校團ノ可決ヲ經テ任官セシメラル

現役將校ハ各常備聯隊同獨立隊等毎ニ又豫後備將校ハ各聯隊區(警備隊區)毎ニ將
校團ヲ設ケ團長(聯隊長)聯隊區司令官等ノ統率ニ因リ軍人精神ノ涵養團結心ノ鞏

固軍事智識ノ増進ニ勉ムルモノトス將校相當官ニアリテモ亦之ニ準スル規定アリ
 將校ハ少尉ヨリ大將ニ亘ル九階級ヨリ成リ大佐以下ニ在リテハ各兵科ニ分ル
 元帥府ニ列セラルル大將ニハ特ニ元帥ノ稱號ヲ附與セラル
 將校ノ現役年限年齢實役停年最下限俸給左ノ如シ

區分	階級	
	大將	中將
現役年限年齢	六十五歳	六十二歳
實役停年最下限	三	三
在職俸年額	七五〇〇	五〇〇〇
	三九〇〇	二九四〇
	二九四〇	二一九六
	一五四八	九三〇〇
	六八四	五五二
	四八〇	

戰時ニアリテハ各官ノ實役停年ヲ其ノ半ニ減シ進級セシムルコトヲ得
 現役十一年以上ヲ服役シ現役ヲ去リタル者又ハ公務上傷痕疾病ニ罹リ退職シタル者等ニ對シ恩給法ノ規定アリ
 進級法ニハ停年ヲ以テスルト拔擢ヲ以テスルトノ二アリ階級ニヨリ彼此適用ス
 將校相當官ノ階級其ノ他モ亦概ネ右ニ準ス但其ノ階級中軍樂長ハ中尉相當官藥劑

官及獸醫官ハ大佐相當官ヲ以テ其ノ他ハ中將相當官ヲ以テ最上級ト爲ス

二 下士同相當官

下士ハ特務曹長、曹長、軍曹、伍長ノ四階級ヨリ成リ特務曹長ハ特ニ准士官ト稱シ入隊後八箇年ヲ經タル者ハ此ノ階級ニ進ムコトヲ得又特務曹長ヨリ少尉ニ進級スル特例アリ
 准士官ハ營外居住トシ在職俸年額六百八十四圓乃至三百九十六圓ヲ給ス
 曹長ヨリ伍長ニ至ル各下士ニハ營内居住者ト營外居住者トアリ前者ハ主トシテ隊附下士ニシテ其ノ官等及服務ニ應シ月額十九圓八十錢乃至四圓六十五錢ノ給料ヲ與へ後者ハ主トシテ隊外下士中所定年數ヲ服役シタル者ニシテ月額四十五圓乃至十五圓ノ給料ヲ與フ恩給ヲ受クルノ權ニ關スル條件ハ概ネ將校ノモノニ同シ
 下士相當官ノ階級其ノ他ニ關シテモ亦概ネ前述ノモノト異ナルコトナシ

第六節 常備軍ノ平時編制

平時軍隊編制ノ最大單位ハ師團ニシテ各師團ハ通常師團司令部、步兵二旅團、騎兵一聯隊、野砲兵一聯隊、工兵一大隊及輜重兵一大隊ヨリ成ル
若干ノ師團ハ騎兵旅團、野砲兵旅團、山砲兵大隊、警備隊、軍樂隊等ヲ有シ其ノ他重砲兵部隊及交通兵旅團ヲ統轄スルモノアリ
師團司令部ニハ參謀部、副官部、法官部、經理部、軍醫部、獸醫部アリテ各主任ノ事務ヲ整理ス

臺灣守備隊及滿洲獨立守備大隊ノ編制ハ線列部隊ト略、同様ナリ
各兵種團隊ノ編制左ノ如シ

一 歩 兵

歩兵部隊ハ旅團ヲ最高單位トシ旅團ハ二聯隊聯隊ハ三大隊、大隊ハ四中隊ヨリ成ル
大隊ニ於テハ經理、衛生ノ機關ヲ有ス

二 騎 兵

騎兵ニハ二種ノ編制アリ甲ハ最高單位ヲ旅團トシ旅團ハ三聯隊、一聯隊ハ五中隊ヨリ成リ乙ハ聯隊ヲ最高單位トシ聯隊ハ三中隊ヨリ成ル

聯隊ニ於テハ經理、衛生、獸醫ノ機關ヲ有ス

三 砲 兵

野砲兵ハ通常聯隊ヲ最高單位トシ聯隊ハ二大隊、一大隊ハ三中隊ヨリ成ル若干ノ聯隊ハ旅團ニ編合セラル

騎砲兵大隊ハ二中隊ヨリ成ル

山砲兵ノ最高單位ハ大隊ニシテ三中隊ヨリ成ル

重砲兵ノ編制ハ種種ニシテ旅團及獨立聯、大隊アリ各其ノ單位及編制ヲ異ニス
砲兵ニ於テハ聯隊若ハ獨立大隊ニ於テ經理、衛生及獸醫ノ機關ヲ有ス

四 工兵及交通兵

工兵ハ大隊ヲ最高單位トシ大隊ハ三中隊ヨリ成ル

工兵ニ於テハ通常大隊ニ於テ經理及衛生ノ機關ヲ有ス

交通兵ハ鐵道聯隊、電信隊及氣球隊ヲ以テ平時旅團ヲ編成ス

五 輜重兵

輜重兵ハ大隊ヲ最高單位トシ大隊ハ二中隊ヨリ成ル

輜重兵ニ於テハ大隊ニ經理及獸醫ノ機關アリ

第七節 平時兵力

常備團隊ノ兵力左ノ如シ

一 歩兵

師團(一九)

三十八旅團

對馬警備隊(一)

一大隊

臺灣守備步兵聯隊(二)

二聯隊

獨立守備隊(二)

六大隊

二 騎兵

師團騎兵

十七聯隊

騎兵旅團

四旅團(十聯隊)

三 砲兵

野砲兵

十七聯隊

- 野砲兵旅團
 - 山砲兵
 - 臺灣山砲兵
 - 騎砲兵
 - 重砲兵旅團
 - 同聯隊
 - 同大隊
 - 工兵
 - 鐵道隊
 - 電信隊
 - 氣球隊
 - 輜重兵
- 三旅團(八聯隊)
 - 三大隊
 - 二中隊
 - 一大隊(二中隊)
 - 二旅團(四聯隊)
 - 二聯隊
 - 十大隊
 - 四 工兵及交通兵
 - 十九大隊
 - 一聯隊
 - 一隊
 - 一隊
 - 五 輜重兵
 - 十九大隊

以上ノ外憲兵隊三十三隊軍樂隊四隊及懲治隊一隊アリ

第八節 平時兵力ノ配置

全國十八箇ノ師管ニ各一個ノ師團ヲ配置セリ但近衛師團ハ第一師管内ニ置ク今各地方ノ兵力ヲ大別シテ舉クレハ左ノ如シ

北海道 一師團

本州 十四師團

四國 一師團

九州 三師團

右ノ外朝鮮、臺灣、樺太及滿洲ニハ次ノ如ク内地ヨリ派遣シ或ハ特設部隊ヲ配置シ其ノ守備ニ任ス

朝鮮 駐劄師團 一個(内地ヨリ建制ノ師團ヲ交互ニ派遣シ駐劄セシム)

臨時朝鮮派遣隊 步兵聯隊二個

重砲兵 一大隊

臺灣 臺灣守備隊(臺灣步兵聯隊二個 臺灣山砲兵中隊二個)

重砲兵 二大隊

樺太 守備隊 二中隊

滿洲 駐劄師團 一個(内地ヨリ建制ノ一師團ヲ交互ニ派遣シ駐劄セシム)

獨立守備隊 六大隊

重砲兵 一大隊

第九節 要塞

最近戰役ノ結果我カ帝國ハ其ノ國土ノ一部ニ於テ露清兩國ト接壤ノ關係ヲ有スルニ至リシト雖モ從來ハ四圍環海ノ狀態ニアリシヲ以テ國防上ノ諸要塞ハ先ツ海岸ニ於テ之ヲ施設セラレタリ今其ノ現存スルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

東京灣、由良、藝豫、廣島灣、函館、舞鶴、下之關、佐世保、長崎、對馬、基隆、澎湖島、旅順、鎮海灣、永興灣

以上ハ其ノ規模ノ大小ニ應シ一等乃至三等要塞ニ分チ各要塞ニハ要塞司令部ヲ

置キ要塞ノ防禦ヲ計畫シ且其ノ管理整備ニ任ス

第十節 教育及學校

一 總說

帝國軍人ノ最モ重ンス可キ精神教育ノ基礎ハ忠節禮儀武勇信義質素ノ五事ヲ貫クニ一誠ヲ以テス可キヲ垂示シ給ヒシ夫ノ明治十五年一月四日ノ勅諭ニシテ將卒ノ夙夜服膺シテ怠ラサル所ナリ加フルニ我カ國古來ノ歷史的尙武心ト殊ニ武士道繼承者タルノ自覺心ハ相待テ帝國軍人ニ重要ナル特質ヲ附與スルモノトス教育ハ之ヲ分チテ軍隊教育及學校教育ノ二トシ兩者相俟テ其ノ完全ヲ期スルモノトス而シテ其ノ實施ハ各部隊長及學校長其ノ責ニ任スル所ニシテ其ノ統轄ハ概ネ教育總監ニ屬ス然レトモ參謀將校ノ教育ハ參謀總長ニ於テ又經理部衛生部等各部ニ於ケル教育ハ陸軍大臣ニ於テ之ヲ統督ス

二 軍隊教育

軍隊一般ノ教育ハ教育順次教令ノ指示スル所ニヨリ各兵科毎ニ之ヲ行ヒ毎年十

二月一日ヨリ翌年十一月盡日マテヲ教育年度トシ最初ノ四箇月ハ新兵ハ勿論古兵ニアリテモ主トシテ基本ノ教育ヲ施シ其レヨリ順次編合ヲ大ニシ野外ノ教育ヲ實施シ終ニ秋季演習ヲ以テ其ノ年度ノ教育ヲ終ル

又特種ノ教育例ヘハ諸工卒、特業者ノ教育ハ各其ノ特別ノ規定ニヨリ實施セララル下士ノ教育ハ下士候補者教育(第一、第二年度ニ分ツ)下士教育及下士特別教育ニ分チテ之ヲ行ヒ前者ハ下士タルニ必要ナル技能ノ養成ニ勉メ下士教育ハ益、下士ノ能力ヲ發達セシムルヲ目的トシ下士特別教育ハ下士ノ特別勤務ニ服シ若ハ滿期後處世ノ便ヲ得セシムル爲ノ教育トス

上等兵モ亦進級前約四箇月間下士候補者第一年度教育ニ相當スル特別教育ヲ受ケ引續キ其ノ後ニ及フ

將校ノ教育ハ通常將校團教育令ニ從ヒ將校團ニ於テ之ヲ行フ其ノ學科ノ主ナルモノハ圖上戰術、兵棋、現地講話、講話、測圖等ニシテ術科ノ主ナルモノハ馬術、軍刀術、銃劍術、射擊器械體操等ナリ又高等ノ用兵ヲ研究スル爲メ幹部演習旅行、參謀演習旅行及將官演習旅行アリテ師、旅團司令部參謀本部等ニ於テ之ヲ規畫實施ス

豫後備將校、下士卒ノ教育ハ勤務演習召集ニヨリ之ヲ行ヒ又將校ニアリテハ豫後備將校團、下士以下ニアリテハ各地方ニ設クル在郷軍人會ノ指導ヲ以テ之カ補助ヲナスモノトス

三 學校

左ニ各種類ニ區分シテ其ノ大要ヲ記セン

(一) 將校生徒ノ教育ニ任スルモノ

陸軍地方幼年學校 陸軍將校出身志願者ヲ選抜シテ生徒トシ軍事上ノ必要ヲ顧慮シテ普通學科ヲ教授シ軍人精神ノ涵養ヲ勉ム學校ハ全國ニ五個アリ(東京ニ於テハ中央幼年學校豫科之ニ相當ス)其ノ修學期ヲ三年トシ卒業ノ後中央幼年學校ニ入學セシム

陸軍中央幼年學校 本科及豫科ニ區分シ豫科ハ地方幼年學校ニ相當スルモノニシテ本科ハ豫科及地方幼年學校卒業者ヲ以テ生徒トシ士官候補生タルニ必要ナル普通學科及軍人ノ豫備教育ヲナス修學期ヲ約二年トシ卒業ノ上ハ士官候補生トシテ步騎、砲工、輜重兵科ノ各隊ニ配賦ス

陸軍士官學校

步騎、砲工、輜重兵科ノ士官候補生ヲ以テ生徒ト爲シ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス生徒ノ修學期ハ概ネ一年半トシ卒業ノ上ハ原隊ニ復歸シ見習士官ヲ命セラル

(二) 將校ノ教育ニ任スルモノ

陸軍大學校 步騎、砲工、輜重兵科ノ中、少尉中規定ノ資格ヲ備ヘタル者ヨリ撰拔シテ學生トシ高等用兵ニ關スル學術ヲ修習セシメ併セテ軍事研究ニ須要ナル諸科ノ學識ヲ増進セシムル所ニシテ修學期ハ三箇年トス

陸軍砲工學校

砲工兵科各隊ヨリ毎年分遣スル少尉ヲ以テ學生トシ砲工兵各科ノ勤務ニ必要ナル學術ヲ教授スル所ニシテ其ノ修學期ハ一年ヲ通常トシ(普通科)成績優秀ナル者ハ更ニ一年間在校修學セシメ(高等科)其ノ中若干名ヲ選抜シ帝國大學又ハ外國ニ於テ更ニ高尚ナル科學ヲ研究セシム

以下列記スル諸學校ハ毎年各隊ヨリ分遣スル將校並下士ニ當該兵科ノ爲メ實施的課程ノ教育及訓練ヲナシ以テ各隊ノ教育進歩ヲ計リ且之ニ連繫スル各種ノ調査研究ヲ行フ所ニシテ其ノ修學期ハ通常一年以内トス

陸軍戸山學校 戰術、射擊、體操及劍術ヲ以テ主要ナル課程トナシ戰術學生(步兵大、中尉ヲ主トス)體操學生(步、騎、砲、工、輜重兵、中、少尉及下士)譜調學生(各隊喇叭長)ノ別アリ其ノ他當校ニ軍樂生徒隊アリ

陸軍騎兵實施學校 戰術、馬術及通信術ヲ以テ主要ナル課程トシ戰術科學生(騎兵大、中尉)馬術科學生(騎兵中、少尉、下士)時トシテ他ノ乘馬兵科ノ中、少尉、下士ヲ學生トシ騎兵士官中優秀ナル一部ハ修學二年ニ亘ル)ノ別アリ

陸軍野戰砲兵射擊學校 射擊、戰術及通信術ヲ以テ主要ナル課程トシ甲種學生(砲兵大尉)乙種學生(砲兵大、中、少尉)ノ別アリ野山砲兵隊ヨリ分遣ス

陸軍重砲兵射擊學校 射擊及戰術ヲ以テ主要ナル課程トシ甲種學生(砲兵大、中尉)乙種學生(砲兵大、中、少尉)丙種學生(尉官及下士)兵卒ニシテ電燈使用術ヲ修習ス)ノ別アリ重砲兵隊ヨリ分遣ス

以上各學校ハ時トシテ佐官ヲ召集シ學生トナスコトアリ又是等諸學校ハ學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ當該學校内ニ大隊若ハ中隊ヨリ成ル教導隊ヲ置ク

(三) 各部將校相當官ヲ養成シ或ハ其ノ智識ヲ増進スルモノ

陸軍經理學校 主計候補生ヲ生徒トシ經理部初級士官タルニ必要ナル教育ヲ施シ又陸軍經理部士官中ヨリ選抜セル者ヲ學生トシ高等ノ學術ヲ修メシメ且經理ニ關スル學術上ノ調査ヲ行フ所トス

陸軍軍醫學校 衛生部士官及上長官ヲ以テ學生トシ衛生部ニ必要ナル學術ノ練習、軍陣醫學ノ研究及之ニ關スル調査、試驗ヲ行フ所ニシテ普通學生、專攻學生、上長官學生ノ別アリ

陸軍獸醫學校 獸醫部士官及下士ヲ學生トシ獸醫及蹄鐵ニ關スル必要ノ學術ヲ練習セシメ又之ニ關スル調査及試驗ヲ行ヒ且蹄鐵工長候補者ニ必要ノ教育ヲ施ス所ニシテ學生ニハ士官學生(甲、乙)及下士學生ノ別アリ

以上ノ外陸軍砲兵工科學校ナルモノアリ火工學生ニ火工術ヲ教授シ砲兵工長候補者ニ鞍工、銃工、木工、鍛工長タルニ必要ナル教育ヲ行フ所ニシテ學校ハ東京砲兵工廠内ニ置ク

第十一節 被服裝具

我カ國ノ陸軍軍人ハ凡テ戰場ノ實用ニ鑑ミ夏期冬期共茶褐色軍服ヲ以テ正規トシ徒歩兵ハ編上靴及卷脚袴ヲ乘馬兵種ハ長靴ヲ穿ツ

一 歩 兵

携帶彈藥ハ之ヲ帶革ニ附スル三個ノ彈藥盒及背囊ニ納ム裝具ハ背囊、雜囊及水筒ニシテ小被服、手入具、日用品ハ之ヲ背囊及雜囊ニ納メ又背囊ノ外部ニハ毛布、外套、飯盒、靴、工具及携帶天幕ヲ裝ス

二 騎 兵

騎兵ハ自己ノ身邊ニ武器ノ外彈藥盒及水筒ヲ裝スルモノニシテ其ノ他ハ凡テ鞍ニ附著ス携帶彈藥、彈藥盒ノ外尙ホ鞍囊ニ收メ又携帶破壞具及其ノ他ノ小被服、手入具、日用品ハ之ヲ鞍囊又ハ旅囊(外面ニ水囊ヲ附ス)ニ納メ外套、携帶天幕等ハ鞍尾ニ毛布ハ通常鞍下毛布ト共ニ鞍下ニ裝ス

三 砲 兵

野砲兵ノ裝具ハ馭者ニアリテハ概ネ騎兵ニ、砲手ニアリテハ概ネ歩兵ニ準シ、山砲

兵ハ一般ニ歩兵ニ準ス

重砲兵ノ裝具ハ乙種ニ屬スルモノハ馭者及砲手共夫々野砲兵ニ準シ甲種ニ屬スルモノハ殆ト歩兵ニ等シ

四 工 兵

工兵ハ歩兵ト同一ノ著裝ヲ有シ唯携帶彈藥ノ數ヲ異ニスルト携帶工具ノ大ナルヲ異ナリトス

五 輜重兵

輜重兵ノ裝具ハ騎兵ニ準ス但其ノ輸卒ハ歩兵ト同一ノ服裝ヲナシ背囊ニ代フルニ背負袋ヲ以テス

第十二節 武器

小銃及火砲ニ關シテハ卷末附表ニ詳ナリ

「ニカラガ」共和國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

「ニカラガ」國ハ中央亞米利加ノ中部ニ位置セル立憲共和國ニシテ其ノ憲法ハ千九百五年三月三十日制定セルモノニシテ立法權ハ國民議會ノ掌握スル所ナリ國民議會ハ一院制度ニシテ議員ノ任期ハ六箇年ナリ行政權ハ六年ノ任期ヲ有スル大統領ノ掌握スル所ニシテ内閣ハ外務兼文部省、大藏省、內務及司法警察省、陸海軍省及土木省ノ五省ヨリ成ル

第二節 面積、人口

「ニカラガ」共和國ハ中米諸國中最大ノ面積ヲ有シ總面積四萬九千二百方哩(十二萬

八千三百四十方吉米ニシテ我カ國ノ約六分一強)ニシテ其ノ人口六十萬人ヲ算シ一方哩ノ密度平均十二人ニ相當セリ國民ハ印度土人大部分ヲ占メ白人種ハ其ノ數甚タ稀ナリ主トシテ羅馬加特力教ヲ奉シ西班牙語ヲ使用ス

第三節 一般豫算及陸軍費

千九百九年度歲出豫算 一三、九七九、四八一圓

陸軍費 詳ナラス

第二章 陸軍

陸海軍ノ統轄ハ大統領ノ掌ル所ニシテ千九百九年度ノ陸軍法令ニ依レハ共和國ノ陸軍ハ步兵、騎兵及砲兵ヨリ成リ步兵ハ師團、旅團、大隊及中隊ニ騎兵及砲兵ハ旅團及中隊ニ編成シ其ノ常備兵數ハ年年國民議會ニ於テ之ヲ定ムルコトナレリ千九百十一年發行世界年鑑ニ依レハ十七歲以上五十五歲以下ノ男子ハ兵役ニ服

スルノ義務ヲ有シ其ノ現役年限ハ一箇年トアリ現時常備兵約四千人ヲ有スト雖モ戰時ニ當リテハ約四萬人ヲ召集シ得ヘシト云フ

新西蘭

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

新西蘭ハ英國ノ自治植民地ニシテ總督ハ英國國王ヲ代表シテ政權ヲ總攬シ併セテ兵馬ノ大權ヲ掌握スルモ一般ノ行政ハ十人ノ大臣ヨリ成ル責任内閣ノ任スル所ナリ立法權ハ總督及上下兩院ヨリ成ル議會ノ管掌スル所ナリ

第二節 面積人口

面積 十萬四千七百五十一方哩ニシテ我カ本州、四國、九州ヲ合シタルモノヨリ稍少ナシ

人口 千九百九年ノ調査ニ依ル人口ハ百二萬九千四百十七人ニシテ同年ニ於ケル我カ大阪ノ人口ヨリ約二十萬人少ナシ

第三節 一般豫算及陸軍豫算

千九百九年ニ於ケル總歲出額ハ八千五百七十四萬六千六百八十八錢ナリ陸軍豫算ハ不明ニ屬スレトモ右同年度ニ於テ國防及警察費トシテ三百九十四萬九千八百八十八圓八十錢ヲ支出セリ

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

現時ニ於ケル新西蘭陸軍ノ組織ハ濠洲陸軍ト同シク全ク渡過時代ニ屬スルモノナリ即チ千九百九年國防條例ヲ制定シ強制兵役制ニ基キ從來ノ義勇兵制度ヲ廢シ新陸軍ヲ編成セントシツツアル際同年末更ニ「キッチナー」元帥ノ提議ヲ採用シ濠洲陸軍ト同一ノ兵制トナシ十二歳ヨリ二十五歳マテノ男子ニ軍事訓練ヲ施シ陸上防備ノ第一線トシテ地方軍ヲ編制シ其ノ兵力ヲ濠洲陸軍ノ四分ノ一ニ等シカラシムル如ク目下諸制度制定中ニ在リ

第二節 中央統轄機關

一 總 督

總督ハ新西蘭ノ全兵權ヲ總攬シ諸條規ノ制定將校ノ任命備聘豫備將校ヲ編成スル等ノ權ヲ有ス

二 國防會議

新西蘭ノ一般國防ニ關スル方針ヲ決定スル爲メ國防會議ヲ置キ國防大臣(議長)參

謀本部長、財務長官ヲ以テ議員トス

三 監 軍

各兵種ノ訓練、戰鬥準備ノ成否ヲ檢閱ス

第三節 地方統轄機關

全國ヲ四管區ニ分チ各管區ハ更ニ數個ノ小管區ニ區分シ之ニ若干ノ常設幹部ヲ配屬シ地方軍ノ教育及徵募事務ニ従事セシム

第四節 兵 役

國事ノ區分及其ノ服役法ヲ定ムルコト左ノ如シ

幼年候補生 十二歳ヨリ十四歳マテノ男兒之ニ屬シ初步ノ軍事教育ヲ施ス

青年候補生 十四歳ニ達スルカ又ハ小學校ヲ退校セシ者之ニ屬ス

地方軍兵卒 青年候補生ニシテ十八歳ニ達シ體格健全ナル者ヲ以テ之ニ充テ

初メテ兵役ノ義務ヲ有ス

豫備 二十五歳乃至三十歳ノ者之ニ服ス
小銃俱樂部員 地方軍ノ野外豫備ニシテ會員ハ五十五歳マテ服役ノ義務ヲ有ス

第五節 常備軍ノ平時編制

歩兵 歩兵ノ最大團隊ハ旅團ニシテ歩兵四大隊ト信號兵一中隊ヨリ成ル
乘馬狙撃兵 乘馬狙撃兵ノ最大團隊ハ旅團ニシテ乘馬狙撃兵三聯隊ト信號兵一中隊ヨリ成ル
野砲兵 最大團隊ハ大隊ニシテ二箇中隊ヨリ成リ中隊ハ四門編制トス
工兵 中隊ニ編成ス

第六節 平、戰兩時兵力及其ノ配置

平、戰兩時共ニ總兵力約三萬人ニシテ野戰及海岸守備隊ニ編成セラレ各管區ニ歩兵一旅團、乘馬狙撃兵一旅團、野砲兵一大隊、海岸砲兵一乃至三中隊、野戰工兵一中隊其ノ他非戰鬪部隊ヲ配置ス即チ平時戰鬪部隊ノ隊數左ノ如シ

- 歩 兵 四旅團
- 乘馬狙撃兵 四旅團
- 野砲兵 四大隊
- 海岸砲兵 九中隊
- 野戰工兵 四中隊

第七節 教育及學校

軍事教育ニ任スル教官ハ國內ヲ巡行シ指定ノ場所及時間ニ於テ應召者ニ軍事的訓練ヲ加フ訓練所ハ成ル可ク雇主及被教育者ノ利害ヲ顧慮シテ配置セラル而シテ毎年實施ス可キ教育ノ最小限ハ左ノ如シ

- 青年候補生
- 教 練 五十回
- 半日部隊教練 六回
- 規定ノ小銃射撃

地方軍兵卒

教練

三十回(内二十回ハ野外教練)

部隊教練

半日宛十二回或ハ終日宛六回

野營演習

七日

規定ノ小銃射擊

豫備

部隊教練

半日宛二回

小銃射擊俱樂部員

規定ノ小銃射擊

將校養成ノ爲メ士官學校ヲ「ダントルー」ニ設ケ千九百十一年七月二十七日ヨリ開校セリ學校一般ノ組織ハ米國「ウエストポイント」士官學校ニ準シ修學期ヲ四年トシ卒業後一箇年英國又ハ印度ノ英國軍隊ニ隊附ヲ爲シタル後各聯隊ニ配屬セラルルモノトス

「ボリビア」共和國

第一章 國勢ノ概要

第一節 政治組織

「ボリビア」國ハ南米大陸ノ中部ニアル共和國ニシテ現行憲法ハ千八百八十年十月二十八日制定ノモノヲ基礎トシ自後多少ノ補修ヲ加ヘタルモノナリ南米各國憲法中最モ自由ヲ尊重シ各獨立セル立法行政及司法ノ三機關ニ依リテ國政ヲ分掌シ尙ホ國內各市ニモ自治制ヲ布キ以テ人權尊重及擔保ヲ確實ナラシム
立法權ハ之ヲ議會ニ委任シ議會ハ上院及下院ノ二ニ分ツ
上院ハ十六人ノ議員(各州ヨリ一人宛)ヨリ成リ六年ノ任期ヲ有シ二年毎ニ其ノ三分一ヲ改選シ下院ハ七十二人ノ議員ヨリ成リ四年ノ任期ヲ有シ二年毎ニ其ノ半數ヲ改選ス兩院議員共ニ人民ノ直接選舉ニ據ルモノトス

大統領ハ最高行政權ヲ掌握シ其ノ下ニ五省ヨリ成ル内閣ヲ設ケテ政務ヲ分掌セシム而シテ其ノ任期ハ四年ニシテ人民ノ直接選舉ニ係リ引續キ再選ヲ許サス
 大統領ノ外ニ副大統領二名アリ大統領ト同時ニ同ノ方法ヲ以テ選出セラレ其ノ任期モ亦大統領ニ同シ大統領事故ノ爲メ其ノ職ヲ失フカ或ハ戰時軍隊ノ最高指揮官トナリタルトキハ第一副大統領(平素ハ上院議長)之ニ代リ第一副大統領事故アルトキハ第二副大統領之ニ代ハルモノトス
 内閣五省ノ名稱左ノ如シ

- 一 農務及殖産省
- 二 外務及宗教省
- 三 大藏及工務省
- 四 司法及文部省
- 五 陸軍省

各大臣ハ主任ノ法律條例ニ副署ヲナシ主務事項ニ關シテハ大統領ト共ニ議會ニ對シ連帶責任ヲ有ス
 司法權ハ中央及地方ニ分チ全國ヲ若干ノ裁判區ニ區分シテ之ヲ行使ス
 中央機關トシテハ首府ニ一個ノ最高法院ナルモノヲ設ケ地方機關トシテハ高等地方裁判所普通地方裁判所豫審裁判所等アリ

行政上國內ヲ八州及一國有屯田地方ニ區別シ州ハ若干ノ縣ニ縣ハ若干ノ郡ニ小分シ縣ノ總數四十五郡ノ總數大郡三百六十二小郡九十六アリ各州ニハ大統領ノ選任スル知事アリテ四年毎ニ交代シ政務行政及財務ノ三機關ヨリ成ル州廳ヲ有シ中央政府ニ直屬ス

第二節 面積、人口

「ボリビア」ハ南米大陸ノ中央部ニ於テ「アンデス」大山脈並「アマゾン」及「ラブラタ」二大河ノ上流地域間ニ含マレタル山國ニシテ總面積約六十萬五千四百方哩(百四十七萬百九十六方吉米)ヲ有シ南米諸國中第三位ニシテ(第一伯刺西爾第二亞爾然丁)露國ヲ除キタル歐洲諸國ヲ合シタルモノヨリモ大ナリ
 千九百八年ニ於ケル人口統計ニ依レハ全人口二百四萬九千八十三人ヲ算シ一方哩ノ平均密度三人三八ニ相當セリ印度人最モ多ク百分ノ五十ヲ占メ之ニ次テ混血種(百分二十六)白人(百分十二)種別シ難キモノ(百分九)黑人(百分〇・二)等アリ而シテ外國人中最モ多數ナルハ伊國人ニシテ西班牙、佛獨、埃之ニ次ク

當國ハ憲法上羅馬舊教ヲ以テ國教ト定メ國有屯田地方ニ於ケル外ハ全然他教ノ信仰ヲ禁止セリト雖モ外國人ニ對シテハ敢テ信仰ノ制限ヲ如フルコトナク其ノ自由ニ委セリ
國用語ハ西班牙語ナレトモ民間ニ於テハ印度語廣ク通用ス

第三節 一般豫算及軍事費

千九百七年度歲出總額 二八、一五三、八五〇圓
陸軍豫算 五、七六七、二二七圓
同

第二章 陸軍

第一節 陸軍ノ組織

常備軍及國民軍ヨリ成ル

第二節 中央統轄機關

平戰兩時ニ於ケル陸軍ノ最高權ハ議會ノ承認ヲ經テ大統領之ヲ掌握シ其ノ下ニ内閣ノ一省トシテ陸軍省ヲ設ケ陸軍大臣ハ全陸軍ノ指揮、教育、人事、徵募、經理及軍法等ニ關シ大統領及議會ニ對シ責任ヲ帶フト雖モ實際ニ於テハ陸軍ニ關スル法律省令ノ發布及經理、衛生、軍律ニ關スル事件ノ外ハ一切之ヲ參謀本部長ニ委任セリ即チ佛國少將「セニール」氏ハ千九百五年末ヨリ該國陸軍全權ノ委任ヲ受ケ國防作戰、教育、編制及徵募等ノ改良ニ著手シタリ
參謀本部ハ總務部ノ外之ヲ三局ニ分チテ事務ヲ分掌セシメ該國ノ將校(中佐)ヲ以テ各局長トナシ各局ノ事務ヲ分掌セシムト雖モ實際ニ於テハ「セニール」少將ハ他ノ佛國將校三名ノ補佐ヲ受ケ自ラ萬事ヲ處理シツツアリ
各地ニ屯在セル各兵種團隊及諸學校ハ各個各別ニ參謀本部ニ直屬ス

第三節 徵兵及兵役

徵兵法ハ千八百九十五年以來國民皆兵ノ義務兵制トシ滿二十一歳ヨリ四十歳マ